

令和2年度 吉備国際大学
第24回自己点検・自己評価委員会総会

日時：令和3年2月25日（木） 13:00 ～ 16:00

会場：吉備国際大学

高梁キャンパス・岡山キャンパス

南あわじ志知キャンパス、岡山駅前キャンパス

Microsoft Teams によるオンライン開催（ハイブリッド方式）

目 次

| | |
|----------------|-----|
| 建学の理念 | i |
| はじめに 学長 眞山滋志 | ii |
| 総会プログラム | iii |
| 自己点検・自己評価報告 | |
| 経営社会学科 | 1 |
| スポーツ社会学科 | 5 |
| 看護学科 | 11 |
| 理学療法学科 | 16 |
| 作業療法学科 | 25 |
| 社会福祉学科 | 32 |
| 心理学科 | 36 |
| 子ども発達教育学科 | 40 |
| 地域創成農学科 | 44 |
| 醸造学科 | 48 |
| 外国学科 | 52 |
| アニメーション文化学科 | 58 |
| 通信教育部子ども発達教育学科 | 61 |
| 社会学研究科 | 65 |
| 保健科学研究科 | 69 |
| （通信制）保健科学研究科 | 79 |
| 心理学研究科 | 86 |
| （通信制）心理学研究科 | 89 |
| 地域創成農学研究科 | 91 |
| （通信制）連合国際協力研究科 | 95 |
| （通信制）知的財産学研究科 | 97 |
| （通信制）社会福祉学研究科 | 98 |
| 教育活動について | 100 |
| 研究活動について | 102 |
| 学生活動について | 104 |
| 日本語教育について | 106 |
| 図書館について | 108 |
| 情報教育について | 111 |
| 就職活動について | 113 |
| 入試広報活動について | 115 |

学校法人 順正学園

建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

加野



はじめに

学長 眞山 滋志

吉備国際大学は、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」という建学の理念のもと、豊かな人間性と確かな実践力を育み国際的に活躍できるスペシャリストの養成を目指した教育研究を通じて、多くの有為な人材を社会に輩出しています。

本学は、1990年に高梁市に創立され、高梁、南あわじ志知、岡山および岡山駅前キャンパスに計6学部12学科と留学生別科を擁する総合大学です。高梁キャンパスに社会科学部、保健医療福祉学部、心理学部、アニメーション文化学部と大学院博士（前期・後期）課程（3研究科）および通信教育部心理学部と通信制大学院、南あわじ志知キャンパスに農学部および大学院地域創成農学研究科博士（前期・後期）課程、岡山キャンパスに外国語学部、岡山駅前キャンパスに留学生別科を設置しています。また、欧米やアジアの大学・美術館等と国際交流も積極的に進め、現在約400名の留学生が在学しています。本学は地域創成に実践的に役立つ人材を養成する大学として高い評価を受けており、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（平成25～29年度）および「私立大学研究ブランディング事業」（平成29年度～令和元年度）にも選定されています。

毎年、全学的に自己点検・自己評価総会を開催し、当該年度の総括を行います。本書は各学部・学科・研究科の第二期中期目標・中期計画（2019-2022）第2年度の実行状況と展望および入試広報・就職・留学生対応等の活動の総括を綴った報告書です。

本年は、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大を受けて全国に緊急事態宣言が出される中、入学式と修学ガイダンスを中止し、4月は閉校としました。この非常事態に教職員は一丸となり学生の履修の保障を最優先に対処し、急遽、夏季休暇短縮型カリキュラムへの改変、感染防止ガイドラインの策定と遵守徹底を行うとともにオンラインによる遠隔授業実施体制を確立し、連休明けから遠隔授業を開始しました。非常事態宣言が全国的に解除されたことを受け6月末からは対面授業を実施しました。実習等の講義や海外の留学生には適宜遠隔授業を併用しつつ、学生のキャンパスライフを可能にしました。年度末まで無事継続できることを願っています。

大学の持続的な魅力発信にはPDCAサイクルの実行による課題の認識と改善策の実行が不可欠です。本年得た最大の課題は遠隔授業システムの有用性を認識できたことだと思います。今後教育の質の向上に向けて対面授業に遠隔授業を取り入れたハイブリッド形式についての検証が必要です。加えて、本年度は、新理事長がご就任されたのを機に心機一転本学の未来を展望して、新たな大学ブランドビジョン「3つの力（実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力）を養成する。」および大学名タグライン「輝け、自分。羽ばたけ、未来へ！」を定め、その具現化に向けた教育内容の改革改善方針の策定に取り組むことに致しました。

教職員一同今後とも、未来に輝き羽ばたける学生の養成に全力で取り組んで参ります。

令和2年度吉備国際大学自己点検・自己評価委員会総会

日時：令和3年2月25日（木）13：00～16：00
 場所：高梁キャンパス・岡山キャンパス・南あわじ志知キャンパス・岡山駅前キャンパス
 Microsoft Teams によるオンライン開催（ハイブリッド方式）
 総合司会：副学長 大原 秀行【オンライン】

－ プログラム －

「理事長・総長挨拶」【オンライン】 理事長・総長 加計 勇樹 (10分)

1. 開会にあたり：中期目標・中期計画（第2期2年度）の総括【オンライン】
 自己点検・自己評価委員会委員長 学長 眞山 滋志 (10分)

2. 自己点検・自己評価

(1) 学科・研究科

「学科」【録画発表】

| | | | |
|----------------|-----|--------|-----------|
| 経営社会学科 | 学科長 | 李 分一 | (5分) |
| スポーツ社会学科 | 学科長 | 山口 英峰 | (5分) |
| 看護学科 | 学科長 | 田中 富子 | (5分) |
| 理学療法学科 | 学科長 | 齋藤 圭介 | (5分) |
| 作業療法学科 | 学科長 | 京極 真 | (5分) |
| 社会福祉学科 | 学科長 | 石田 敦 | (5分) |
| 心理学科 | 学科長 | 森井 康幸 | (5分) |
| 子ども発達教育学科 | 学科長 | 川上 はる江 | (5分) |
| 地域創成農学科 | 学科長 | 谷坂 隆俊 | (5分) |
| 醸造学科 | 学科長 | 福田 恵温 | (5分) |
| 外国学科 | 学科長 | 畝 伊智朗 | (5分) |
| アニメーション文化学科 | 学科長 | 清水 光二 | (5分) |
| 通信教育部子ども発達教育学科 | 学科長 | 栗田 喜勝 | (5分) |
| | | | 【休憩】(10分) |

「研究科」【書面発表】

| | | |
|--------------|------|-------|
| 社会学研究科 | 研究科長 | 姜 明求 |
| 保健科学研究科 | 研究科長 | 高橋 淳 |
| 通信制保健科学研究科 | 研究科長 | 高橋 淳 |
| 心理学研究科 | 研究科長 | 三宅 俊治 |
| 通信制心理学研究科 | 研究科長 | 三宅 俊治 |
| 地域創成農学研究科 | 研究科長 | 谷坂 隆俊 |
| 通信制連合国際協力研究科 | 研究科長 | 末吉 秀二 |
| 通信制知的財産学研究科 | 研究科長 | 生駒 正文 |
| 通信制社会福祉学研究科 | 研究科長 | 高橋 睦子 |

【(2)～(9)録画発表】

| | | | |
|--|---------------|-------|-----------|
| (2) 教育活動について（3つのポリシー、教育の可視化対策、オンライン授業など） | 教育担当副学長 | 大原 秀行 | (5分) |
| (3) 研究活動について | 研究担当副学長 | 河村 顕治 | (5分) |
| (4) 学生活動について（新型コロナウイルス感染症対策、留学生受け入れ体制など） | 学生部長 | 前嶋 英輝 | (5分) |
| (5) 日本語教育について | 日本語教育部会部会長 | 大下 朋子 | (5分) |
| (6) 図書館について | 図書館長 | 栗田 喜勝 | (5分) |
| (7) 情報教育について | 情報教育センター分室長 | 佐藤 匡 | (5分) |
| (8) 就職活動について | キャリアサポートセンター長 | 加藤 博仁 | (5分) |
| (9) 入試広報活動について | 法人本部入試広報室長 | 的場 嘉男 | (5分) |
| | | | 【休憩】(10分) |

3. 講評【オンラインまたは書面講評】 評価委員 (20分)

4. 閉会の挨拶【オンライン】 学長 眞山 滋志

| | | | |
|------|----------|-----------|---------|
| 評価委員 | 高梁市教育委員会 | 教育長 | 小田 幸伸 氏 |
| | 高梁市教育委員会 | 教育次長 | 武並 信二 氏 |
| | 高梁商工会議所 | 会頭 | 藤岡 孝 氏 |
| | 高梁商工会議所 | 専務理事・事務局長 | 遠藤 正博 氏 |
| | 学校法人順正学園 | 監事 | 山崎 貴夫 氏 |

自己点検・自己評価報告

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 経営社会学科

学科長名 : 李 分一

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

※「実用的な経営学・社会学の融合的学びと、その地域実践」A（優）、B（良）、C（可）

①アドミッションポリシー B(入学者受け入れ方針B、求める人材像B、入学までに学んでほしいことC)

②カリキュラムポリシー B(教育課程の編成・実施A、教育方法B、成績評価B)

③ディプロマポリシー B(知識理解C、思考判断B、技術・行動B、態度B)

⇒現在、新たな学科ポリシーは、大学3つのポリシーに沿って検討中（井勝 Task Force）

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

1. 単行本

①井勝久喜（2020）「企業の社会的責任とSDGs」西井麻美、池田満之、治部眞里、白砂伸夫編著『ESDがグローバル社会の未来を拓く』ミネルヴァ書房、pp. 130-144.

2. 研究論文

①赤坂真人（2020）「中国における看護師の勤務実態—中国内蒙古自治区フフホト市での調査を通して—」『吉備国際大学研究紀要』（人文社会系）.

②大西正泰「地域づくりの史的研究～徳島県上勝町を事例にして～」地域活性学会査読提出論文（審査中）：「地域づくりの史的研究～徳島県上勝町を事例にして（2）～」吉備国際大学研究紀要（提出予定）.

③姜明求「中国市場における韓国商品の信頼度：河南省と武漢」共著、吉備国際大学大学院社会学研究科論叢（第21号）、pp. 143-166：「創発的キャリア教育の蓋然性—キャリア発達理論に関する先行研究より」共著、吉備国際大学大学院社会学研究科論叢（第21号）、pp. 27-95；中国市場における韓国商品の信頼度：北京・天津と武漢」共著、吉備国際大学研究紀要人文・社会科学系（第30号）、pp. 45-59.

④黒宮亜希子（2020）「A Trial Study in Visualizing Social Resources with Geographic Information Systems (GIS) in Japan」『吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要』第21号、pp. 35-42：（2021）「地理情報を活用した地域における「通いの場」とその潜在的ニーズに関する研究」『吉備国際大学研究紀要人文・社会科学系』第31号（頁未確定）；（2021）「オープンデータを用いた学習素材としての地域分析の実践例」『グローバルデザイン論攷』Vol.5 No.1（編集中：頁未確定）.

⑤李分一（2020）「2019年の視点から見た1965年の日韓国交正常化」『吉備国際大学大

学院社会学研究科研論叢』(第21号), pp. 21-31.

3. 科学研究費

黒宮亜希子, 科学研究費若手研究「地理情報システム (GIS) による過疎地域の生活支援サービスの可視化」(継続)

4. 学会発表等

①稲元洋輔「トラックドライバーという職業イメージの構造—企業規模による差に着目して」(第93回日本社会学会大会 2020年10月)

②大西正泰「徳島県上勝町における地域づくりの変容(1)~株式会社いりどりの分析を通じて~」地域活性学会発表(オンライン・2020年9月12日、13日)等の、数多くの発表および調査(と協力)活動

3) 地域連携活動(各種ボランティア活動、共同研究等)

※地域社会に仕える人材の育成(「教育から修学へ、修学から実践へ」)

①地域社会との関わり:(黒宮)岡山県備中県民局協働事業審査委員会委員・高梁市男女共同参画審議会委員・高梁市自立支援協議会委員、(大西)岡山県西栗倉村主催アイデアピッチコンテスト審査員等の務め

②共同研究:(大西)徳島県上勝町とのヘルスツーリズム 新メニュー開発づくり;徳島県勝浦町とのヘルスツーリズムメニュー開発(2020年12月5日モニターツアー実施)等の取り組み

③地域連携協定・地域協力:(大西)岡山県西栗倉村(地域連携協定);島根県津和野町津和野高校との連携(「津和野会議」サポート):明治大学都市建築デザイン小林正美研究室が行う高梁市本町・守内邸改修事業の協力(ボランティア)等の数多くの活動

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動(ITの活用等を含めて)

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

※本学科における「実社会に仕える実用・実践教育/修学」の広報

①学科紹介新リーフレットの作成と学科Facebookページ・ブログ等のIT活用の情報発信

②非対面オンライン・対面型情報発信の活動:(大西)大阪商工会連合会主催「起業家教育」(オンライン講演・10月13日収録):「津和野会議」第2部モデレーター(島根県津和野町・2020年12月5日):令和2年度岡山県高等学校農業教育協会講演会(高梁城南高校2020年12月18日):(大西)令和2年度広島県賀茂高校講演会(2020年12月10日)

③(竹岡)井原高校 生徒(大学訪問)への模擬授業(2020年12月10日)

④(井勝)学生プロジェクト「選挙にいこうぜプロジェクト」山陽新聞、岡山経済新聞(ネット新聞)掲載

III. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

※最も優しく面倒見の良い様々な修学支援（関係部署との連携）

■2020年12月末の現在、在学生274名のうち、退学者1名（0.4%）・除籍者1名（0.4%）、計2名（0.7%）

❖（学科）学生の悩み・困難事項への包括的かつ個別的な対応（情報共有・チームワーク支援体制）

①成績不振者（GPA1.5以下）25名と退学勧告対象学者（GPA1.0以下）9名に対する三者面談・指導（日本人学生＝保護者・先生・学生、留学生：学科長・先生・留学生）の徹底と、必要に応じて常時面談の実施

②3回連続欠席者への各チューター・ゼミ先生の対応とその結果の共有

③就職支援（内定取得現役学生、卒業生、他大学OBOGなどの就職活動動画をTeamsにアップ）

④各ゼミごとの定期的な個別面談及びゼミSNSを用いた学生間の情報共有の可視化

⑤ゼミ単位の茶話会（クリスマス会等）等の実践（感染対策の上で）

⑥ゼミの開放（まちづくりの相談窓口として、いろいろな学生、社会人が集える場所に）

⇒教員一丸になって、具体的・実質的な学生の学修・学校生活満足度の向上とその可視化に取り込む

IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

※新型コロナウイルス感染症対策：各種ガイドラインに基づいた管理の徹底化（非常時におけるマスク着用等の、「慣れないものを慣れる」ように常時指導）

❖（井勝）新型コロナ感染防止対策注意事項の翻訳（中国・韓国・ベトナム・インドネシア・スリランカ語）

①入室・退室時の手指の消毒（指定席 授業）

②ソーシャル・ディスタンス（3人以上の密集ダメ）の徹底化

③マスク・消毒・検温の生活化

④教室・研究室換気の日常化

⇒教授会などでハラスメント等の注意喚起

V. 省エネ対策の取組

※現実的で実現可能な親環境型の省エネ対策の実践

①授業後の教室内エアコン・照明・視聴覚機器などのスイッチ切り確認の徹底化

②夏冬授業中の教室内設定温度（冷房27℃、暖房20℃）維持の日常化

③エアコンなどの使用時間の短縮化

④研究室内の電源オフ（特にパソコン等）の常時化

⇒ゴミの分別・減量などの環境美化活動の生活化

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

※学生の満足と時代のニーズに沿ったカリキュラム改革と時間割調整および基礎演習等の検討（黒宮 Task Force）

①新たな学科（2020年度新任教員と2021年度新教員下の再出発）

②2021年度 経営社会学科新カリキュラムの作成（保育士資格取得の追加）

③2021年度 時間割・基礎演習等の大幅な見直し（旧子発との融合・調整）

⇒新旧教員下の新たな研究・教育仕組みの準備作業

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : スポーツ社会学科

学科長名 : 山口 英峰

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

<今年度目標>

■各種資格試験、教員採用試験における合格率の向上

- ・中高教員採用試験(保健体育)：現役合格者の輩出、一次試験合格率 50%
- ・健康運動実践指導者資格試験合格率：100%
- ・健康運動指導士合格率：全国平均以上
- ・日本スポーツ協会認定資格試験合格率：100%
- ・日本サッカー協会公認C級コーチライセンス合格率：100%

■各種資格試験、教員採用試験における支援体制の充実

<取組>

■各種資格試験、教員採用試験における合格率向上に向けた支援体制システムの構築

- ① Microsoft Forms を活用した模擬試験（教員作成）の実施
- ② Microsoft Teams を活用した集団および個別指導の実施
- ③ 動画を活用した実技試験対策の実施
- ④ グループ LINE を活用し、資格に関する情報の提供
- ⑤ 成績不振者に対する個別指導の実施
- ⑥ 外部講師による指導

*上記①～③は新型コロナウイルス感染予防の取組として実施した。

<成果と課題>

- ・中高教員採用試験(保健体育)：受験者3名のうち合格者0名
- ・その他の資格試験：結果は3、4月に発表予定

今年度は新型コロナ感染拡大に伴い対面での支援が困難であり、オンラインでの支援では十分成果があがらなかったと考えられる。来年度も引き続き、新型コロナ感染症への対応が必要であることを想定し、オンラインを活用した学習支援の更なる強化に努めたい。また、教員採用試験対策として模擬授業ができる施設を早急に準備できるよう、各部署と連携し、実現に向けて取り組む。

<その他>

■カリキュラムについて

2021年度カリキュラムに新たに導入予定の「実践指導力向上プログラム」につい

て、高梁市民を対象とした運動指導、体力測定が実現できる仕組みを構築した。来年度より「運動療法」「体力学演習」の講義内容として本プログラムを導入する。

■学生満足度について

春学期の授業評価では、オンライン講義が中心であったが、学科として前年度より0.1ポイント増加した(4.34→4.48)。コロナ禍にありながらも学修における一定の満足度を得られた。一方、全体的に単位認定試験の成績が低下したとみられることから、今後のオンラインの活用方法について検討が必要である。

■学力の二極化について

学科における学生の学力格差が年々広がっている。全ての学生に対し、学力保障をする必要があり、引き続き検討課題である。

■学生間におけるコミュニケーション能力の養成について学生生活の充実のために、部活動のつながりだけでなく、「縦・横・全体のつながり」を強化していきたい。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

<今年度目標>

科研費：新規応募3件・採択1件

その他：学科内共同研究の推進・他大学との共同研究の実施

<成果と課題>

科研費：新規応募5件・採択1件

その他：新規学科内共同研究プロジェクト2件・他大学との共同研究5件

受託研究1件・研究論文4編(昨年度：5編)・学会発表13回(昨年度：27回)

講演：4回(昨年度14回)

■受託研究について

受託研究は4年目を迎えた。本受託研究は学科における事業および研究という位置づけである。学科教員および学生が中心となり、高梁市民を対象とした健康教室ならびに体力測定を実施している。

本年度は新型コロナウイルス感染予防のため健康教室および体力測定の90%以上を中止としたが、WEB(リモート)健康教室、自然を活用した運動指導(タンデム自転車など)を実践し、新しい取組にも挑戦した。来年度も引き続き受託研究を継続し、高梁市民の健康寿命延伸に貢献する。

■研究活動全般について

各教員が個人研究、共同研究により成果をあげている。今年度、学科内新規共同研究が2件増えたことにより学科教員が協力し、チームとして研究を実施した。また、地域と連携した健康教室および体力測定に関連する研究・解析が進んでおり、毎年1本は研究論文として公表している。研究を通して知的探究心を学生と共有することができ、研究成果を学生教育に還元できたものとする。学会および講演は新型コロナウイルス感染予防のため中止が多く、例年よりも少ない数となった。

今後も国内外に多くの知見を発信できるよう、継続的に研究を行える時間の確保、環境整備に取り組む。

■研究業績(今年度実績)

- Hayashi K, Yamaguchi H, Amaoka H, Takahara T, et al., : Equol producing status affects exercise training-induced improvement in arterial compliance in postmenopausal women. J Appl Physiol. 2020 in press
- Takahara T, Yamaguchi H et al., : Sensory gating and suppression of subjective peripheral sensations during voluntary muscle contraction. BMC Neurosci. 2020 Oct 1;21(1):41. doi:10.1186/s12868-020-00592-2
- 孫基然：古図版式方向及び相關諸問題. 湖南省博物館館刊(第16集). 310-321. 2020
- 黒木悟, 孫基然：漢方治療が奏功した陽気虚を伴う味覚障害の2症例. 漢方の臨床. (11)1089-1094. 2020

3) 地域連携活動(各種ボランティア活動、共同研究等)

<今年度目標>

高梁市委託事業の継続および拡大：健康教室・体力測定を昨年度と同様に実施、新たな事業展開

<取組と課題>

■地域貢献

連携：高梁市健康づくり課

2016年度より、高梁市民を対象とした4講座の健康教室をフィットネススタジオ、フィットネスラボにて展開してきた。今年度は新型コロナウイルス感染予防のため多くのイベントが中止となった。

新型コロナウイルス感染予防のため体育館、自然環境やリモートを活用した健康教室など新規運動指導方法に挑戦した。このことが次年度に向けた新たな事業展開として期待される。高梁市民を対象とした運動指導の実践は、学生の現場経験の場としての教育効果が高いだけでなく、地域の方とのコミュニケーションを深める。引き続き行政と連携し、高梁市民の健康寿命延伸に貢献したいと考えている。一方、参加者が半永久的に運動できる環境がないことから、解決に向けて継続的に大学、行政と議論していきたい。来年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応が必要であることを想定し、自然環境やリモートを活用した健康教室の更なる強化に努めたい。

連携：高梁市教育委員会社会教育課

2016年度より、高梁魅力再発見事業「すきすき高梁探検隊」の企画・実施に学科教員及び教職希望学生が参加している。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。来年度も引き続き実施予定である。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

<今年度目標>

ホームページ(HP)・SNSの更なる充実、学科広報策の構築

<取組>

■情報発信活動

- ・学科 Facebook 更新：101 記事(12月25日現在、昨年度 66 記事)

主として SNS を活用し、教育研究活動、学生の大学生活について情報を発信している。特に今年度は新型コロナウイルス情報、運動啓蒙記事等においても積極的に更新した。各教員、研究室単位においても積極的に最新知見、研究室学生の様子を更新し、本学科の魅力を PR している。

■広報活動

①高校訪問等：62 校（昨年度 26 校）

②出張(オンライン含)高校進路ガイダンス：7 校(昨年度 4 校)

③その他：行政シンポジウム企画として「からだよろこぶ身近な運動講演会 みんなで動いてよぼよぼ予防！」のシンポジスト、学科および研究活動の PR をした。入試広報課に協力をあおぎ、岡山県内高等学校の体育教官室に、パンフレット共に本学科の取り組みをまとめた資料を郵送し、本学科を PR した。

- ・高校ガイダンス（今年度実績）

鳴門渦潮・岡山商科大付属・倉敷・井原・高松農業・米子北(2回：オンライン)

- ・広報活動（今年度実績）

広島文教女子大学付属・大阪偕星・山陽女子・香川西・おokayama山陽・玉島商業・興譲館・岡山南・金光学園・玉野光南・玉野・倉敷鷺羽・水島工業・岡山東商業・倉敷工業・倉敷商業・倉敷・総社南・明誠学院・広陵・崇徳・広島商業・高陽東・可部・広島工業・広島国際学院・山陽・唐津商業・新田・伊万里農林・伊万里・大分・佐伯豊南・明豊・東福岡・筑紫台・折尾愛真・尾道商業・呉商業・呉港
広島市立工業・祇園北・高川学園・西京・如水館・立正大学淞南・三刀屋・小郡・城南・福岡第一・福岡工業大学附属・城東・福岡大学附属若葉・香椎・東山・大谷・京都翔英・尼崎西・興國・上宮・京都両洋・京都府立農芸・瀬田工業・徳島商業・川島・鳴門・聖カタリナ・松山城南

<課題>

入学者数、オープンキャンパスに来校する生徒が減少していることから対策が急務である。

具体的な対策：①高校訪問の前倒し

②SNS の更なる充実

③出張進路ガイダンス等にて中四国地域における高等学校の新規開拓

Ⅲ. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

<今年度目標> 退学者：0名（昨年度：10名）

<成果> 退学者：6名（除籍者1名含）（令和3年1月5日現在）

<取組と課題>

- ・少人数のチューター制度を活用し、定期的な個別面談を実施した。今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインでの面談が中心となった。3回連続欠席学生の把握と対応、GPAが低い学生に関しては、個人面談に加えて保護者にも早い段階で連絡した。
- ・例年実施しているチューターの枠を超えてレクリエーションや食事会は中止となった。すでに5名の退学者、1名の除籍者が確認されている。退学理由は「新型コロナウイルス感染症に伴う経済的理由」「学習意欲の低下」であった。教務課との連携に加えて、学年を超えたつながりがもてるような取り組みが必要である。GPAが低い学生、欠席が多い学生に関しては、今まで以上に早い段階での面談、個別指導が必要である。

Ⅳ. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

<取組と成果>

- ・講義、健康教室や体力測定で使用している機器のメンテナンスを行った。健康教室に関しては参加者が保険に加入し、万一の事態に備えた。毎月開催される学科会議内で各種ハラスメントについて周知徹底した。また、他大学の事例等をあげ、何がハラスメントに該当するのか確認した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として以下内容を徹底した。
 - ①実習参加者用の学生フェイスガードの購入と利用の徹底
 - ②聴覚障害をもつ学生のための実習施設におけるアクリル板衝立の整備
 - ③学科グループラインにて定期的なウイルス感染予防の周知徹底などの啓蒙活動
 - ④実習施設内（フィットネスラボおよびフィットネススタジオ）の入室者管理をFormsを活用して実施
 - ⑤徹底的なアルコール除菌

<課題>

事故等に備えて、救命器具の整備、AEDの使用について具体的なシミュレーションと実践が必要である。来年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応が必要であることを想定し、オンラインを活用した実技および実習講義の学修環境を事前に検討する必要がある。

V. 省エネ対策の取組

<取組>

- ① オリエンテーション時に環境マネジメントの取組の一環として省エネに取り組むよう啓発した。
- ② 学年全体で行われる演習の授業内で省エネについて注意喚起し、学生の意識向上に努めた。
- ③ 各教員が講義後の消灯及びエアコンの「電源 OFF」の声掛け等を積極的に行い、電力消費量の削減に努めた。
- ④ フィットネスラボ・フィットネススタジオなどの学科利用施設についても同様学生への声掛け等を実施した。
- ⑤ ブラインドを開け、必要な箇所のみ点灯し、不要の場所については消灯することを心がけた。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

<取組>

【定員充足】

- ・昨年度と比較して高校訪問数、出張高校進路ガイダンス数、SNSの更新数の増加が確認された。また、講演等においても積極的に引き受け、本学科が実施している地域貢献活動である健康寿命延伸事業の成果について公表し、本学科のPRに務めた。岡山県内高等学校の体育教官室宛に本学科のアピール資料を郵送した。

【各種資格試験、教員採用試験における合格率向上に向けた支援体制システムの構築】

- ・各種資格試験、教員採用試験における合格率の向上にむけての対策講座は、FormsやTeamsを活用して定期的実施した。成績がふるわない学生に関しては個別に指導した。

【地域貢献】

- ・行政と連携し、オンラインを活用した新しい運動指導の提供システムを構築できた。来年度はこのシステムを用いた新しい事業展開が期待される。

【その他】

- ・教員の負担軽減、業務の効率化、業務均等化
新型コロナウイルス感染予防のため、学科会議、打ち合わせ等は原則オンラインとした。さらに学科業務を分担化することにより教員の負担軽減につながったと考えられる。来年度も業務の効率化のため業務の分担、積極的なオンラインシステムの活用を予定している。各教員の持ちコマ、委員会、広報活動等における負担度を面談で確認できたことから、来年度以降の教員業務均等化に向けて調整していきたい。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 看護学科

学科長名 : 田中 富子

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）および今年度のキックオフミーティングでの目標を踏まえた評価全般および特筆すべき成果について

1) 教育活動

1. アドミッションポリシー

1) 看護職を目指す強い意志を有する入学者確保

高梁市看護職確保対策として奨学金制度を見直し、近隣高校へ周知した結果、制度を活用し地域貢献意識の高い7名が新入学予定。地域包括ケアシステム等の予防的看護活動を目指す編入学が近年増加しており、意欲・意識・学力の高い編入学生の影響で、学部生のモチベーションも高揚した。

2) 複数の資格取得及び実践力・行動力のある学生の確保

複数の資格取得や希望する職種・施設への就職にむけ、丁寧で手厚いサポート体制を看護学科の特色とし、OC、高校訪問、出前授業等を積極的に行い、入学者の確保に努めた。

2. カリキュラムポリシー

1) 看護師等の指定規則改正にむけたカリキュラム検討

基礎的能力の強化や多様な対象・療養の場に対応可能なカリキュラムが総単位数の増加が求められた。本学の特色あるカリキュラムの地域志向性を推進する専門科目の充実強化に向け、「地域・在宅看護学論」や地域包括ケア実習（仮称）を検討中である。また、在宅・病院・施設看護を一連とした「成人・老年看護学実習」の単位変更と内容の再編についても検討中である。

2) 魅力あるカリキュラムの充実強化

領域毎に教授内容を見直し、理論的、倫理的側面に重点をおいた視覚的教材、資料の作成や事例の提示、技術演習を連動させた実践的授業を行った。全教員が国家試験を踏まえた授業の工夫や小テストを用いた授業内容を充実強化した。臨地実習はコロナ禍の影響を受け学内実習が増加したが、臨地と学内実習を統合し問題意識を持った演習やグループワーク体制を充実強化した。

3) 実践力を高める実習

コロナ禍の影響を受け、実習施設からの受け入れ中止の申し出により領域毎に取り組んだ。学生にとって臨地実習で知識と実践を統合できないデメリットや不安は大きかったが、実習施設との調整や細やかで丁寧な学内実習で施設実習同等の学びがあった。下記に該当領域の概要を記す。

(1) 成人看護学実習：ポートフォリオを用いた目標管理を行い、評価、課題の明確化等を行った。

・成人看護学（急性期看護）：臨地実習での周術期看護の特徴理解と、ニーズに合わせた看護展開を行った。学内実習では、DVD や演習により周術期の生体侵襲や術後合併症・観察を理解した。

・成人看護学（慢性期看護）：学内実習では、演習や事例の看護展開を通してアセスメント能力や実践力を高める、患者観察、身体ケア、退院指導、他職種連携等とし、理論や概念理解が深化した。

(2) 母性看護学実習：視聴覚教材を利用し妊娠、分娩、産褥期の女性の身体的な変化、胎児・新生児の成長発達を理解した。それを元に必要な援助を考えた看護展開（計画立案・実施内容）した。

(3) 小児看護学実習：成長・発達途中にある子どもと家族への看護については、ケースを中心に、子どもの守られるべき権利の再認識、子どもの発達に応じたプレパレーションの検討を行った。映像により病室環境の設定や子どもの反応がイメージできるよう工夫した。

- (4) 老年看護学実習：視聴覚教材、施設での事例を提示しながら、加齢や疾病による健康課題を持つ高齢者を理解し、チームの一員としての看護の役割について考える力を養えるよう取り組んだ。
- (5) 在宅看護学実習：在宅看護の実際をイメージ可能な視覚教材を取り入れた。また、訪問看護事例を提示し、現場経験の豊富な非常勤講師の協力を得て現状と問題点について検討した。
- (6) 統合実習（看護管理）：組織理解（病院・看護部）、看護管理（各職務の理解）を焦点とし医療安全、多重課題、問題解決手法等の事例検討を導入し、看護構成機能の看護管理を理解した。
- (7) 公衆衛生看護学実習：大学立地市の様々な地域社会資源の協力によるフィールド実習と学内実習を連動させ、科学的思考に基づいた応用力、多職種連携、社会環境の創設検討の実習を行った。

3. ディプロマポリシー

1) 高い倫理観と責任感の修得

看護専門職の養成教育研究機関として、学生生活全般、特に臨地実習における個人情報保護、守秘義務の遂行に関する基本的姿勢を教示する目的で、「臨地実習における個人情報の取り扱いに関する指針」の冊子を作成し、冊子を活用し倫理観と責任感の修得に関する指導を徹底し行った。

2) あらゆる健康レベルへの対応可能な知識・判断・技術の修得

知識・判断・技術の修得にむけ、各学年の取組計画を年度当初に決定した。1年：自己学習チェック、グループ学習での基礎学力の向上と学習習慣の獲得。2年：ワークブック、解剖学聴講で「人体の構造と機能」を理解。3年：必修問題の早期取組、実習に向けた学習を強化。4年：看護師・保健師国家試験合格率 100%に向け、①看護学科全教員のサポート体制・方針の検討、即時的なフィードバック②看護師・保健師国家試験対策講習の開催・模試の実施・補充講義の実施③目標の設定と個人結果の自己チェック・担当教員の成績管理④成績不振者の早期見極めと成績別学習支援の強化を行った。

学年毎の系統的・計画的な対策をPDCAサイクルのもと、各チューター団が学生への支援を行った。

2) 研究活動（卒論研究、受託研究等）

- 1. 修士課程・学部生の研究指導を行ったが、看護研究Ⅱ（選択科目）は20人の未履修者となった。
- 2. 2020年1月～12月の学科教員が筆頭者となった研究業績は13件だった。（資料1に詳細を記す）

3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等）

- 1. 各種ボランティア活動：2020年（1月～12月）における学科教員1名が①NPO法人 災害人道医療支援会（HuMA）②西日本豪雨災害支援（真備地域）NPO法人 HIVと人権・情報センターHIV検査相談事業を行った。
- 2. 看護学科教員8名が高梁市・関連高校・大学協議会等で26回の代表者や委員の委嘱を受けた。
- 3. 共同研究：2020年度の科研費採択件数は3件（市村・増本・横溝）

II. 定員充足対策としての情報発信について：

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）

特に本年度、実施した講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動について

1) オープンキャンパスの取組

オープンキャンパス委員を核に感染対策技術などの体験型・実践的な取組とした。コロナ禍の影響を受け参加者数は減少したが、本学志望の学生参加が多く実り多いOCとなった。看護学科の特色ある地域志向型教育等のアピールや、学生を中心とした交流型OCを充実強化する。

2) 広報活動への取組

入学者の確保に向け、新入生の「母校への手紙」を郵送している。大学の体制を学生の報告で理解し高校教員が受験させたい大学への意識を強化した。さらに、学校評議員会への参加や大学近隣の

高校（7 高校）に出向き看護学科の特色や強みを伝えたことで、入学者の確保や増加につながった。

3) 出前授業・公開講座の取組

看護学科 6 名の教員が実習病院や関連校で 8 回の講義・講座を行った。

III. 退学者対策について

退学者数（除籍を含む）は 2018 年度 7 人（2.8%）、2019 年度 5 人（2.3%）、2020 年 12 月現在 2 人（1.0%）と減少した。その対策として①から④を行った。

①チューター及び学年団による重層した学生支援・指導体制を強化した。早期の異変に気付く学生動向の把握と、学生の声を迅速かつ丁寧に捉え教員間で共有した。

②チューター面談や必要に応じた保護者との情報交換で、継続的・丁寧に寄り添った。

③実習ストレスや事故等により出席が困難な学生の微増に対し、学生の状況や特性を踏まえた実習調整や実習内容について合理的配慮に努めた。

④成績不振者と希望者への編入生によるピアサポート体制を敷き、学習支援・悩み相談・情報提供を行った。

これらは、学習意欲の高揚にもつながり退学者対策に効果を上げた。学生や保護者から教員との距離の近さや学生のニーズを踏まえた丁寧な関りへの好評価も得られ、休学や転科等へつながった。

IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

ゼミ等で学生へのハラスメント対策対応や個別指導により学修環境を整えた。また、「学生による授業アンケート」の自由記述や評価を担当教員が確認し改善した。コロナ禍での大学の感染対策等への取組の上に、看護学科独自で学生へのマスク・手指消毒薬の配布などを行った。安全性の確保を徹底し努めたが、学生・保護者の不安は大きかった。また、学生への評価基準や指導内容等への不信感も認められたが、学科として統一的でエビデンスのある基準を保護者も含め丁寧に説明し理解を得た。

V. 省エネ対策の取組

各領域の講義で環境問題を取り上げ、教員が模範となり省エネ取組を学生と共に行い、授業終了後に必ず省エネを呼びかけた。しかし、グループ学習や学内実習により、学内で遅くまで学習する頻度が増加したことから庶務から度々指摘を受けた。都度、教員への注意喚起と学生への指導を徹底した。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

本学科の最優先課題としてキックオフミーティングで表明した「**看護師・保健師国家試験合格率 100%に向けた看護学科の対策**」、「**退学者ゼロ対策**」、「**入学者の定員確保**」の達成に向け、学科教員を組織再編により取り組んだ。

①系統的で魅力あるカリキュラムの充実強化に向け、具体的なカリキュラム作成及び実習体制の確保を引き続き行う。

②チューター及び学年団による重層した学生支援・指導体制を強化し、学生だけでなく保護者へも迅速かつ丁寧に寄り添った支援を行った。実習ストレスや事故等により出席が困難な学生に対し実習調整や実習内容について合理的配慮に努めた。成績不振者への編入生によるピアサポート体制により学習支援・悩み相談・情報提供を行ったことで、学習意欲の高揚につながり退学者対策に効果を上げた。

③地域志向性の高い実践力のある学生を確保するため立地市や医師会等と連携した取り組みを行った。また、コロナ禍で施設実習が困難な中、立地市の医療機関や地域住民とコラボした新たな学内実習や授業等の教育システムを創設した。

これらにより、最優先課題の解決を保障する取組を行い学生及び保護者から高評価を得た。

2020年度 自己点検・自己評価委員会総会（看護学科 資料）

I. 3つのポリシーおよび今年度のキックオフミーティングでの目標を踏まえた評価全般および成果について

2) 研究活動（教員の研究等）（2020年1月～12月分） 資料1

筆頭発表のみの【論文】と学会発表は件数のみ標記する。

中瀬克己：論文1件、報告書1件、学会発表2件

- 1) わが国における健康危機管理の実務の現状と課題：公衆衛生モニタリング・レポート委員会活動報告, 日本公衆衛生学会誌, 2020年 67巻 8号 p. 493-500
- 2) 令和元年年度厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）「新興・再興感染症のリスク評価と危機管理機能の確保に関する研究」脆弱性評価ワークショップ運営手法に関する研究 分担研究報告書

竹崎和子：論文3件、学会発表4件

- 1) 「A看護系大学の統合実習（地域連携）における学生の学び - エコマップ作成を導入して -」
第50回日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション 2020年4月
- 2) 「A看護系大学1年生の看護倫理の授業における学び」
インターナショナルNursingCareReserch19(3) 2020年10月
- 3) 「看護学生の地域連携実習における退院支援に関する学び - 退院調整看護師の役割に焦点を当てて -」
第50回日本看護学会論文集 慢性期看護 2020年11月

田中富子：論文3件、学会発表3件

- 1) 中山間地域の病院で働く看護師の職務満足度と看護の「やりがい」「魅力」,
- 2) インターナショナルNursing Care Research, 19(1)33-43, 2020年4月
- 3) 看護系大学への編入学に至る動機と経験に関する文献研究,
インターナショナルNursing Care Research, 19(3)119-126, 2020年10月
- 4) 中山間地域における健康づくりボランティアのソーシャルキャピタル,
川崎医療福祉学会誌, 30(1), 2020年10月

門倉康恵：論文2件、学会発表5件

- 1) 「外来化学療法を受けているがん患者に関わる看護師の意思決定支援プロセス」
吉備国際大学研究紀要 医療・自然科学系 (30) 11-21 2020年3月
- 2) 「がん化学療法看護認定看護師の実践活動を受講した看護学生の学び」 インターナショナル
Nursing Care Research 19(2) 97-104 2020年5月

澤田和子：学会発表1件

中嶋貴子：論文1件、学会発表1件

- 1) 精神看護領域における看護学生のコミュニケーションスキル向上を目的とした教育方法に関する
文献レビュー, インターナショナルNursing Care Research19(3) 81-90 2020年10月

飯田尚美：論文1件、学会発表3件

- 1) 「摂食・嚥下障害看護認定看護師が見聞きした頸髄損傷患者がたどる変化のプロセス」日本看護福祉学会誌 25(2) 37-49 2020年3月

岡本さゆり：論文1件

- 1) 老年看護学実習におけるポジティブ体験から得られた2つの成長 - 「専門職としての成長」「人間としての成長」 - インターナショナルNursing Care Research, 19(1), 119-127, 2020年4月

市村美香：論文1件

- 1) Tapping enhances vasodilation for venipuncture even in individuals with veins that are relatively difficult to palpate. Clinical Anatomy, 33(3), 440-445. (2020).

渡邊栄子：論文1件

- 1) 「地域包括ケアシステム構築実現のために中山間地域の退院支援において病棟看護師に求められる要素」 インターナショナルNursing Care Research 19(2), 2020年5月

学会発表 柘野浩子：1件 横溝珠実：4件 福岡美和：3件 増本由紀子：学会発表1件

Ⅱ. 定員充足対策としての情報発信

1. 就職試験・国家試験対策の結果、評価と課題

1) 各種国家試験合格率向上への取組と結果、および今後の課題

① 4年生の国家試験対策

看護師国家試験対策：4月から業者模試6回・対策講義春期：90分、秋期：50時間行った

保健師国家試験対策：4月から業者模試4回・コピー模試4回行った

② 3年生の国家試験対策（専門基礎）

看護師国家試験対策：4月から業者模試1回・対策講義を春学期：90分、秋学期：5時間行った

③ 2年生の国家試験対策

夏休みに解剖生理学の課題を行い、12月9日に解剖生理学のテスト及び16日に講義及び解剖学の聴講を任意にて行う。

④ 1年生の国試対策

キャリア開発Ⅰで国家試験ガイダンス、計算問題のミニテスト及び補習を行った。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 理学療法学科

学科長名 : 齋藤 圭介

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

令和2年初頭より続くコロナ禍により、専門的知識と技術、態度を学内・学外教育両輪のカリキュラムで医療専門職を養成する当学科にとって、培った教育技量が問われる厳しい一年となった。当学科では「**学生を守る感染症対策の徹底と教育の質保証を両立する医療専門職養成教育の構築**」を目標に掲げ、様々な制約が生じつつもカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを満たすための代替教育と教育方法論上の工夫・見直しに取り組んだ。

1. 臨床実習教育への対応

・4月より8週間2期に渡り実施予定であった4年次の臨床実習は、受入辞退多発と緊急事態宣言の発出で実施困難となった。**遠隔授業による代替教育で補完すると共に、教職員の努力と実習施設との密な協力体制の基に、感染状況が落ち着いた7月より4週間の臨床実習を実現**することが出来た。

・感染予防教育を具体化。教職員に提供を呼びかけ、学生に入手困難なマスク配布を実現。

・3年次臨床実習は8月から延期し、現実的方法による年度内の実施を計画している。

2. 学内教育への対応と質追求

・当学科ではActive learningを積極的に導入してきたが、本年度は**感染予防の観点よりグループワーク（GW）課題の見直しと実習科目の代替教育を具体化**した。特に配慮が必要な実習科目では、春学期分は実技コマを計画的に秋学期へ延期し、少人数化や実技ペアの固定、マスク着用や消毒等の対策を徹底した上で実現した。

・チューターを中心とする学内外での感染症対策に関する学生指導の徹底、学科教員での情報共有体制の整備、濃厚接触者の速やかな特定のため各授業の席次共有を行った。

・**指定規則改正に伴い新カリキュラムに移行**。現1年生の科目について、チューターや科目担当教員の努力により、遠隔授業による制約の中で無事実施する事が出来た。

・**春期の授業評価結果（表1）**では、前年度より全体的に0.1ポイント程度低下。全学部平均も下回る結果を示し、遠隔授業、GWや実技等の制約が原因と推察された。学科FD委員会によるシラバスチェック、授業改善計画の提出を計画すると共に、制約がある中でも学生満足度を満たしつつ教育の質を追求する必要性が示唆された。

3. 「最重要課題」 国家試験合格率100%達成に向けた質の高い国試対策の追求

・基本にしてきた登校による学修指導を見直し、対策講義・グループ学修共に Microsoft Teams や Google Classroom を駆使した**遠隔での学修中心**へと大きく転換。培ってきた国試対策学修を基に遜色なく遠隔学修用に具体化し、業者模試はリモートで実施した。

・学生からの学内での学修要望に対応するため、可動式パーティションを多数導入するなど、**安心して学内で学べる環境整備**に取り組んだ。

・各学年の国試対策を実施すると共に、新カリキュラムとして導入した基礎学力教育に関する基礎演習科目を遠隔授業で着実に実施した。

◎**国試対策の進捗**として、本格的な開始時期が臨床実習の延期措置に伴い例年より遅くなったが、模擬試験等の成績状況は例年と遜色ない推移を辿っており、着実に成績を伸ばしている。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

◆**2020年(1月～12月)における学科教員の研究業績は、資料1に示すとおりである。**

・著書2編、論文23編、口頭発表7件、科研採択・継続課題3件、受託研究等の課題2件。

・各教員とも研究活動に積極的に取り組んだ。

3) 地域連携活動(各種ボランティア活動、共同研究等)

◆**2020年(1月～12月)における学科教員の活動実績は、資料2に示すとおりである。**

・公開講座等は8件。学会・研修会等が中止措置がとられている関係で件数は例年より少ないが、リモートなど可能な範囲で実施された。それ以外にも、各教員が学内業務に支障のない範囲で自治体や職能団体、研究会の委員を担当する等、地域貢献活動に積極的に取り組んだ。

・岡山県理学療法士会主催の臨床実習指導者講習会(12月19・20日開催・岡山市)に、ファシリテーターとして教員を派遣した(担当:井上茂樹・森下元賀)。

・例年取り組んできたボランティア活動は、感染予防の観点より自粛せざるを得なかった。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の**魅力ある研究活動の情報発信活動**(ITの活用等を含めて)

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

1. 学科の魅力発信について

・学科広報委員会「受験生確保対策検討部会」を中心に、学科で独自に開設したホームページで学科行事やゼミ紹介を中心に魅力ある情報発信を展開。教員個人でブログ、Twitter等での発信も行われている。

・吉備ケーブルテレビの健康増進・介護予防に関するTV番組にアドバイザーで協力し、学生や卒業生と共に出演(担当:佐藤三矢)。

・吉備ケーブルテレビのニュース・キビに「新型コロナウイルス感染症について」というテーマで計 11 回出演（担当：高橋 淳）。

2. オープンキャンパスの取組について

◆各 OC 参加者数を表 2 に示す。参加者総数 80 名、学生数 51 名（前年比 66.0%）

感染予防に努めると共に、各種企画の洗練化を留意して実施。定員増を進める他校と比較し「個別教育重視」を強調すると共に、ICT（Information and Communication Technology）教育の推進や地域体験型学修等の特色をアピールした。

3. 出前授業・公開講座等の取組について

◆大学内進路ガイダンス：1 件

・井原高校（北校地）（担当：森下元賀）

◆高校進学説明会（模擬授業）：7 件（前年 9 件）

・高梁高校 1 年（担当：井上茂樹）／因島高校 2 年（担当：森下元賀）／岡山東商業高校 2 年（担当：秋山純一）／高松農業高校 2 年（担当：井上茂樹）／新居浜西高校 2 年（担当：井上茂樹）／作陽高校 2 年（担当：秋山純一）／岡山学芸館高校 2 年（担当：森下元賀）

III. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

◆退学・転学科者数の過去 5 年間の推移を表 3 に示す。退学者 0 名（退学率 0%）、昨年度も 0 名。

・例年は学科交流会や新生歓迎行事等で学生間・教員とのつながりを深めてきた。各種イベントを自粛する一方で、Microsoft Teams によるチューターやゼミ教員による集団・個別指導を積極的に実施した。

・ダブルチューターによる指導とゼミの少人数指導、学科教員間の情報共有を一層推進した。

・近年、理学療法士を目指す確固たる意思を持たず入学する学生への進路相談が増えてきている。心身面に問題を抱える学生も増えており、保護者を含めた密な対応や教員に履修上の配慮を求め、学生が安心して学べる学修環境作りを推進している。

IV. 学修環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

・感染予防教育と指導を徹底すると共に、学科独自に消毒液やフェイスガード、非接触型体温計、パーティション等の基本物品を計画的に整備。濃厚接触を前提とする実技を可能にするため、人型シミュレーターを導入した。

・学生が安心して学修できる環境を提供するべく、授業はもとより、ハラスメントが発生しやすいゼミ等での個別指導を含め留意した対応を行っている。また「学生による授業アンケート」の自由記述を貴重な学生の声として重視。教員への状況確認と改善指示

を実施している。

・台風や豪雨等の不測の事態に対応するため、チューターを中心に学生との緊急連絡体制を整備している。

V. 省エネ対策の取組

・学科 EMS 活動として、科目「環境科学」で環境教育の推進に関する講義を実施（担当：秋山純一）。また大学の環境マネジメント活動に関する教育・指導・周知を図るためオリエンテーション指導を実施した。

・学科管轄の教室・実習室等において、照明・エアコン電源オフの学生指導を徹底すると共に、教員による平素の自主的な電源オフの取り組みを進めてきた。しかし、例年見られてきた電源オフに関する指摘の他、今期は換気の推奨に伴い窓やクレセントの閉め忘れの指摘を数多く受けた。指導の徹底や掲示物の活用など指導方法を工夫し、省エネ対策を推進する。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

・受験者動向として、コロナ不況を背景に医療専門職養成課程が見直されている一方で、近隣養成校の定員増や専門職大学の開設により不透明な状況にある。地域に強い理学療法士養成をアピールしてきたが、「地域体験実習」を自粛せざるを得ない事を踏まえ、当学科独自の新たなカラーを創りあげる事が必要である。

・本年度より、タブレット端末 iPad をクラス全員分導入し、1年次基礎医学科目や実習科目で積極的に活用を進めている。ICT 教育の推進と安心して学べる学習環境の整備に努め、受験生に選んで頂ける学科作りを推進する事。HP や SNS を充実させ、学科の魅力を確実に届ける取組が必要である。

◎入学定員確保・受験生確保に繋げるための対策を、今後とも推進する。

表1 2020年度春期 授業評価結果

| | 1. 熱意や意欲を持って授業 | 2. 学生の積極性を引き出す努力 | 3. 授業内容に興味関心がもてる | 4. 学習の方法をアドバイス | 5. 授業内容をわかりやすく説明 | 6. 学生が聞き取りやすく話す | 7. 理解に合わせた授業 | 8. 授業進度や時間配分が適切 | 9. 授業方法を工夫 | 10. 授業出席や欠席、遅刻を指導 | 11. 学生の授業態度を指導 | 12. まじめに受けられるよう配慮 |
|-------|----------------|------------------|------------------|----------------|------------------|-----------------|--------------|-----------------|------------|-------------------|----------------|-------------------|
| 2019年 | 4.6 | 4.4 | 4.4 | 4.2 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.4 | 4.4 | 4.2 | 4.4 | 4.4 |
| 2020年 | 4.5 | 4.2 | 4.3 | 4.2 | 4.2 | 4.1 | 4.2 | 4.3 | 4.3 | — | — | 4.3 |
| 全学部 | 4.6 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.4 | 4.5 | 4.4 | — | — | 4.5 |

表2 2020年度 オープンキャンパス参加者数の推移

| | 6/14 | 7/12 | 8/22 | 9/20 | 11/21 | 12/13 | 2/14 | 累計 |
|--------|------|------|------|------|-------|-------|------|----|
| OC参加者数 | 4 | 60 | 36 | 34 | 4 | 5 | — | 80 |
| OC内学生数 | 3 | 32 | 19 | 15 | 2 | 2 | — | 51 |
| AO面談者数 | | | | 0 | 0 | 1 | | 1 |

表3 理学療法学科における過去5年間の各種指標推移

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 |
|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|---------------|
| 受験生・学生人数 | | | | | | |
| 受験者総数 (定員 40) | 181 (4.53倍) | 167 (4.18倍) | 113 (2.83倍) | 109 (2.72倍) | 92 (2.30倍) | — (—) |
| 入学者数 (定員 40) | 49 (1.23倍) | 60 (1.50倍) | 42 (1.05倍) | 37 (0.93倍) | 33 (0.82倍) | 42 (1.05倍) |
| 総在籍者数 (総定員160) | 228 (1.43倍) | 242 (1.51倍) | 226 (1.41倍) | 196 (1.23倍) | 172 (1.08倍) | 157 (0.98倍) |
| 国試合格率 | | | | | | |
| 国試合格率(現役) | 76.3% (+ 2.2pt) | 98.0% (+ 7.7pt) | 88.5% (+ 7.1pt) | 93.6% (+ 7.8pt) | 92.6% (+ 6.2pt) | — (—) |
| ※全国平均(全体%) | 74.1% | 90.3% | 81.4% | 85.8% | 86.4% | |
| 就職関連 | | | | | | |
| 就職率 | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | — |
| 退学者数 | | | | | | |
| 退学者数 (退学率) | 4 (1.75%) | 4 (1.65%) | 7 (3.10%) | 4 (2.04%) | 0 (0%) | 0 (0%) |

資料1 理学療法学科 研究業績 (2020年1月～12月)

【著書】

- (1) 森下元賀：バイオフィードバック療法，物理療法学 第5版（標準理学療法学 専門分野）．網本和，菅原憲一（編集），医学書院，東京，2020年．
- (2) 原田和宏：セルフケア，手段的日常生活活動，Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学．白田滋（編集），メジカルビュー社，東京，2020年．

【論文】

- (1) Masanobu Murao, Tetsuo Imano, Junichi Akiyama, Teruhiko Kawakami, Masaaki Nakajima: Effect of single bout downhill running on the serum irisin concentrations in rats. Growth factors (Chur, Switzerland). 2020; 37(5-6): 257-262. ※
- (2) 今野哲男, 村尾昌信, 秋山純一, 川上照彦, 中嶋正明: マンシエットによるラット骨格筋への血流制限と組織血液酸素飽和度の経時的変化. 理学療法科学. 2020; 35(1): 49-52. ※
- (3) Koji Nonaka, Junichi Akiyama, Yoshiyuki Yoshikawa, Satsuki Une, Kenichi Ito: 1,25-Dihydroxyvitamin D3 Inhibits Lipopolysaccharide-Induced Interleukin-6 Production by C2C12 Myotubes. Medicina (Kaunas, Lithuania). 2020; 56(9): DOI: 10.3390/medicina56090450. ※
- (4) 福田富男, 香田康年, 水谷雅年: 環境保全を考慮したアマモ (Zostera marina) 場造成基礎研究— III —花枝・花穂・種子の関係性の検討—. 吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系). 2020; 30: 23-31.
- (5) Yutaka Gomita, Satoru Esumi, Soichiro Ushio, Yoshihisa Kitamura, Toshiaki Sendo, Hirotohi Motoda, Shigeki Inoue, Hiroaki Araki, Yoshio Kano: Intracranial self-stimulation-reward or immobilization-aversion had different effects on neurite extension and the ERK pathway in neurotransmitter-sensitive mutant PC12 cells. Behavioral brain research. 2020; 396: 112920-112920. ※
- (6) 大西邦博, 河村顕治: 変形性膝関節症患者における体幹加速度と身体機能の関連性の術前調査. 臨床バイオメカニクス. 2020; 41: 351-356. ※
- (7) 秋本剛, 河村顕治, 和田孝明, 河野達哉, 石原直道, 横田あかね, 杉之下武彦, 横山茂樹: 変形性膝関節症における膝関節伸展に伴う疼痛の有無と膝伸展機能および歩行速度の比較. 理学療法科学. 2020; 35(5): 705-710. ※
- (8) 井上茂樹, 平上二九三, 河村顕治, 元田弘敏, 秋山純一, 増川武利, 五味田裕, 加納良男: 培養神経細胞を用いた長時間寒冷刺激の影響. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020; 21: 31-34.
- (9) 加納良男, 平上二九三, 元田弘敏, 小池好久, 秋山純一, 井上茂樹, 牛尾聡一郎, 五味田裕, 河村顕治: 細胞内シグナル伝達分子を標的とした抗がん物質の探索. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020; 21: 17-21.
- (10) 宮地司, 羽田圭宏, 河村顕治: 異なる関節角速度での筋力と姿勢制御の関係性—高速度での筋出力特性に着目して—. 理学療法科学. 2020; 35(1): 17-21. ※
- (11) 原田美由紀, 横山茂樹, 河村顕治: 胸椎後彎姿勢が上肢挙上角度の違いによる肩甲骨位置に与える影響. 保健医療学雑誌. 2020; 11(1): 17-23. ※
- (12) Motoyoshi Morishita, Taeka Ikeda, Natsue Saito, Mihoko Sanou, Mayumi Yasuda, Shigeko Takao: Relationship between oral function and life-space mobility or social networks in community-dwelling older people: A cross-sectional study. Clinical and experimental dental research. 2020; DOI: 10.1002/cre2.381. ※
- (13) 中祖直之, 松浦晃宏, 原田和宏: 脳卒中片麻痺患者における段昇降動作の可否に関する機能的要

- 因の検討. 理学療法科学. 2020: 35(6): 873 - 877. ※
- (14) 原田和宏, 井上優, 香川幸次郎, 田中繁治, Sit Song, Seiha Suth: カンボジア王国の農村地域に暮らす脳卒中後遺症者の家族の介護負担感と今後の調査研究課題. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020: 21: 11-16.
- (15) Akazawa N, Harada K, Okawa N, Kishi M, Tamura K, Moriyama H: Changes in Quadriceps Thickness and Echo Intensity in Chronic Stroke Survivors: A 3-Year Longitudinal Study. Journal of stroke and cerebrovascular diseases. 2020; 30(3): DOI: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2020.105543. ※
- (16) 藤井美次, 河口滉, 羽村景子, 鈴木健朗, 須山晋輔, 宮田昌代, 齋藤満, 井上茂樹: 介護老人保健施設入所の高齢女性におけるスタンス幅の異なる反復起立運動の影響. 理学療法おかやま. 2020: 1: 6-10. ※
- (17) 平上二九三, 原田和宏, 井上優, 井上茂樹, 齋藤圭介, 伊勢眞樹: 理学療法の臨床実習教育における自己評価チェックリストの有用性. 吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系). 2020: 30: 33-44.
- (18) 平上二九三: リハビリテーション技能の育成に関するプロセスモデルの開発. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020: 21: 1-10.
- (19) Yasuhiko Kamikubo, Toshio Hattori, Atsushi Takahashi: Epidemic trends of SARS-CoV-2 associated with immunity, race, and viral mutations. Cambridge Open Engage. 2020; DOI:10.33774/coe-2020-1kc5b-v3. ※
- (20) Yasuhiko Kamikubo, Atsushi Takahashi: Paradoxical dynamics of SARS-CoV-2 by herd immunity and antibody-dependent enhancement. Cambridge Open Engage. 2020; DOI: 10.33774/coe-2020-fsnb3. ※
- (21) Yasuhiko Kamikubo, Atsushi Takahashi: Epidemiological Tools that Predict Partial Herd Immunity to SARS Coronavirus 2. medRxiv. 2020; DOI: 10.1101/2020.03.25.20043679. ※
- (22) 高橋淳: パンデミックと医療崩壊. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020: 21: 23-29.
- (23) 太田晴之, 齋藤圭介, 原田和宏, 京極真: 慢性疼痛患者の集学的治療標本における疼痛生活障害評価尺度 (Pain Disability Assessment Scale) の因子構造モデルの検討. 日本保健科学学会誌. 2020: 23(2): 51-59. ※

【口頭発表】

- (1) 河村顕治: 電気刺激併用型荷重立位周期的揺動運動および tDCS 負荷時の大脳皮質刺激効果の研究. 第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2020年11月.
- (2) 大西邦博, 秋本剛, 河村顕治, 栗田雄一: 3軸加速度計を用いた人工膝関節全置換術患者における術後1週の運動機能の変化. 第47回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会. 2020年11月.
- (3) 秋本剛, 河村顕治, 和田孝明, 石原直道, 横田あかね, 杉之下武彦, 大西邦博, 横山茂樹: 変形性膝関節症患者と健常高齢者の歩行周期時間変動の差異. 第47回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会. 2020年11月.
- (4) 河村顕治: 電気刺激併用型荷重立位周期的揺動運動および tDCS 負荷時の大脳皮質刺激効果. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020年8月.
- (5) 畦五月, 秋山純一, 野中紘士, 中田理恵子: 加熱した白花豆からのレクチンの精製とその性質. 日本家政学会第72回大会. 2020年5月.
- (6) Motoyoshi Morishita, Junya Sota, Mariko Kobayashi: Effects of Carbonated Beverages on Sustained Swallowing Behavior Changes Using Swallowing Sound Analysis. The 10th European Society of Swallowing Disorder Virtual Online Congress, 2020年9月.

- (7) 井上茂樹, 加納良男: 寒冷刺激を感知する細胞内シグナル伝達経路の探究. 第 25 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会. 2020 年 12 月.

【科研 採択・継続課題】

- (1) 代表者 平上二九三: 卒前と卒後を連続したリハビリテーション技能の育成に関する評価ツールの開発と検証. 基盤研究 C 一般, 研究期間: 2019 年 - 2022 年.
- (2) 代表者 井上茂樹: 培養神経細胞を用いた寒冷刺激効果の分子細胞生物学的解析. 基盤研究 C 一般, 研究期間: 2019 年 - 2021 年.
- (3) 代表者 森芳史: 関節軟骨の階層構造の形成及び関節軟骨の維持における Rho 調節因子の機能の解析. 若手研究, 研究期間: 2019 年 - 2022 年.

【受託研究ほか課題】

- (1) 代表者 原田和宏: 東南アジア開発途上国の農村地域における脳卒中患者の ADL 自立要件と支援戦略 日本理学療法士学会: 2019 年度理学療法にかかわる研究助成指定研究, 研究期間: 2019 年 9 月 - 2020 年 3 月.
- (2) 代表者 森下元賀: 地域在住高齢者に対する口腔嚥下機能向上のための訓練器具の効果の検証 やずや食と健康研究所: 2020 年度 やずや食と健康研究助成, 研究期間: 2020 年 12 月 - 2021 年 11 月.

資料2 理学療法学科 地域連携活動実績 (2020年1月～12月)

【公開講座等】

- (1) 森下元賀：全身からみる口腔機能維持・向上の取り組み ～理学療法士の立場から～ . 広島県歯科衛生士会 介護予防口腔機能向上研修会, 広島市, 2020年12月13日.
- (2) 森下元賀：楽に身体を柔らかく～効果的なストレッチの方法～. 吉備国際大学出前講義 高梁市立宇治高等学校, 高梁市, 2020年12月18日.
- (3) 佐藤三矢：看護師でも行えるベッドサイドのリハビリテーション. 岡山県看護協会 卒後研修, 岡山市, 2020年11月16日.
- (4) 佐藤三矢：日常生活の中での介護予防実践. 井原市教育委員会 長寿大学, 井原市, 2020年6月19日.
- (5) 佐藤三矢：高梁市いきいきロコモ予防体操. 高梁市ケアマネージャー研修会, 高梁市, 2020年2月21日.
- (6) 佐藤三矢：古都式体操でロコモ予防！～サロンで取り組める介護予防～. 新見市社会福祉協議会 令和元年度サロン交流会, 新見市, 2020年2月5日.
- (7) 高橋淳：高梁医師会新興感染症対策委員会 アドバイザー. 高梁医師会, 高梁市, 2020年3月19日, 4月2日, 4月16日, 4月30日.
- (8) 高橋淳：自由民主党本部・有識者ヒアリング (V-CUBE アプリを用いたTV会議で参加), 2020年6月23日.

【メディア出演】

- (1) 高橋淳：ニュース・キビ「新型コロナウイルス感染症について」. キビケーブルテレビ, 2020年3月2, 3, 4, 5, 6日放送 (全4回：第1回「学校臨時休業の意義」, 第2回「コロナウイルスの性質と不活化について」, 第3回「ウイルスの感染経路等について」, 第4回「リスク者の感染予防」, 第5回「気になる症状があるとき」).
- (2) 高橋淳：ニュース・キビ「新型コロナウイルス感染症について」シーズン2. キビケーブルテレビ, 2020年4月1, 2, 3日放送 (全3回：第1回「変異した新型コロナ」, 第2回「新型コロナの新常識 (1)」, 第3回「新型コロナの新常識 (2)」).
- (3) 高橋淳：ニュース・キビ「ふかぼりワイド」「新型コロナウイルス感染症について」シーズン3. キビケーブルテレビ, 2020年5月7, 8, 11日放送 (全3回).

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 作業療法学科

学科長名 : 京極 真

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

①アドミッションポリシー

【入学者受け入れ方針】 作業療法士に興味がある人を幅広く受け入れるために、大学のオープンキャンパス、学科独自のオープンキャンパス、高校訪問など複数回実施し、一定の成果は得られたと感じている。

【求める人材像】 同上の対策によって、おおむね達成できていると見込まれるが、入学後の教育によってより一層、作業療法士に適した人材像の育成を図る必要があると思われる。

【入学までに学んでほしいこと】 外部業者との連携による入学前教育を実施しており、入学後の学習を円滑に進めるための支援を継続して行っていく。

②カリキュラムポリシー

【教育課程の編成・実施】 今年度はコロナ禍であったため、対面教育と遠隔教育の併用が必要であったが、ポリシーに記載された事柄は着実に実施した。

【教育方法】 コロナ禍という特殊な状況であったため、対面教育と遠隔教育のブレンディッドラーニングを行う必要があった。特に学内実習は模擬事例による実技教育、クリニカルリーズニングの徹底をはかった。コロナ禍はしばらく続くと予想されるため、今年度の教育方法の検証を行い、次年度以降の教育の質の向上につなげる必要があると考えられる。

【成績評価】 ポリシーにそって着実に実施した。特に遠隔教育による学内実習はルーブリック評価を導入し、学生と教員が達成すべき目標を明確にし、よりよい学習支援を行うことができたと思われる。

③ディプロマポリシー

【知識・理解】 コロナ禍であったため、対面教育と遠隔教育の工夫が必要であったが、おおむね作業療法士として必要な知識と理解の習得を支援できたと考えられる。しかし、国家試験合格率 100%を基準に考えると、知識・理解が不十分な学生が一部散見されており、例年以上に国家試験対策の強化を図っているところである。

【思考・判断】 コロナ禍という特殊な状況であったが、おおむね作業療法士として必要な思考と判断を養えたと考えられる。

【技術・行動】 実習はコロナ禍の影響で制限された状況で行われたため、臨床現場で必

要な技術・行動の学習については一部不十分な点があった可能性がある。

【態度】 コロナ禍という特殊な状況であったが、おおむね作業療法士として必要な態度を養えたと考えられる。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

①著書

【京極真】

小川真寛、藤本一博、京極真（編）：5W1H でわかりやすく学べる 作業療法理論の教科書。メジカルビュー社。2020

【寺岡睦】

寺岡睦：作業に根ざした実践 2.0 (OBP2.0), 第2章 理論の紹介と実践/超メタ理論。編・小川真寛、藤本一博、京極真：5W1H でわかりやすく学べる 作業療法理論の教科書。メジカルビュー社, 46-54, 2020

寺岡睦：Doing, Being, Becoming, Belonging, 第2章 理論の紹介と実践/メタ理論。編・小川真寛、藤本一博、京極真：5W1H でわかりやすく学べる 作業療法理論の教科書。メジカルビュー社, 62-71, 2020

②論文

【京極真】

Noguchi T, Kyougoku M: Psychometric properties of the Assessment of Positive Occupation 15 final version in individuals with mental illness. Hong Kong Journal of Occupational Therapy (in press)

京極真：作業療法における質的研究の始め方。作業療法の実践と科学。2(4), 61-67, 2020

京極真：「信念対立」を根底から解く哲学，構造構成主義の衝撃。総合診療 30(5), 560-562, 2020

野口卓也，京極真：ポジティブ作業に根ざした実践の介入に影響を与える要因の検討。作業療法 36(6), 704-714, 2020

古桧山建吾，京極真，織田靖史：リハビリテーション専門職の信念対立に対するマインドフルネストレーニングの効果—混合研究法を用いて。作業療法 39(2), 180-189, 2020

【服部俊夫】

Chagan-Yasutan H, Arlud S, Zhang L, Hattori T, Heriyed B, He N. Mongolian Mind-Body Interactive Psychotherapy enhances the quality of life of patients with esophageal cancer: A pilot study. Complementary Therapies in Clinical Practice. 2020, 38: 101082

Zhang J, Yamada O, Kida S, Murase S, Hattori T, Oshima Y, Kikuchi H
Downregulation of PD-L1 by amide analogues of brefelamide: alternatives to

antibody-based cancer immunotherapy *Exp Ther Med.* 2020 Apr;19(4):3150-3158.
doi: 10.3892/etm.2020.8553. Epub 2020 Feb 26

Chagan-Yasutan H, Hanan F, Niki T, Bai G, Ashino Y, Egawa O, Telan EF0, Hattori T. Plasma Osteopontin Levels is Associated with Biochemical Markers of Kidney Injury in Patients with Leptospirosis, *Diagnostics* 10(7) 439 - 439 2020
Yugo Ashino Haorile Chagan-Yasutan, Masamitsu Hatta, Yoichi Shirato, Yoriyoko Kyogoku, Hanae Komuro and Toshio Hattori, Successful Treatment of a COVID-19 Case with Pneumonia and Renal Injury Using Tocilizumab *Reports* 2020, 3(4), 29; <https://doi.org/10.3390/reports3040029> - 13 Oct 2020

Shete A, Bichare S, Pujari V, Virkar R, Thakar M, Ghate M, Patil S, Vyakarnam A, Gangakhedkar R, Bai G, Niki T, Hattori T. Elevated Levels of Galectin-9 but Not Osteopontin in HIV and Tuberculosis Infections Indicate Their Roles in Detecting MTB Infection in HIV Infected Individuals *Frontiers in Microbiology* 11 2020年7月17日

Shete A, Dhayarkar S, Dhamanage A, Kulkarni S, Ghate M, Sangale S, Medhe U, Verma V, Rajan S, Hattori T, Gangakhedkar R. Possible role of plasma Galectin-9 levels as a surrogate marker of viremia in HIV infected patients on antiretroviral therapy in resource-limited settings. *AIDS Research and Therapy* 17(1) 2020

Padilla, S. T., Niki, T., Furushima, D., Bai, G., Chagan-Yasutan, H., Telan, E. F., Tactacan-Abrenica, R. J., Maeda, Y., Solante, R., & Hattori, T. (2020). Plasma Levels of a Cleaved Form of Galectin-9 Are the Most Sensitive Biomarkers of Acquired Immune Deficiency Syndrome and Tuberculosis Coinfection. *Biomolecules*, 10(11), 1495. <https://doi.org/10.3390/biom10111495>

【森信繁】

Omura J, Fuchikami M, Araki M, Miyagi T, Okamoto Y, Morinobu S. Chemogenetic activation of the mPFC alleviates impaired fear memory extinction in an animal model of PTSD. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry* (in press)
doi:10.1016/j.pnpbp.2020.110090.

Araki M, Fuchikami M, Omura J, Miyagi T, Nagashima N, Okamoto Y, Morinobu S. The role of glucocorticoid receptors in the induction and prevention of hippocampal abnormalities in an animal model of posttraumatic stress disorder. *Psychopharmacol* 237:2125-2137, 2020.

【寺岡睦】

後藤紀史, 寺岡睦: 回復期リハビリテーション病棟における「作業に根ざした実践 (OBP2.0)」の臨床有用性について. 作業療法 (査読中)

赤坂竜一，寺岡睦：認知症の行動・心理症状（BPSD）のある回復期入院患者に対する「作業に根ざした実践 2.0（OBP2.0）の臨床有用性について．作業療法（査読中）

【三宅優紀】

三宅優紀，磯村葉子，川上静香：高齢者施設，大学および学生が連携した園芸療法プロジェクトの効果－施設職員の意識変化－．人植関係学誌 20（1）9-18，2020．

③学会発表

【京極真】【寺岡睦】

桑原裕也，京極真，寺岡睦，森下元賀：回復期リハビリテーション病棟入院患者 1 例による意欲に関する要因の質的解明．大阪府理学療法学会，2020

浦部智章，京極真，寺岡睦：認知症クライアントに対する意志プロセス評価尺度の項目プールの作成．日本作業療法学会，2020

清家庸佑，京極真，寺岡睦：精神障害領域における作業機能障害の種類に関するスクリーニングツールの潜在ランク数の推定．日本作業療法学会，2020

廣瀬卓哉，京極真，寺岡睦：脳卒中の上肢機能訓練に関わる作業療法士が経験する信念対立の質的解明．日本作業療法学会，2020

【三宅優紀】

作業機能障害が職業性ストレスに与える影響：リハビリテーションセラピストへの横断的調査による検証．日本作業療法学会，2020

④外部資金

【京極真】

信念対立解明アプローチに基づくストレス低減プログラムの開発．科学研究費基盤研究 C，2020-2024 年度．(研究代表者)

要支援の地域在住高齢者のための住生活の安全管理を支援する在宅健康プログラムの構築．科学研究費基盤研究 C，2015-2019 年度．(研究分担者)

誤り概念の体系に基づく看護思考法診断学習支援システムの構築．科学研究費基盤研究 B，2018-2021 年度．(研究分担者)

リハビリテーションにおける活動と参加レベルの行動変容を促す目標設定アプリの開発．科学研究費基盤研究 B，2019-2022 年度．(研究分担者)

【寺岡睦】

潜在ランク理論を活用したエビデンスに基づく作業機能障害支援プログラムの開発．科学研究費研究活動スタート支援，2019-2020 年度．(研究代表者)

信念対立解明アプローチに基づくストレス軽減プログラムの開発．科学研究費基盤研究 C，2020-2024 年度．(分担研究者)

【森信繁】

ゲノム編集を用いた BDNF メチル化操作による新規うつ病モデル・マーカー・治療開発，文科省科研費基盤研究(C)，2018-2021 年度 (研究代表者)

頭部外傷うつ病モデルラットに対する細胞移植と運動刺激の併用療法の検討，文科省科研費基盤研究(C)，2018-2020 年度（分担研究者）

【三宅優紀】

施設入所高齢者が自分らしく生活するための支援技術としての園芸活動マニュアルの開発. 科学研究費若手研究，2020-2023 年度. (研究代表者)

3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等）

【三宅優紀】

高梁市ミニデイサービス講師

園芸療法学会 中国四国ブロック代表者会議への参加

石蟹ヘルスサロンの開催（新見市 石蟹公民館主催）

地域包括ケア推進委員（岡山県作業療法士協会）

【岩田美幸】

高梁市介護認定委員

高梁市障害支援区分判定審査会委員

第2回臨床実習指導者講習会（岡山講習会）講師

【山本倫子】

高梁市ミニデイサービス講師

【狩長弘親】

岡山県ペアレント・プログラム講師

吉備中央町ペアレント・プログラム講師

高梁市介護保険事業計画推進委員

高梁市地域ケア会議専門委員

高梁市介護認定審査会委員

吉備中央町地域ケア会議専門委員

浅口市障害支援区分判定審査会委員

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

【学科全体の取り組み】

- ・web オープンキャンパスの実施
- ・広報たかはし1月号への寄稿

【京極真】

- ・高校訪問：藤井学園寒川高等学校（10/8）
- ・高校訪問：倉敷高等学校（10/16）
- ・高校訪問：岡山県立倉敷中央高等学校（10/26）

- ・オンライン説明会：島根県立津和野高等学校（11/4）
- ・大学教員紹介：吉備ケーブルテレビ出演（11/16）

【服部俊夫】

- ・JICA 草の根を開始した。

【寺岡睦】

- ・高校訪問：学校法人岡山瀬戸内学園倉敷高等学校、2020年10月17日に開催されたオープンスクールでリハビリテーション（作業療法）の説明を行った。
- ・高校訪問：学校法人吉備高原学園吉備高原学園高等学校、2020年12月7日に開催されたガイダンスでリハビリテーション（作業療法）の説明を行った。

【三宅優紀】

- ・園芸療法：2年生の基礎作業実習Ⅱでグリーンヒル順正スタッフとガーデン作り。吉備ケーブルテレビ出演
- ・石蟹ヘルスサロン：備北民報に取り組みが掲載。吉備ケーブルテレビ出演。山陽新聞掲載。

【狩長弘親】

- ・高校訪問：倉敷高等学校（10/16）

Ⅲ. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

作業療法士を目指す意欲の向上、ドロップアウト減少（目標：退学者2%以内、転学科3%以内）を目標に対策を講じている。今年度は12月現在で退学者0%を達成した。前年度の退学率3.8%に比べて大幅に改善した。転学科は12月現在で1名が検討中であるが、それ以外は相談等もない。引き続き、学科教員が一丸となり、学生にとって魅力ある学科を作っていきたい。

Ⅳ. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

新型コロナウイルス感染症対策としては、4月から6月の緊急事態宣言期間の総合臨床実習を臨地から遠隔実習に切替え実施し、一定レベルの学修環境を提供した。その後、7月・8月は、感染症対策の指導を周知し、協力施設より学生23名に対して1ヶ月間の臨地実習を遂行することができた。大学方針に沿い、検温や行動観察の指導を強化し、学生の実施状況を確認しながら指導を継続した。

学内講義に関しては、3密・5密の感染症対策を徹底しておこなった。特に、実習・演習講義において教員が連携し、各教科が同一のグループで講義を実施することができた。同時に、教室環境は、各教室へのアルコールの設置や手指消毒のタイミングの指導、衛生管理指導として掃除担当表の作成と実施、飛沫予防のパーテーション設置、開扉や開窓の定期的な換気、学生ロッカーの定期的な消毒清掃、教員が使用する教材のアルコール消毒の実施、非常勤講師の授業実施時に学科で準備した消毒用品の活用の協力依頼をおこなった。学生が体調不良を感じた際の対応、講義欠席時の学内の手順について

指導した。教員間で学生の体調不良、気分変動等の情報について情報共有を強化した。

ハラスメント対策は、例年通り各期のオリエンテーションでの告知、相談窓口の提示をおこなったが、相談件数は0件であった。

防災対策として、オリエンテーション時に学内避難場所の確認指導を行なった。大雨暴風などの気象予報に備え、休講基準の確認、下宿先の最寄りの避難経路・避難場所の確認、市役所から配信される情報受信の防災アプリを携帯電話にインストールするなど、正確性の高いと思われる情報に基づき安全な修学準備を心がけることや、各自が命を守る行動を取るよう指導した。今後、開催される防災訓練などの活動に参加する予定である。

V. 省エネ対策の取組

講義不実施の際の教室の電気や空調の不使用について見回りを強化し、学生へ協力の指導を強化した。

これまでの教育備品について管理リストの作成を開始し、業務環境の整理を目指すとともに、教育備品の再利用の可能性について整理を開始した。

常時使用する教育備品について、これまでの物品購入時期や購入量や教育備品の購入計画を参照し、備品の使用日数が可能な限り延長できるよう教育備品の使用状況の確認を強化した。

新たな教育備品の購入が必要な際には、価格と耐用年数や使用効率を念頭に置き、可能な限り安価なエコロジカル商品を購入するよう努めた。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

国家試験対策は国家試験委員、4年次チューターを中心に学科教員が一丸となって個別指導、集団学習を促進した。夏休みはグループ学習週3回程度、秋期は月曜日から金曜日の1限から4限まで教員が教室に張り付き、学生の国家試験指導を行った。

また広報活動として、TikTok、Twitter、Youtubeで作業療法学科のPRを定期的に行った。TikTokは200万回を越える再生回数を記録した。さらに、コロナウィルス感染症のため施設入所高齢者と学生が対面できないため、webや動画を通じて交流できるような環境整備を行い、実現した。また、エイズ・結核におけるガレクチン9の重症度マーカーの意義を明らかにした。

地（知）の拠点事業の継続・発展として、ワークシェアリング就労支援プロジェクト（以下、WSP）において、学科教員より教育・研究活動に関連する業務を募り多様な業務経験や社会性技能の練習の場を提供し、地域の事業所へ就職が決定した方を輩出することができた。また、WSPの活動を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨地実習が経験できなかった学生へ、教育の機会として活用した。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 社会福祉学科

学科長名 : 石田 敦

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

①アドミッションポリシー

学生募集停止中のため省略。

②カリキュラムポリシー

社会福祉の基礎や人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養うことを通して、対人支援の基盤となる能力を養成し、社会に貢献できる人材を育成することに努めてきた。特に、他職種との連携調整力の強化を図ることも併せて、取り組むべき課題として設定してきている。教育方法としては、講義・演習・実習をベースに、体験型学習を重視し、特に個別性を尊重するようにしてきている。教員間では、学生に関わる情報共有を図り、学生一人ひとりに合った学習の機会や場を柔軟に提供するように努めてきている。そうして、アクティブラーナー（主体的な学び手）となるための能力を育むことを目指してきた。評価においては、定期テストで高得点を得ることはもちろん重要であるが、その他講義・演習では真摯な授業態度、質問や意見表明など積極的な授業への関わりも評価の対象にしてきた。

本年度を振り返ると、学生一人ひとりの特性や関心に即した対応により、学生の主体性をどれだけ尊重できたか十分に振り返る必要があると感じている。教授法には、個々の教員により相当な違いがあり、それぞれの教員に対し、授業アンケート結果をはじめとして、学生からのフィードバックを積極的に活用し、自らの教授の在り方を反省することが求められると感じている。

③ディプロマポリシー

講義のほか、地域貢献ボランティア、社会福祉士演習・実習、精神保健福祉士演習・実習による、実際の背景をふまえたリアリティのある科目を学ぶことで、視野の広い知識と具体性のある理解力を身に付け、すぐれた実践力とコーディネート力のあるソーシャルワーカーを養成することに努めてきた。社会で起こる諸問題の解決に向けて、学んだソーシャルワークスキルを駆使して自ら適切に判断して行動することができるようになってきているか、今後評価する必要がある。新しい知識やスキルに関心を持ち、常に自分自身を高める自己研鑽の意欲を持つようになってきているかも、評価の対象として確認する必要がある。その意味で、卒業研究は、学生の学習の成果を発揮する場としての意味があるが、その内容を見る限り、決してそのようにはなっていない部分があり、今後の課

題であると感じている。

遠隔授業についての振り返り

以上の各ポリシーとの関連で取り組みを振り返り、さらに以下の補足を行いたい。

何よりもコロナ禍の影響で実習が大きな影響を受けることとなった。社会福祉士実習は、受け入れ先が決まらず、本年度実施分を来年度実施することとした。本来3年次に行く実習を4年次に回したことになる。他方、精神保健福祉士実習は、病院実習と施設実習からなるが、施設実習については予定通り外部で配属実習として実施したが、病院実習については受け入れ先が決まらず、学内実習で対応することとした。学内実習では、本来の福祉の現場で起こり得るあらゆる事態を想定してイメージすることで、ある程度は必要な対応が行えたと考えている。また、学外における配属実習を前提として行っていた実習の事前学習も、また演習授業も、対面で実施できなかった期間があったため、演習本来の学生自身の主体性を重んじた授業形態とはなり得なかった部分があった。しかし、その後の対面授業でそれらの不足分はおおよそ補うことができた。

ただし目下の状況では、今後も現場への配属実習の中止であるとか、遠隔授業の実施を念頭に置く必要がある。実習については、仮に学内において行うとすれば、どのような内容・方法で実施すべきか、目下検討中である。また遠隔授業については、直接の交流に欠けるため、教員からは学生の反応を把握しにくく、受講生からは質問や意見が出しにくいという問題にどのように対応するか検討を要する。この問題を放置すると、結局学生の興味関心を低下させる可能性がある。本年度は、途中で対面の授業となり、そこで、これまでの不十分な面を補うことができ、一応必要な内容とレベルの教授を成しえたと考えている。しかし、遠隔授業が長期に及ぶなら、一方的な情報の提供にならないようにすること、わかりやすい話し方を心がけること、事前の資料の配布を心がけること、課題の提示を明確化すること、そして指名質問を実施すること等を心がけることが重要であると考えている。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

学科教員のそれぞれが、各自設定している研究目標に沿って努力している。主なテーマとして、出産・子育て家族サポートセンター、地方の社会福祉史、不登校児童生徒への支援、ソーシャルワークスーパービジョン、犯罪被害者救済等をあげることができる。これまでに一定の業績を積み上げてきているが、研究に関心のある者とない者との業績には差があり、今後、学科教員全員の研究に対する取り組みが求められることを確認しつつ、一層の研鑽を積むべく、教員一同心を新たにしている。

3) 地域連携活動(各種ボランティア活動、共同研究等)

主なものとして、地域社会に対する専門的なボランティア活動と、科研費による地域社会との共同研究とをあげることができる。具体的には、地元の行政機関であるとか民間組織に対して、次のような活動を積み重ねてきている。つまり、福祉施設の第三者評価委員、行政機関による児童虐待防止関連委員会委員、地域包括支援センター運営委

員、都市建設促進運営委員会委員等である。今後は、地域貢献や地域活動が教員の専門的能力に対する評価の場でもあると捉える必要がある。また実際に、学科教員の専門性が活かされる地域活動が多々存在するので、一層多方面での期待に応える努力をする必要があると感じている。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

コロナ禍において低調であったと言わざるを得ない。それぞれが所属する研究組織、ボランティア活動組織、行政機関の委員会等での活動は行っているが、それらの組織の内部での活動にとどまり、対外的に本学の魅力を訴える機会を得ることに制限を受けた。本年度の状況を念頭に置き、来年度の課題として、対外的な活動を検討したい。

III. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

退学者については、早期に発見し、学生の関心を調査し、保護者と連携して対応にあたることを基本に据えてきた。それらには、さらに個々の学生のパーソナリティや関心に応じた適切なゼミ分けやクラス編成の決定、各学期ごとのオリエンテーションの工夫、そして保護者からの情報収集も含まれる。授業における対応の方法として、アクティブラーニングや遠隔授業の改善も、学生の退学防止につながるものと考えた。しかし不十分な点として、退学者対策として計画を立て、それらを実行し、さらには評価するものの、今後の改善には至っていない点があげられる。たとえば、退学の危険性をはらむ学生に早期の段階で対応するように努めるべきであると反省するものの、実際には授業を欠席し始めた段階での対応に終始している。それでは実際には対応として遅く、むしろ授業に対する関心を失ってきた当初の段階でその動向を把握し、教員の側からの面談や、授業の工夫等に取り組むべきであると考え。今後は、こういった対応に一層取り組みたい。

IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

新型コロナウイルス感染症対策

基本的に大学の定める防止のための規定や方針を順守するべく努めてきた。そして、これらに基づき、教員自らが行動するとともに、学生に対してもこれらを順守するように指導を徹底してきた。今後の課題としては、対面授業が制限されつつも、授業の内容から対面授業が認められる場合において、感染防止策を講じた上で、まずは自宅等で学習できるような課題を設定するように努めることと、接触機会低減のため、可能な範囲で対面授業での滞在時間を減らすように努めることがあげられる。

各種ハラスメント対策

大学の定めるハラスメント防止に関する規定や周知されている内容を尊重し、教員自

らが行動を律するとともに、学生に対しても、その趣旨を十分に尊重するように指導すべく取り組んできた。今後に向けた課題として、発言・身体接触だけでなく SNS での書き込みや執拗に送られてくる SNS 上のメッセージもハラスメント行為に含まれることを念頭に置き、必要な対応を取ることがあげられる。

防災対策

本学の防災マニュアル等を参考に、各教員においては、日頃よりその対応を心がけるように努力してきた。しかし、ほとんどの学生が、実際に災害発生時にどのように行動すべきか、十分に承知しているかは確認できていない。仮に十分に理解していないとするなら、その理解の徹底が今後の課題として残っていると考えている。

その他

大学は、安全・安心が満たされた生活の場として提供されているという前提がある。そのため、リスクに対する感受性が乏しい大学内において、全体的に安全衛生意識のレベルアップを図ることが望まれると考えている。

V. 省エネ対策の取組

教員各自においては、OA 機器の省エネモード設定の徹底及び未使用時の電源のオフ、研究室のエアコンと照明の電源管理に取り組んできた。また学生に対しても、共用スペースのエアコンと証明の電源管理に取り組むように求めてきた。ただし、消し忘れや、室温設定のあいまいさ、さらには階段利用によるエレベータの使用自粛には、必ずしも十分な対応ができていたとは思えず、今後の課題としたい。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

学科学生数減少への対応

3, 4 年次生しかおらず、それも各学年の学生数が極端に少ない状況である。そのため、学生同士が集える場として学生ルームを用意し、教員も交え、日常的に交流の場を持つように努めてきている。だが、基本的に学生間の交流が特定の学生同士の間に限られ、多様性のある活発な学生生活にはなりにくいのが実情である。コロナ禍の下、学内における様々な活動が自粛されており、来年度の更なる在学学生数の減少の下、一層の対応を考えたい。

国家試験対策

社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験対策に例年通り取り組んできてはいるが、学生数が減少することで、むしろ徹底した個人指導が可能となってきた。個々の受験予定者の状況に応じた対応が功を奏していると感じている。

精神的問題を抱える学生に対するフォロー

休学中の学生に対しては、絶えず状況を把握し、必要なフォローを行うべく努めてきている。精神的な不適應で登校できないでいる学生は、容易に改善の兆しを見せないが、再登校を容易にするためにできることを模索し、保護者との連携に努めてきている。今後も一層、こういった取り組みを続ける必要があると感じている。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 心理学科

学科長名 : 森井 康幸

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

●カリキュラムポリシー：基本方針は、『心理学の基礎・基本となる知識や考え方、研究方法をしっかりと修得し、それを土台により専門的に実験的な心理学や臨床的な心理学を学び、公認心理師の基礎力を形成する』である。特に2年次は『より専門的な履修となり、その中心は心理学研究の進め方といった基礎力の育成』ということで、心理学科の基幹となる必修の専門科目が多く配当されている。下記に示すように、例年2年生のGPAが低いが、これはこれらの科目の難しさを反映していると考えられる。より意欲的に取り組ませる工夫が必要といえる。

●ディプロマポリシー：『態度（こころと行動に関する様々な問題、あるいは特定の問題に興味・関心をもち、自ら積極的に探求し、その成果を人間理解に生かし、高い倫理性のもとに自己向上や他者支援につなげていくことができる。）』の面では、学生の両極化が一層進みつつあるように思われる。一時的ではあるが、遠隔授業を行ったことがこの傾向に拍車をかけたように思われる。

* 春学期のGPAは、1年生2.70、2年生2.33、3年生2.58、4年生2.72となり、いずれの学年でも昨年の結果を上回り、全体平均も2.58と学部目標の2.5以上を達成できた。

* 授業評価の結果は前年の評価（平均4.4）を若干上回り、平均4.5であった。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

心理学科教員の研究業績は以下の通り。

- ・書籍：3編（単著1、編著書1、分担執筆1）
- ・研究論文：10編（査読付き3編、第1著者もしくは単著）
- ・学会発表：12件
- ・学会シンポジウム：2件
- ・公開講座・講演など：17件（39回）
- ・競争的資金：4件（科研継続2件（代表）、科研新規1件（共同）、その他学外1件（代表））

卒論研究については、提出件数は31件、そのうちコロナ禍ということで今年度特別に認めた文献研究は9件であった。

* コロナ禍の中ということで、データの収集に制限がかかったため、学会関係の研究発表は大幅に減少した。また、公開講座・講演等の件数も減少した。

* 書籍、研究論文の件数については前年度とほぼ同じ件数であった。

3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等）

地域連携活動

* 高梁市教育委員会の特別支援教育推進事業や学校ふれあい促進事業において、6名の教員がインストラクターとして活動

* 高梁市教育委員会の高梁市いじめ問題対策連絡協議会の委員長

* 高梁市乳幼児健康診査心理相談員として2名の教員が活動

* 岡山県備北保健所の思春期ひきこもり相談・相談員

* 岡山県備中県民局の精神発達相談員

* 市内のNPOと連携してペアレントトレーニング講座の実施

* 心理・発達研究センターにおいて、市民を対象としたシニア動作法の講習など実施

* 心理相談室の業務として、市民の方々への心理面接。

* 複数の教員が、高大連携などにより、スクールカウンセラーとしての活動に関与

* この他にも、多くの教員が、各自の専門性を生かして教育・保育・矯正等の領域で市民講座・研修会・講習会等に協力している（岡山いのちの電話協会相談員継続研修講師など）。

ボランティア活動

* ボランティアサークルに所属する学生も多いが、今年度の活動は抑え気味であった。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

* 出張講座・校内ガイダンス・模擬授業に関しては、要望のあった高校等の全てに対応した（9回）。

その際、岡山県唯一の「心理学部心理学科」であることをアピールしてきた。

* 広報的な講演会・公開活動

・乳幼児健康診査・心理発達相談：高梁市健康づくり課、高梁市役所他（18回）

・子どもの心とからだの総合相談：精神発達相談、岡山県備北保健所

・高梁市子ども未来課ファミリーサポーター研修：子どもの心の発達、高梁市役所

・ペアレント・トレーニング講座：高梁市・NPO法人 color（7回）

・高梁市教育委員会学校ふれあい促進事業：ソーシャルスキルトレーニング、高梁市

立松山高等学校

- ・岡山県備中県民局子育てカレッジネットワーク事業：子どもの心と行動、浅口市中央公民館
- ・初任者研修会：不登校の理解と対応、倉敷市教育センター、ライフパーク倉敷
- ・新任係長級メンタルヘルス研修：倉敷市総務部人事課職員研修所、倉敷市庁舎
- ・教員免許状更新講習：発達障害の理解・支援における行動アセスメント、吉備国際大学他（2回）

* 学科ブログのこまめな更新（目標：年間 40 回）を目指すも、今年度は学科行事等も少なく全く不十分（1月時点で20回）であった。

Ⅲ. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

退学者数は、平成 29 年度 9 名（8.3%）、平成 30 年度 8 名（7.4%）、令和元年度（除籍を含む）は 9 名（6.3%、内 2 名は兵役）と比率においては減少傾向にある。令和 2 年度は現時点で 4 名（2.5%）となっており、キックオフ時の目標値（5%以下）を達成できる見込みである。

- * 学科会議時に、問題のありそうな学生の情報を共有し、対応を検討している。
- * 学生からの相談については、チューターやゼミ担当に限定せず、学生が話しやすい教員が担当するようにしている。
- * 教員と学生、学生間の交流を促す取組みは、新型コロナ感染症の関係で、例年に比べかなり削減したが、1・2年次の基礎演習を中心に実施した。
- * 集団の中での行動が苦手な学生、対人関係づくりそのものが苦手な学生への対応は課題である。
- * 不登校傾向の強い学生にとっては、遠隔授業の実施は修学支援の要となりうることが示唆された。
- * 特に、若い教員の細やかな学生対応（学修支援、居場所提供など）が退学防止に大きな効果を上げている。

IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

- * 新型コロナウイルス感染症対策として、通常の講義科目でのグループ（ペア）・ワークは可能な限り避けた。
- * 心理学実験の実習においては、マスクは当然としてビニール手袋、フェイスガードの着用、使用機器のこまめな消毒を義務づけた。
- * 学外での見学実習においては、1週間前からの健康状態（体温など）の記録を義務づけるとともに、当日の出発前にも検温を実施した。
- * ハラスメントの防止に関しては、学科会議において個々の学生に応じた対応についての注意喚起を呼びかけた。

V. 省エネ対策の取組

- * 学期ごとのオリエンテーション時に省エネ活動の励行を促している。
- * 授業終了後の消灯・エアコン・オフを教員が率先して実行するとともに、学生にも適宜伝えている。
- * 新型コロナウイルス対策として喚気に気を配ったため、エアコンの温度設定については、かなりルーズになった。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

- * 公認心理師指定科目の見直しを行った。
- * 留学生の日本語力向上のため、学科で留学生と日本人学生・教員との学習・談話会を実施することを決定した。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 子ども発達教育学科

学科長名 : 川上 はる江

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

①アドミッションポリシー

【入学者受け入れ方針】

募集停止のため特記事項は無

②カリキュラムポリシー

【教育課程の編成実施】

教養科目、「保育・教育・福祉」などの専門科目を配置し、4年間で124単位以上取得する。

【教育方法と評価】

実践的な指導力育成のため、1年次から3年次に教育実習や体験的な授業科目を履修する。知識、理解だけでなく、態度や技能など多様な到達目標を設定し、講義の形態に合わせた評価を行う。

【成果と課題】

教員養成、保育士養成のコア・カリキュラムを軸として、理論的・実践的に学ぶ体制をとっているため、主体的な学習形態になっている。遠隔授業に向けて資料郵送、集中講義一部取り入れ等で質的保証はできた。課題は、留学生と日本人学生が混在しているため、現カリキュラム上での授業が難しい点にある。

③ディプロマポリシー

【知識・理解】

教育内容、保育内容に関わる知識を身に付け、子どもや保護者への支援の在り方について専門的知識を習得する。

【思考・判断】

講義を通して自らの教育観や保育観を形成するとともに、形成の経緯を振り返ったり、他者の考えと比較したりしながら、教育者としての支援の在り方や判断力を身に付ける。

【技術・行動】

教育保育にかかわる各種の教育技術を身に付け、積極的に保護者と向き合い、専門家としての責任を自覚した行動をとることができる。

【態度】

一人一人の個性を尊重し、子どもたちに生きる力を付けることができる教師、保育士になるために自ら考え、学ぼうとする態度を培う。

【成果と課題】

就職内定率 75% (1.13 現在) のうち 6 割の学生が保育士、教師等専門職職員として内定を得ている。課題としては、留学生に確かな思考力、判断力、技術などを付けるための授業方法の工夫があげられる。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

1. 研究について

【取組と成果】

論文 3 (単著 2 本、分担執筆 1 本) 学会発表 2 件 講演活動 21 回 書籍(編者 1)
講演に関しては、主として岡山県教育委員会主催研修会、岡山県指定の公開研究会、中学校区研修会、小・中学校授業研究会などにおける教師対象の講演。
学会誌作成委員会委員長、学会研究紀要編集委員長として編纂に貢献

【課題】 教員が専門性を高めるために研究を深め論文執筆をする。理論的・実践的に質の高い研究をして社会への還元に努める。

3) 地域連携活動(各種ボランティア活動、共同研究等)

【取組の内容】

- ・「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ」(岡山備中県民局、高梁市子育て支援団体などとの協働)の一環として、①お話し会 12 回、②親子ふれ合い遊び 3 回実施。
- ・高等学校へ出前授業、宇治高等学校「SST(ソーシャルスキルトレーニング)」4 件、城南高等学校 2 件
- ・高梁市内保育園、幼稚園児対象の運動指導 7 回
- ・高梁市立図書館協議会委員長
- ・高梁市障害福祉計画作成委員会委員、社会福祉法人岡山いのちの電話協会スーパーバイザー
- ・高梁市教育委員、高梁市保育士育成プログラム検討委員会アドバイザー
- ・加茂小学校、幼稚園地域協働学校運営協議会委員等

※ボランティア活動

- ・コロナ禍のため例年ほど活動ができなかった。出前講座の時、数名の学生が参加した。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動(ITの活用等を含めて)

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

- ・実践的な講義の TV 報道(中央保育園における IT 環境整備、体育指導)

- ・研究活動発信・・・岡山県教育活動スーパーバイザーに指名3名 講師として講演会、研究会指導21件
- ・「アセスの分析について」勝央中学校校内研修会、
「学校環境適応感尺度『アセス』の活用方法について」総社西中学校研修会、
「生徒の道徳性を育む授業とは」井原市立高屋中学校区教員研修会、
「道徳科の授業づくりと評価」矢掛町小学校道徳部会夏季研修会、等21件
- ・「令和2年度専門里親認定研修」、母子愛育会（予定）講演予定
- ・絵本読み聞かせ出前授業2件 いのちの電話出前講座7件、運動指導7回
- ・高等学校授業への参加 SST（ソーシャルスキルトレーニング）4回

Ⅲ. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

少人数の良さを生かしたきめ細やかな支援に務めている。必要に応じて個別相談を行い、大学の環境に慣れるように配慮している。3回連続欠席の学生の把握、遅刻が多い学生などへは声かけや指導を行い、早い段階に学科教員全体で情報を共有することに努めている。

【成果と課題】

キックオフミーティングでは退学者0を目標にした。長期欠席者は1名、退学者は0名である。課題は留学生の欠席が多いこと。コロナ禍でバイトも減少し生活が困窮している。バイト先の確保が難しい。

Ⅳ. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

【授業】

- ・座席指定、喚気の徹底、アルコール消毒、協同学習実施では距離を確保することを徹底している。
- ・健康観察の声掛け（情報担当中心）、生活上での3密回避の徹底を繰り返し指導している。

【交流・実習】

- ・保育園、幼稚園児との交流では、2週間前からの健康観察を義務付け厳重に確認したうえで実施した。
- ・教師も日ごろから節度ある行動に努め、感染を予防している。

【各種ハラスメント】

- ・会議を通して教員への声掛けや情報交換をしている。学生の様子や声にアンテナをめぐらし、お互いに情報の共有を心掛けている。
- ・チューター、ゼミ担当を中心に学生の居場所づくりに努め、連携を密にしている。

【防災対策】

- ・防災関係の連絡網を確認するとともに、「報告、連絡、相談」体制を徹底し窓口を一本化している。

V. 省エネ対策の取組

【取組の内容】

- ・オリエンテーション時に資料を基に、環境教育の必要性を説明し、実践することを啓発している。
- ・講義後の消灯、エアコンの温度調節などについて随時指導を行い確認している。
- ・全職員が無駄な電力消費を防ぐため、消灯、エアコンの温度調節に心掛けている。階段の上り下りも無理のない範囲で実践している。
- ・紙の無駄使いをしないように、20枚以上はコピーしないことを励行している。

【成果と課題】

- ・教員の意識は高く、消灯、冷暖房の温度調節、階段利用に心掛けている様子が見られる。学生の意識も高まりつつあるが、繰り返し啓発活動が必要である。
- ・ツキモトへの聞き取り調査から、汚れや落書きが減ったこと、ごみ分別も以前よりきちんと実施できていることが分かった。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

目標

1. 教育内容の充実

- ・学力向上：日本人学生はGPA2.5を突破しているが、外国人にとっては壁が高い。
GPAの目標値2.5以上 現段階GPA・・・2.38（留学生含む）
- ・留学生に対する講義内容の工夫：体験的、協同的な講義を心掛け、主体的に学ぶ体制に努めている。
コロナ禍でパソコン環境が整わない留学生がいる（スマホ対応）
- ・大学の学びを社会へ還元：出張講義、講演目標値10回以上・・・実施21回 運動指導7回
出張講義、研究分野を生かした講演活動により、社会への還元は成果を上げている。

2. 退学、除籍者防止

- ・長期欠席1名（留学生） 退学者、除籍者は0名

3. 就職率100%

- ・75%（1.13現在）が決定。未定者4名 教職対策講座（全学対象年間90回）の計画的実施は有効である。

【今後の課題】

日本の教育、保育の仕方を学びたいとアジア諸国の大学から留学生入学が増えた。資格を伴うので内容が難しく理解不十分な状態である。教師は合理的配慮の仕方を模索している。幼稚園、小学校教諭資格は難しいが、日本の教育の内容を知ることではできると説明している。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 地域創成農学科

学科長名 : 谷坂 隆俊

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

教員一同オンライン講義に対して全力で取り組んだ。オンライン講義の準備には、対面講義と比べて数倍～十数倍の時間と労力が必要であったが、すべての教員がオンライン講義をそつなくこなすことができた。非常勤講師を含む全教員に敬意を表したい。ただし、本学の建学の理念である「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」を達成するために必須の「学生との身近な接触」が、COVID-19の広がりにより不可能であった。COVID-19収束後は、学生との身近な接触到に努め、建学の理念に則った教育活動を推進しなければならないと考えている。オンライン講義の実施に当たっては、パワーポイントや動画、ホワイトボードソフトを用いて重要部分を説明するなど、講義に飽きがこないようにしたり、ディスプレイを利用しない講義時間あるいは休憩時間を設け、眼精疲労を招来しないようにしたり、学生からの意見や質問は必ず次回の授業に反映させることによって「この先生は私の意見を聞いている」という満足感を引き出し、授業が双方向性であることを強く認識させたりするなどの創意工夫がこらされた。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

COVID-19の流行により研究活動の停滞を余儀なくされた。とくに、遺伝解析をとともなう植物研究（1サイクル5-6年）に対する影響が大きく、現在までの公表論文数は例年の30%程度にとどまっている。卒論研究は3密を回避するという条件で6月からスタートさせた。

【学術論文】 1) Taketa S., Hattori M., Takami T., Himi E., Sakamoto W. Barley albino lemma 1 resulted from mutations in a Golden2-like gene reduces seed weight. *Plant Cell Physiology*, (in press). 2) 竹生敏幸・許 冲・谷坂隆俊: 低投入持続型農業の実現に向けたバイオスティミュラントの利用による土壌作りと水質浄化. *農耕と園芸* 2020年秋号: 49-53. (2020年8月). 3) 濱島敦博: 貯蔵ブドウ輸出にみる青果物輸出マーケティングの多様性. *開発学研究* 31(2)、2020年12月.

【著書】 1) 相野公孝: 植物病理学 (第2版) 第4章 病害の診断法 1. 診断のプロセス、第5章 生物的防除 (眞山滋志・土佐幸雄編)、文永堂出版 総頁347. (2020年3月). 2) 平井順: 米軍基地と沖縄地域社会: 111-127、「宜野湾市の旧字継承団体」ナカニシヤ出版 (2020年11月6日)

【学会発表】 1) 船越 孝之, 桧原 健一郎, 小川 拓水, 手塚 孝弘, 太田 大策, 横井 修司: イネ種子の γ -オリザノール含量を規定する候補因子の探索. 日本育種学会第 137 回講演会 (2020 年 3 月 28 日) 2) 氷見英子: コムギ種子のカテキン量と種子休眠との関係について. 第 137 回日本育種学会講演会・2020 年 3 月 29 日. 3) 藤本 源、渡部 太緒、荒川 恵理、小出 陽平、門田 有希、寺石 政義、伊藤 純一、桧原 健一郎、長戸 康郎、奥本 裕、吉川 貴徳: イネの生育相転換に関与する qJA1、qJA2 が地域適応性に及ぼす効果. 日本育種学会第 137 回講演会 2020 年 3 月 29 日. 4) 桧原 健一郎、武田 真、伊藤 純一: オオムギ MANY-NODED DWARF 遺伝子群による葉間期制御. 日本育種学会第 137 回講演会 2020 年 3 月 29 日. 5) 原幸代, 相野公孝, 村上二郎: 揮発性抗菌物質である 1-Phenyl-3-Pentanone は, ムギ類赤かび病菌 (*Fusarium graminearum*) の成長のみならずカビ毒の生産も抑制する. 令和 2 年度日本植物病理学会 (2020 年 3 月). 6) 稲田 隆仁, 吉永 翔一郎, 寺本翔太, 奥本 裕, 谷坂 隆俊, 築山 柁司: イネ熱帯ジャポニカ品種における自立性転移因子 Ping のエピジェネティックな制御. 第 138 回日本育種学会講演会 (2020 年 10 月 10 日). 7) 蝶野 真喜子, 藤田 雅也, 神山 紀子, 松中 仁, 氷見 英子, 市田 裕之, 阿部 知子, 川上 直人: 粒の赤味が弱い新規コムギ変異体の農業特性. 第 138 回日本育種学会講演会 (2020 年 10 月 11 日). 8) 佐藤敦信, 濱島敦博: 日本産丸太の輸出拡大と協議会設立を通じた森林組合の取り組み—鹿児島県・宮崎県木材輸出戦略協議会の事例. 日本国際地域開発学会秋季大会 (2020 年 11 月 14 日).

【競争的資金】 1) 「イネ巨大胚変異体を利用した胚—胚乳間相互作用における胚側要因の解明 科学研究費基盤研究(C) (代表) 2) [軍用地コンバージョンの国際比較—沖縄の基地移転と跡地再開発をめぐる地域社会研究] 科学研究費基盤研究(B) 、 3) [転移因子の活性を制御するエピゲノムリプログラミング機構の解明] 科学研究費基盤研究(C) 4) 「8つの研究会」: 南あわじ市受託研究、 5) 「コムギ種子内在性 GABA が種子休眠に与える影響について」公益財団法人 飯島藤十郎記念食品科学振興財団 学術研究助成、 6) 「有機酸資材「NE」の作物栽培における有効性に関する研究」Renaissance 株式会社、 7) 「新規素材の植物病害に対する防除効果の検証」フマキラー株式会社など

3) 地域連携活動 (各種ボランティア活動、共同研究等)

○ボランティア委員

1) 南あわじ市教育基本計画策定委員会委員長、 2) 南あわじ市いじめ問題対策検討委員会委員長 (2017~)、 3) 南あわじ市就農支援連絡協議会長、 4) 南あわじ市人農地プラン検討委員、 5) 南あわじ市浮体式多目的公園活用検討委員

○初・中等教育に対するサービス

1) 兵庫県立淡路三原高校の生物実験『分子生物学-PCR と電気泳動』の理論および技術の指導等 (11 月)

○地域企業・農業者に対するサービス

1) 淡路島におけるマンゴー商業栽培の可能性の有無の調査研究 (2020.3～)、2) 「淡路島なるとオレンジ」のアレルギー表示に関する相談((株) 長手長栄堂。洲本市, 2020年8月)、3) ソルガム種子成分についての相談((株) 中野産業、高松市, 2020年5月)、4) 南あわじ市野菜病害防除協議会での病虫調査指導 (2020.4～)、5) 淡路地域での病害診断とその対策指導 (2020.4～)、6) タマネギ病害の病原体調査 (JA 職員からの調査依頼)

○学外学外共同研究・学内共同研究 (タイトル・共同研究機関)

1) 「有胚乳種子の胚サイズを制御する胚、胚乳側要因の探索」2020年度国立遺伝学研究所共同研究「NIG-JOINT」共同研究(B) 2020年4月 - 2021年3月 *新型コロナウイルス感染症対策で国立遺伝学研究所へ出張ができなかったため、2020年度実施は中止し、2021年度に再受給される予定。2) 「コムギ新規休眠関連遺伝子の解析」令和2年度 岡山大学資源植物科学研究所 共同研究課題・岡山大学資源植物科学研究所 3) 「アジアにおける日本の農産物・食品の受容過程と輸入拡大要因に関する研究」

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動 (ITの活用等を含めて)

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

1. 本学科の魅力を伝えるための農学部ガイドブック (電子ファイル版) を作成し、このコピーをオープンキャンパスや高校訪問の際に配布した。2. 人工光利用型植物工場と太陽光利用型植物工場は本学科における学生募集に大きな役割を担っており、後者を利用するトマトの周年溶液土耕栽培の様子は、オープンキャンパスやキャンパス見学会における重要な“目玉”となっている。これを支えているのは本学非常勤講師の梅津憲治先生である。ご担当の講義日以外にも週に1-2回の頻度で来学しトマトの栽培管理を行っていただいている。梅津先生のご厚意に対して深甚の謝意を表す。3. 本学科は世界の先端を走る研究と技術を有している。オープンキャンパスや見学会等で、このことを強調し説明している。4. 本学では、圃場が大学内および大学の近辺にあること、これを利用することによって他大学ではマネのできない農業体験が可能となることをも宣伝材料としている。5. COVID-19によりシンポジウムや公開講座等は実施できなかったが、このことが学生募集に負の影響を与えるとは考えていない。本学科の魅力は現場を見せてこそ伝えられものであり、今後も“見せられるもの”作りに力を注いでいくことにしている。

III. 退学者対策について (修学支援において、各種取組み・活動等)

農学部における過去の退学者の退学理由をみると、指導教員に対する不満 (“確執” まではいかない) がもっとも多く、次いで家庭環境である。したがって、退学者対策でもっとも重要なことは、「学生に寄り添った日常」を教員が実践することではないか。なかでも大切なことは、上から目線、強要、形式に対する必要以上のこだわりを避ける

ことである。教員一人ひとりの努力によって退学はかなり抑えられるであろう。

IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

1) COVID-19 対策に関しては、農学部が位置する兵庫県は本年度当初より感染が広がっていた地域であること、講義が多く、非常勤講師の先生に依拠しており、これらの先生の多くが京阪神地域から公共交通機関を使って来てくださっていることから、原則的には大学の方針に従ってきたものの、農学部独自の対策を講じてきた。2) また、オンライン講義の実施期間および対面講義に移行後の期間であっても、各教員はLINEなどを通じて担当学生と連絡をとりあい、無事であることの確認と生活および学習上の支援を行ってきている。3) 秋学期はほぼ対面授業に戻したため、徹底した感染防御対策を講じた。すなわち各教室、実験室への立ち入り記録作成、実験台、実験器具、手指のアルコール消毒を徹底した。また醸造棟への出入管理システムを導入し、教員、学生の出入管理を自動的に記録するシステムを導入した。3) ハラスメント対策については大学の方針に従うことになっているが、本年度もハラスメント事案は皆無であった。

V. 省エネ対策の取組

学科としての取り組みはなかったが、構成員一人ひとりが省エネに対する意識が強く、これにしっかり協力できたと考えている。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

地域創成農学科に限らず農学部の2学科の最大の取り組みは、学生定員をいかにして充足するかを考え実行することである。すなわち、受験生や在学生にとって魅力のある学部づくりである。以上の観点から、本年度は、以下の点について重点的に取り組んだ。1) 講義科目の見直し：次年度に醸造学科の完成年次を迎えるため、これに合わせて本学科でも講義科目の見直しを行うことにし、そのためのワーキンググループを立ち上げた。現在の講義科目のなかには、吉備国際大学の‘国際’を意図したものがなく、これに関係する講義科目（英語で行う講義科目、専門英語、国際会計学など）の充実を考えている。2) 農学部の将来構想：これまで通り、農学部将来構想委員会（本学科＋醸造学科）を中心にして、農学部の将来像を話し合った。3) オリジナル TEXT の作成：授業を充実させ、さらに全教員の研究内容を学生に伝えるための地域創成農学概論（醸造学科にあっては醸造学概論）の TEXT（簡易製本）を作成するためのワーキンググループを立ち上げた。バイオサイエンスの中心分野である農学系の既存の教科書は出版時にすでに内容が古くなってしまい使えない。これを避けるために地域創成農学概論は2年に一度改定する。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 醸造学科

学科長名 : 福田 恵温

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

- 醸造学科会議：学科全体の課題解決、情報共有を目的に学科会議を定期的（毎月、及び重要課題がある毎）に開催している。今年度はコロナウイルス感染予防を目的とした組織作り、オンライン講義体制の確立などの懸案事項が多く、毎月2回程度の会議を開催することになった。またこれ以外に各教員に役割を分担していただき、組織的かつ自主的な活動が行えるようになった。その結果、教員間の連携がきわめて密になり、協力体制が出来上がったと考えている。特に学科予算の執行状況は学科内でオープンにし、各々が全体のバランスを考えた上での予算執行を行うことができています。
- 学生への指導：教育後援会および特設で担当学生の保護者との面談を実施し、これまでの学習過程と今後の方針についての建設的な話し合いを行っている。キメ細かな対応を行うことにより、それぞれの学生が生活全般における自発性・積極性の萌芽や推進を指導するよう努めている。本件も学科会議を通して教員全員が積極的に取り組めるよう努めている。
- 基礎演習の新しい試み：醸造学科のカリキュラムポリシーである「学生が創造力を養い、独創的な発想ができる力を身につける」教育を実現するため、課題に6、7名のグループで取り組むPBL授業を学科全体で試験的に導入した。特に、今年度は学科1、2年生及び教員の交流を促進することも、主要な目的の1つとした。初回の課題は「ゼリー状玉ねぎスープの販売パッケージ企画の立案」とし、10月から5週にわたり大講義室で2学年合同で、パッケージ研究から始まり、販売ターゲット、商品名、キャッチフレーズ、パッケージデザインを議論し、最終週にプレゼンテーションするプログラムを実施した。ブレインストーミングも含めた新しい発想法の訓練にもなり、1、2年生が議論することによりお互いを理解しあう良いきっかけになったのではないかと考えている。
- オンライン講義：初めての試みであり、学科で十分な議論を行った上で実施した。学生の表情が見えにくい、学習理解度が分かりにくいことから、授業中あるいは最後に積極的に質問を促し、課題、小テストを行うことにより講義内容理解度の向上に努めた。
- 実験科目・実習：コロナウイルス感染防御を図るため、実験関連授業は秋学期に移動させ、短期集中で実施した。ある程度時間をかけて実施したため、却って実験内容の

理解度が向上したのではないかと考えている。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

- 卒論研究：春学期は学生の登校を控えたため、ほとんど卒業研究を実施できなかったが、秋学期からは感染対策を講じた上でそれぞれ実験を開始している。醸造学科は2年生も積極的であり、一部の学生は自らのテーマを設定し、教員の指導を受けながら実験を開始している。
- 地域創成農学科大学院生の研究指導：大学院2年生2名の修士論文作成、研究発表に向けての指導を行っている。
- 学会発表：今年はコロナウイルス感染の影響を受け、ほとんどがWEB上開催となり、2件の発表のみとなった（醸造協会、日本惑星科学連合大会）。その他種々研究会への講演を積極的に行った。
- 受託研究：作物の栽培、植物病害防除、醸造関連2件、機能性食品開発などの受託研究を実施、また淡路島内外の企業からも種々技術相談を受けている。吉備国際大学醸造学科の技術力は高い評価を受けていると考えている。

3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等）

- 共同研究：神戸大学と果実の香り成分に関する研究、播磨農業高校とは家畜用食餌、蜂蜜などの呈味物質に関する研究を継続している。
- 包括契約へ向けての協議：兵庫県内の発酵関連企業より本学醸造学科との共同研究・開発に関する包括契約を前提とした研究会（会議体）を実施したいとの要望があり、定期的に合同会議を実施している。双方で共同開発に発展できるテーマを検討中である。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

- 本学農学部醸造学科ブログの更新を頻繁に行っており、各種イベントはもとより、教職員・学生の活動状況を適宜掲載している。本学に関心のある高校生、保護者、高校教員、さらには地域住民・一般市民に向けて有益な情報、本学の魅力を伝えるよう心がけている。
- 学科紹介ビデオを地域創成農学科と共同で作成した。学生目線で紹介しており、受験生から見れば吉備国際大学農学部に興味を抱いてくれそうないい内容に仕上がっているのではないかと考えている。ネットから視聴して本学に関心を抱くきっかけになることを期待している。
- オープンキャンパス・キャンパス見学会等の見学者向けとして、醸造棟内に研究紹介スペースを設置した。さらに最新の大学イベント・関連情報を含む掲示物を常に拡充している。

- 近隣高等学校への出張授業、ガイダンスを計4回実施している。本年度はコロナウイルスの影響もあり、回数は少ないが密度の濃い授業ができています。
- 各種研究会、研修会（ジビエ、醸造関係など）への講演5回。
- 外部展示会への出展
 - ・国際フロンティア産業メッセ 2020@神戸国際展示場 in 神戸ポートアイランド
 - ・キッズ本格おしごと体験 2020@イオンモール伊丹
- 新聞、TV等への取材、報道：計18件
- 各種委員：兵庫県地域創生戦略会議企画委員会分野別検討会委員、南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証員会（金沢）、播磨広域連携G1「はりま酒」品質評価審査委員長（井上）

III. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

- 遠隔授業が続いたためか、春学期後半ごろから学生生活や対人関係に不安を訴える学生が散見された。そのため、秋学期開始への不安を軽減することを主な目的として、9月下旬にすべての一年生に対し、2名の教員で面談を行った。学生の状況は学科教員内で情報共有し、秋学期の学生指導に活用した。
- 授業連続欠席者にはキメ細かなフォローを行い、場合によっては保護者との面談を積極的に実施してきた。退学寸前であった学生にも複数の教員が協力することにより、授業に出席できるようになってきた。しかしまだ一部、大学に出て来れない学生もいるため、友人関係も含めて環境整備に努める。

IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

- コロナ対策：秋学期はほぼ対面授業に戻したため、徹底した感染防御対策を講じた。すなわち各教室、実験室への立ち入り記録作成、実験台、実験器具、手指のアルコール消毒を徹底した。また醸造棟への出入管理システムを導入し、教員、学生の出入管理を自動的に記録するようにした。
- 醸造学科は危険を伴う化学実験も行うため、教員が居ない時間帯の実験は禁止している。止むを得ない場合は、担当教員が実験完了まで立ち会うことにした。
- 種々ハラスメントに関しては教員間の連携を密にし、また学生からの意見を訊く機会も増やして不公平感が生じないように注意している。
- 未成年飲酒禁止に関しては、1, 2年生を対象に神戸税関（酒税担当）の担当者による講義、啓発活動を実施している。

V. 省エネ対策の取組

- 帰宅時はもちろん一時退室時にも室内灯の消灯、エアコンをオフにするよう努めている。その他、気が付けば積極的に省エネを教員一同心がけている。廊下の電灯は外部の見学者の対応時以外は消灯する、不要電源を切るよう心がけており、学生にも努めて徹底するよう指導している。醸造棟以外の建屋（食堂など）もこまめにエアコン、

電源オフを確認している。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

- コロナ対策、WEB 授業対策への取り組み：昨年コロナウイルス感染が広がり出した 2 月には、WEB 授業への対応が必要と考え、いち早く醸造学科内で検討委員会を立ち上げた。その後地域創成農学科とも連携して、Teams による授業方式を確立できた。
- 「日本の食文化」実習：醸造学科の目玉である「日本の食文化実習」第一回目を昨年 末京都にて実施し、講師のたん熊・栗栖先生には大変熱心にご指導をいただいた。茶懐石から日本文化、武士道につながる極めて興味深い内容であった。第二回目を 1 月 19, 20 日に実施する予定であったが、兵庫県、大阪府、京都府に非常事態宣言が発令されることになったため、当面延期することにした。年度内には実施したく検討中である。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 外国学科

学科長名 : 畝 伊智朗

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

1. 3つのポリシーの方針の具現化に対する評価と課題

①アドミッションポリシー（記述割愛）

*評価・課題

当学科の学生はこのポリシーで定める知識・理解、思考・判断、技術・行動、態度の各種目標を目指す。海外事業、海外勤務などに関する必要な専門基礎力が不足している。普段の生活において、所謂、国際教養と共に社会生活を営む上で重要な要素、「躰け」に類することも意識的に指導すべきと認識。学科全体での取組みが必要。

②カリキュラムポリシー（記述割愛）

*評価・課題

- ・TOEIC IP テストを9月（例年8月）、2月に実施し、英語学修のモニタリングを継続実施。
- ・英語教育について基礎学力の不足が指摘されており、必要な取組みを実施。
- ・2020年度、短期の交換留学生の他にも、正規留学生を受入れることとし、2019年度のカリキュラム改善をベースとして、日本語科目の追加や日本語教員養成課程に必要な科目を導入した新カリキュラムを施行した。
- ・英語を活かした就職を希望する学生が多い。実際の求人では、2つの外国語を求める企業もある。このようなニーズに対応するため、カリキュラムの必要な見直しを図っていく必要がある。

③ディプロマポリシー（記述割愛）

*評価・課題

入学前説明会を行うことにより、入学前に英語の基礎力を向上させる取組みを紹介したり、自学自修教材の指定をして、入学予定者の学修意欲の向上に努めている。英語以外の基礎学力を事前に身につけてもらう必要があり、そのため、全学で導入したWEB教材などの活用をしている。入学までにどれだけ自己学修したかによって、学科での学修に影響を及ぼすので、入学前指導をこれまで以上に充実させる必要がある。

2. 教育活動の結果、評価および課題

1) 学科の特色づくり対策

- ・2019年度4月より、2019カリキュラムを施行。このカリキュラムは、正規留学生に

対応するためスタディ・アブロードⅠの代わりにインターンシップⅠを必修とした。また、専門科目に科学技術に関連する専門日本語科目を開講し、日本留学の意義を高めるカリキュラム内容となっている。2019年度入学の留学生2名がインターンシップⅠとⅡを受講した。日本語能力試験2級(N2)以上を満たしているため、受講の条件はクリア。開講年次において受講できた。留学生については、入学時に2年次までにN2を取得見込の能力やモチベーションが必要。

- ・本年度はスタディ・アブロードに学生を派遣ができず、現地の大学等が開講するオンライン授業を受講することでスタディ・アブロードの単位取得ができるよう暫定的な運用を行なった。

- ・本年度はスタディ・アブロードの現地への派遣ができず、現地の大学等が開講するオンライン授業に変更した。本年度春学期の半分はオンライン授業となったが、従来から派遣先の海外の大学等ではPCは必携となることから、1年次のうちからPCによる課題・プレゼン資料の作成等、留学先あるいは就職活動、卒業後の就職先等では必要なスキルとなるので、タブレットやPCを必携にする必要がある。

- ・教育・研究について発信する学科を目指して、『いぶき・めぶき』、『グローバルデザイン論攷』を発刊している。(担当：高橋正巳)

- ・英語専攻の学生は、卒業論文を英語で書くこととし、本年度英語専攻学生8名は卒業論文を英語で書いた。これも学科の教育の特色として維持していきたい。

2) 学生の授業評価の結果、評価と今後の課題

本年度春学期における外国学科の授業アンケート結果は、教員に関する質問に対し学生から4.5～4.6の評価を得た。教員に関する質問のうち「学生が聞き取りやすいように話していた」は学科平均4.6(全学部平均4.5)、「学生の理解に合わせた授業をしていた」は学科平均4.5(全学部平均4.4)、「授業方法を工夫していた」は学科平均4.5(全学部平均4.4)であり、全学部に比べて外国学科は高い評価を得た。しかし、昨年度の学科平均4.5～4.7と比べると今年度の評価は低下している。これについては授業改善の余地がある。また、春学期は対面授業と遠隔授業が行われたが、学生からは遠隔授業に対して大きな不満の声もなく適切に授業を行うことができた。

3) アクティブラーニングの取組状況

各科目で積極的に導入している。しかしながら、コロナ禍の影響で、グループワークなどの活動は大きな制限を受けた。その中で、学生のプレゼンテーションを増やす、発表の機会を増やすなどの取組みがなされている。1例として、「ラーニング・スキルズ」では、ラーニング・ログを活用し、学生自身で学習目標設定・実行・チェック・評価をする。その過程及び結果を発表し、レポートにまとめる等の取組みを行なっている。

4) 特記事項

英語担当教員は授業時間外に指導時間を設けており、教員の研究室で質問・自習をする学生も少なくない。コロナ対策に留意しながらも、夏休み期間中、学生の要望をと

り、個別補習時間を設けて指導した。春休みも同様。

イベントなどは次のとおり。

(1)短期研修団との交流：すべて中止

(2)ANA スクール紹介セミナー：中止

(3)協定校からの交換留学生として、ハノイ貿易大学から1名の交換留学生を受入れた。在学生との交流を図った。

(4)スタディアブロードはこの学科の特色であり、全員参加する卒業必修でもある。そのため、本年度は3月6日(土)に保護者を交えた三者面談を行い、留学先などを協議する予定。これを通じ、関係者のコンセンサスづくりを行っている。

なお、コロナ禍の影響で、2年生学生50名が留学に出発できないため、オンライン留学の制度導入に関し、保護者向け説明会を対面・オンライン併用で7月1回、9月2回、計3回実施。

(5)公開講演会の実施：すべて中止

(6)英語を用いた学科内交流イベント(担当：カルロス・ガルシア)：例年英語による学科内交流イベントを5回実施しているが、本年度については、コロナ禍の影響で、10月のハロウィーン・パーティのみ、規模を大幅に縮小して実施。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

1) 研究成果、結果と評価

各教員が研究に取り組んでいる。学科教員による共同研究が課題。

2) 論文・学会発表等 (R2年1月～12月)

(論文)

・高木秀明、「光ファイバー分光器を用いたマイクロレンズアレイを通過した可視光線のスペクトル測定」、吉備国際大学研究紀要医療自然科学系、第30号、pp. 45-51。令和2年3月発行。

・高木秀明、「天然染料ウコンのモデル化合物の計算化学の一例」、文化財情報学研究、第17号、pp. 15-22。令和2年3月発行。

・Mika Merviö (編著) Global Issues and Innovative Solutions in Healthcare, Culture, and the Environment. (編集および分担執筆: the Preface and Chapter 15: The Social Significance of Visual Arts: State, Nation, and Visual Art in Japan and Finland, pp 301-316). IGI Global; Hershey, Pennsylvania June 2020. 366 pages.

・寺田貴子、下山進、下山裕子、大下浩司、與那嶺一子、篠原あかね「琉球王国文化遺産集積・再興事業における琉球古刺繍の復元」沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要、13号、pp. 85-108、2020年3月

・大下浩司「デジタル写真のソフトウェア解析による不透明水彩絵具のマンセル値簡易推定の試み」文化財情報学研究、17号、pp. 1-4、2020年3月

・Mayumi Kanazawa ” Fostering Autonomous Language Learners at A Japanese University: A case study” , Problems of Education in the 21st Century, Special Issue, accepted and to be published.

(学会発表)

・高木秀明、「微小なレンズの分光特性の評価」、第25回岡山リサーチパーク研究・展示発表会、テクノサポート岡山、令和2年12月発行・配布

・高橋正已『「西洋近代文明」と「アジアリージョナル」 — 中山間地域と「地域の経済」—』6月27日、地総研&ホモセル合同研究会 於:前橋市

・高橋正已『「西洋近代文明」発展の帰結としての「ウイルス問題」 — 「地域の経済」への社会経済的接近から —』8月22日・23日、ホモセル研究会 於:高梁市宇治町

・高橋正已『「持続可能な社会経済システム」の構築に向けて — 二つの「グローバル」の視点から —』10月10日、経済社会学会 パネルディスカッション共通論題「成長・連帯・持続可能性」パネラー オンライン開催

・Mika Merviö、3rd KLASICA Taipei Symposium, Online workshop via Zoom 26-28 October 2020, focusing on “Digital Narratives in the Quest for Sustainable Futures” .

3) 地域連携活動 (各種ボランティア活動、共同研究等)

1) 公開講座 すべて中止

2) ボランティア活動

10月17日～18日 吹屋陶芸館 陶芸窯焼きプロジェクト 学生3名参加 (高橋正已)
< ボランティアサークル SVC の活動 (池上真由美) >

- ・岡山県警犯罪被害者支援室の依頼で被害者向けのリーフレットを英訳。
- ・犯罪被害者の方を励ますために、学生が英会話教室を企画したり、誕生日にメッセージを送ったりして交流。
- ・市内保育園における運動会練習の片付け・草取り等の手伝いに有志が参加。
- ・清掃業者不在期間中、学内の清掃をサークル有志が行った。

3) 県立総社南高等学校学校評議員、美咲町教育委員会英語特区アドバイザー (池上真由美)

4) 英語スピーチコンテスト高梁市教育委員会主催中学校英語スピーチコンテスト (有漢生涯学習センターにて) 審査委員長を務めた。(橋本由紀子)

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動 (ITの活用等を含めて)

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

1) 魅力ある学科の情報発信への取組

入試広報室からの提案と助力で動画配信サイトを利用した教員による動画学科案内、

大学案内に同封する学科パンフレットの作成などを行った。BLOGで学科の状況を配信しているが、春学期の約半分がオンライン授業となり、在学生の様子を伝えるのは、対面授業開始以降となった。

2) オープンキャンパスへの取組と課題

本年度は、新型コロナウイルス対策対応のため、7月からの開催。入試日程の後ろ倒しもあり、全体的に参加者が減少。ただし、予約した受験生・高校生はほぼ全員参加。6月14日（オンラインのみ、3名）、7月12日（オンライン参加含み21名、この他海外在住の別科生等のオンライン参加もあり）、8月22日（24名）、9月20日（17名）、11月8日（2名）、12月13日（10名）。別科生向けに、12月21日、説明会を別途開催した（16名）。参加者の多くが出願したようである。7月以降のオープンキャンパスには、在学生が積極的に参加してくれたため、受験生・保護者には生の情報提供が行えた。参加者からは好評であった。

3) 校内ガイダンス、出前授業の取り組みと課題

コロナ禍の影響で、この取組みは大幅な制限を受けた。その中で、校内ガイダンスを積極的に実施。10月8日倉敷高校（畝）、11月13日広島新庄高校（オンライン、畝）、12月2日英明高校（高木）、12月9日津山商業高校（加藤）、12月11日作陽高校（畝）。

4) 就職活動の取組と課題

2020年12月25日現在、卒業予定者18名のうち8名が進路決定届を提出している。8名のうち1名は教員採用の内定で残りの7名は、一般企業に内定。残り10名は、企業への就職正規採用へ応募しない学生、引き続き就職活動中の学生である。コロナ禍の影響で本来第一希望であった企業の採用活動の中止、採用活動開始時期の遅れなどの影響で活動が上手くできず、例年よりも内定率が低い結果となっている。引き続き、キャリアサポートセンターと連携し指導を行う。

Ⅲ. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

令和元年度は、退学者は4名（うち留学生2名）だが、他年度に比べると退学者が少ない年度であった。

学生数も多くなっており、退学率は減少傾向を維持している。令和2年度は、退学者が出やすい1年次生(入学不適合)1名と2年次生(休学中、9月退学)1名のみで、学科の退学者対策が効果を発現している。退学者2名は、入学前から問題を抱えていた学生で、学科になじむことが出来ず孤立気味であった。担当教員を中心に細やかなサポートに務めていたが、やむを得ない点も多かった。

外国学科では、健康管理センターの池本先生に協力いただき、入学時の全員面談や留学前の健康相談、留学前の三者面談、教育後援会岡山会場などを活用して、学生や保護者との面談の機会を多数準備し、学生の問題把握に努めている。

今後の退学者対策の課題としては、英語力の不足している成績不振学生に対する支援

体制の構築や年々増加している不適合学生に対する支援(合理的配慮等を含む)を積極的に進める必要がある。

IV. 修学環境の安全管理対策など(新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等)

新型コロナウイルス感染症対策に関しては、大学の方針に従い、対策の周知徹底、健康観察記録の入力指示、授業中の換気、休暇期間中の移動自粛など、学生指導に努めてきた。例年実施してきた学科内交流イベントもほとんどを自粛とした。

各種ハラスメント対策に関しては、オリエンテーション、授業、ゼミ指導などを通じ指導をしている。

なお、スタディアブロード事前指導の科目において、リスク・マネジメントなどの講義をしており、海外における安全管理対策の指導をしている。スタディアブロード中は、外務省の「たびレジ」に登録すると共に、在留届を所轄の日本大使館などに提出するよう指導している。

V. 省エネ対策の取組

本学の環境活動方針に従い、節電などの省エネ対策に取り組んでいる。授業などでも環境問題を取り上げ、学生の意識向上を図っている。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

1) 外部資金の獲得状況と課題

- ・科学研究費補助金基盤研究Bに応募(高木秀明)
- ・日本学生支援機構 海外留学支援制度(協定派遣)学生交流推進タイプ(タイプB)を採択

令和元年度 奨学金支給割当人数 7人、配分額 1,800,000円
割当人数7名に対して7名分全て実施。

令和2年度 奨学金支給割当人数 30人、配分額 10,510,000円
コロナ禍で海外留学が実施出来ず、実施対象者は0名で未実施。

2) コロナ禍に伴う留学中学生の早期帰国オペレーション

昨年3月初旬、9名の学生が米国、カナダ、オーストラリア、イタリア、ドイツ、リトアニアに滞在中であった。そのうち、8名を早期帰国させることとし、学内関係部署の協力を得つつ、オペレーションを実施。感染者をだすことなく、全員無事帰国した。4名の学生は、帰国後、成田空港、羽田空港近くのホテルで14日間の自主隔離を行なった。それ以外の学生は、自宅での自主待機を実施した。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名 : アニメーション文化学科

学科長名 : 清水 光二

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

- 1) 定員確保：前年の入学者は定員を満たしたが、令和3年春の入学者は定員を割りそうである。日本人学生については前年度並みの入学者を確保できそうだが、コロナのため留学生の入学がしばらくは期待できない。
- 2) 退学者：12月末現在で4名の退学者が出ているが、その内の2名はコロナのため韓国から日本に来られなかった学生である。オンラインでの実技教育に限界を感じたのが原因であると思われる。
- 3) 就職率：学科の特殊性によるのだろうが、前年同様に今年度も苦戦しているのが実情である。ただ、低学年からの就職意識の醸成に努めているところなので、その成果が出てくることを今は期待しているところである。
なお、鳥取出身の男子学生が今春「米子ガイナックス」にアニメーターとして就職することが決まっている。
- 4) 時代のニーズに合わせたカリキュラム：アニメ業界において2DCGや3DCGなどデジタルでの制作に力点が移りつつあるのに合わせて、本学科のカリキュラムもデジタル対応が進んでいる。
今年度はコロナのためオンライン授業を実施せざるを得なかったのだが、制作過程のデジタル化が進んだおかげで、逆に障害も予想外に少なかったと思われる。コロナ禍は、オンライン授業の今後の可能性を体験するいい機会になったというプラスの一面もあったのではないかな。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

- 1) 科研に関しては、大谷卓史准教授の取り組みに次のようなものがある
 - ・「インターネット研究倫理の構築－倫理問題の考察と倫理ガイドラインの提案」
(基盤 (B) 研究代表者：大谷卓史 18H00608 2018-2020)
 - ・「情報ネットワーク社会における「死」の再定義」
(基盤 (B) 研究代表者：折田明子 (関東学院大学) 19H04426 2019-2021)
 - ・「ポストトゥルースの時代における新しい情報リテラシーの学際的探求」
(基盤 (A) 研究代表者：久木田水生 (名古屋大学) 19H00518 2019-2022)

2) 学生作品の発表

- ・8月7日から9月22日まで岡山シティミュージアムで開かれた、「絵師100人展」の

| |
|--|
| <p>コラボ企画に本学科学生が参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル 2020 (ICAF 2020)」に、本学科学生も参加。 <p>3) 教員の作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学部で作られた日本酒「志知 (仮)」のボトル用ラベルを、本学科の佐々木洋准教授が制作中 (2月完成予定) |
| <p>3) 地域連携活動 (各種ボランティア活動、共同研究等)</p> <p>1) 今年度はコロナのため、例年実施していた「ゲームジャム高梁」や「Vtuber ハッカソン」などが、すべて中止となった。</p> <p>2) 「一般社団法人クリエイティブシティ高梁推進協議会」と協力して、高梁市における ICT 活用と ICT リテラシーの向上を目的とする番組制作を計画している (2月中に完成予定)。「朝霧けい」による MC 出演。</p> <p>3) アニメーション文化学部主催で、「第9回高校生イラストコンテスト」を実施。</p> |
| <p>II. 定員充足対策としての情報発信について</p> <p>学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動 (ITの活用等を含めて)</p> <p>特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動</p> <p>1) 学科 HP、学科紹介チラシ、ブログ、YouTube、Facebook、Twitter 等を用いて、常時新しい情報を発信している。</p> <p>2) 今年度から V チューバー「朝霧けい先生」の運営・管理がすべて学科に任せられたのだが、現在学生自らによる情報発信が継続的に試みられている。</p> <p>3) アニメーション文化学部主催の「高校生イラストコンテスト」を今年度も実施し、岡山及び近県の高校から多数の応募作品が寄せられた。</p> <p>4) アニメーション文化学科の教育内容を知ってもらうため、2020年11月5日、中国の学校「成都青蘇職業中専」に対して初のオンライン授業を実施。</p> |
| <p>III. 退学者対策について (修学支援において、各種取組み・活動等)</p> <p>1) 1年次については、ほぼ全ての教員がチューターを担当し、2年次以上の学生については、ゼミへの配属となっているので、4年間を通じて少人数での対応が出来ており、退学者対策には効果が出ていると考える。</p> <p>2) 春にはコロナのため来日できない韓国の新入生が7名いたのだが、必要な機材を学科から直接学生らに送ることにより授業の格差を極力なくし、退学者が出ることをかなり防止できたと考える。最終的には7名の内12月末までに5名が来日可能となり、現在在籍中である。</p> |
| <p>IV. 修学環境の安全管理対策など (新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等)</p> <p>1) 1年から4年まで少人数でチューターやゼミへの配属となっているため、学生への</p> |

目配り・配慮は常時十分に行われているのではないかと考える。

- 2) コロナ対策としては、まずは大学の指針に従って学生を指導し、体調の把握に努めている。
- 3) 次に実技授業においては、入室・退出時の手指消毒だけでなく、パソコン等を共同で使うことが多いため、ウエットティッシュによる機器の消毒を使用前後に行うよう強く指導している。

V. 省エネ対策の取組

- 1) 春期・秋期ともにオリエンテーション時に EMS 委員会資料を配布し、省エネ対策についての注意喚起を行っている。
- 2) アニメーション文化学科専用の 2 教室については、授業終了時の照明やエアコンの OFF 確認や、PC のシャットダウン指示を行っている。
さらに、平日の夜 7 時には教員が各教室の鍵閉めを行っており、最終的な確認がなされている。
- 3) アニメ作画用の用紙使用についても、ペンタブレットによるデジタル作画へ全体として移りつつあるので、従来に比べて紙資源削減の方向に進んでいるのではないかと考える。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

- 1) コロナのために、オンライン授業や、オンラインと対面の併用授業など、新しい授業方法の開発・工夫に今年度は向き合わざるを得なかった。その際、オンライン授業についての今後の可能性に気が付くという、良い面もあったのではないかと考える。具体的には、遠隔地の制作現場からのオンライン指導など。
- 2) 本年度は極端に日本語が出来ない留学生が複数入学しており、彼らの日本語学習・授業出席・退学防止のため、例年以上にチューターが懇切丁寧な指導を行う必要があった。

学科の自己点検・自己評価報告

学科名：通信教育部子ども発達教育学科

学科長名：栗田 喜勝

I. 3つのポリシー（アドミSSION、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

①アドミSSIONポリシー

本学科の設置目的は、大学において心理学や保育・初等教育の専門分野について学び、専門知識や援助技術を身につけたいという強い学習意欲・動機を持ちながら、諸般の事情により修学の機会を得ることができない社会人の知的探求心や学習ニーズにこたえとともに、保育や教育現場等で働きながら資格や免許の取得を目指す社会人のキャリア・アップや生涯学習の場を提供することであるが、学生募集が振るわず令和2年度募集停止になった。

②カリキュラムポリシー

本学科のカリキュラムは、4年制通信教育課程として、大学卒業の学位取得にふさわしい教育内容になっている。具体的には、教養科目群14科目（テキスト科目11、スクーリング科目3）は、基礎的な教養を身につけるために言語・情報関係科目群、社会・人文関係科目群、自然科学関係科目群から成っている。また、専門科目群104科目（テキスト科目71、スクーリング科目27、実習科目6）は、保育士資格・教員免許取得にかかわる専門科目に加えて、心理・保育・教育・子ども福祉について多面的に学ぶための科目が配置されている。

（1）テキスト科目については、科目担当教員が指定する教科書や参考書を用いた自宅学修であり、年度当初の計画通り実施することができた。

（2）スクーリング科目については、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、春学期に開講予定科目15科目すべてを秋学期に移行し、秋学期開講予定科目と合わせて、ほぼ毎週末を利用する過密なスケジュールであったが、徹底した感染予防対策の下、無事実施することができた。

（3）実習科目のうち保育実習については、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地域の感染状況によっては、実習期間の変更や実習施設の変更等を行い実施した。

③ディプロマポリシー

子どもの主体的な学びを援助する保育内容・教育内容に関わる専門知識を修得し、子どもへの直接的な発達支援や、保護者への子育て支援を行う実践力を身につけることが求められるが、目標に沿った人材養成を行うことができている。

【自己評価】

4年間の学びを通して、保育・初等教育に関する各種の専門知識や技術を修得し、専門職者に必要な職業倫理、子ども観等を身につけるとともに、向上心を持ち自己実現を目指す態度を涵養することができており、学外実習施設や就職先からも一定の評価を受けている。今年度学生募集停止となったが、在学生の教育については今後とも人格の陶冶と専門性向上によるバランスの取れた人材養成に努力する必要がある。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

1) 学科の研究活動としては、(1)教員の個人研究(2)学科教員の共同研究が挙げられる。

(1) 教員の個人研究

今年度の学科教員の個人研究については、著書2件、学術論文3件、学会発表2件、講演等17件であった。本学科の特性上、所属教員の専門分野は心理系、保育系、教育系、福祉系等の多岐にわたり、学術研究活動に精力的に取り組んでいる。

(2) 学科教員の共同研究

学科教員の共同研究については、「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ事業」(COC継続事業)に関わる研究や、高梁市における「次世代育成支援対策」に関わる研究等を行っており、研究成果は学内の研究紀要や教員の所属学会等において報告している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動が大幅に制限される中、地(知)の拠点整備事業の継続事業の一環として地域における出前講座「親子ふれあい遊び」を感染予防に留意して3回実施した。このような親子のふれ合い交流や子ども同士、親同士の交流を図るなど、親子を対象とした子育て支援活動の取り組みは、中山間地域における地域密着型子育て支援拠点形成のモデルとして地域の子育て支援に貢献することが期待されており、令和2年度おかやま子育てカレッジ地域貢献事業補助金(岡山県指令備中局地第2010号)の交付を受けた。

【自己評価】

教員の個人研究ならびに共同研究の促進を図り、科研費申請・採択を目指す必要がある。また、研究成果の学生教育への還元、地域の子育て支援活動へのフィードバックを通じて、学生の学士力や地域の子育て支援力の向上を図る必要がある。

3) 地域連携活動(各種ボランティア活動、共同研究等)

(1) 子育て講座の実施

平成22年7月に高梁市内の子育て家庭に対する支援を目的として、岡山県備中県民局、高梁市、高梁市内の子育て支援団体等、12団体の協働により大学内に設置された「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ実行委員会」による様々な活動を例年展開している。本年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年度当初に計画されていた種々の活動を自粛せざるを得ない状況であったが、秋以降、高梁市内各地域(川上、落合、成羽)の保健センター、児童館、認定こども園において、高梁市子育て支援センターならびに母親クラブと連携してアウトリーチ型の親子ふれあい活動を3回実施した。

(2)各種ボランティア活動等

- 1)高梁市内等の保育園・幼稚園・小学校等におけるボランティア活動の実施
運動指導(2回)、ICT教育の助言指導(1回)、お話し会(12回)、絵画指導、出前授業等
- 2)順正学園ボランティアセンターにおけるフードドライブへの協力等

(3)各種委員等

学科教員が委員を受託している各種委員会については次の通りである。

高梁市教育委員会、高梁市保育者育成プログラム検討委員会、高梁市障害者福祉計画策定委員会、高梁市立図書館協議会、岡山県保育士養成協議会、岡山いのちの電話協会、日本いのちの電話連盟研修委員会、日本産業カウンセラー実技能力評価委員会、岡山県環境審議会

【自己評価】

地域の各種団体と連携して種々のボランティア活動を行うとともに、各種委員会や団体から委員の委嘱を受けており、今後とも引き続き積極的に取り組む必要がある。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

今年度募集停止に伴い、従来実施していた各種の広報活動は行っていないが、教員が行った各種の講演については17件あり、その他地域の小中高校における研修会・講習会講師として活動している。

III. 退学者対策について（修学支援において、各種取り組み・活動等）

1) 在学学生を対象とした学修相談会を年度末に高梁、岡山駅前、広島会場で開催し、学修に不安がある学生に対してアドバイス・フォローを行うなど、退学者減少に向けた取り組みを行っている。また、各教員の研究室の電話番号やメールアドレスを公開し、いつでも気軽に相談できる体制を整えている。また、3、4年次のゼミ制に加えて、今年度より1、2年次にチューター制を導入し、学生が気軽に相談できる環境を整えている。取り組みの成果として学修意欲の喪失による退学は減少したが、経済的な問題や心身の不調を抱えて退学に至るケースが散見された。

2) 特記事項

学生に対して、毎年学修状況に関するアンケートを実施し、現状の把握とともに、学生が抱えている不安や不満等に対しては、教員、職員が随時改善策を検討している。

【自己評価】

通学制と同様に1、2年次のチューター制や3、4年次のゼミ制を導入するとともに、全学生を対象として毎年学修状況に関するアンケートを実施して問題点に対する迅速な対応をとるなど、学生に対するきめ細かい修学支援ができています。

IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

1. 新型コロナウイルス感染症対策について

1) 全学生に対して「新型コロナウイルス感染症対策」関連情報を適宜個人宛に直接郵送し、周知徹底を図っている。

2) スクーリング授業時には、検温、手指消毒、マスクの着用、換気、3密の回避等、感染予防に万全を期して実施している。

2. 学修相談、障がい有する学生への対応等について

1) 学生に対して各教員の研究室の電話番号やメールアドレスを公開しており、いつでも気軽に相談できる体制を整えている。また、修学環境に関するアンケートを実施し、課題がある場合には教員・職員が連携して迅速な対応を図るようにしている。

2) スクーリング授業では、障がい有する学生に対して座席の配慮や緊急時の対応に関する連携等を行っている。また、障がい者体験を取り入れ、バリアフリーの取り組みへの理解を深めさせている。

【自己評価】

「新型コロナウイルス感染防止対策」関連情報の周知を徹底しており、学生は内容を十分理解し、積極的に取り組んでいる。また、毎月開催される教授会において必要に応じて各種ハラスメント対策や防災対策等に関する情報の共有を図っている。

V. 省エネ対策の取組

スクーリング時には、新型コロナウイルス感染防止対策として教室のドアの開放ならびに換気を行うとともに、省エネ対策として担当教員から学生に対して節水や教室不使用時の消灯、冷暖房使用温度設定の適正化等について注意を促すなど、学内 EMS 活動の取り組みについて協力を依頼している。

【自己評価】

学生は学内 EMS 活動の趣旨を充分理解しており、適切な行動がとれている。今後とも一層の省エネ対策に取り組む必要がある。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

本年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、授業の実施体制に種々の変更を余儀なくされたが、以下の様な取り組みにより対応した。

1) テキスト科目については基本的に自宅学修であり、学修に関する指導や質問等については WEB 学修支援システムを用いて年度当初より対応できたが、スクーリング授業については春学期に開講予定科目 15 科目すべてを秋学期に移行し、秋学期開講予定科目と合わせて、ほぼ毎週末を利用する過密なスケジュールであったが、徹底した感染予防対策の下、無事実施することができた。

2) 保育実習については、県内外の実習施設で行っているが、地域の感染状況によっては、実習期間の変更や実習施設の変更等を行い実施した。

3) 初等教育課程(幼稚園・小学校)において、教育実践力の充実向上を図るために、秋学期に徹底した感染予防対策の下に、教育現場の経験者を複数招聘し、スクーリング形式による教職科目「模擬授業」を実施した。

研究科の自己点検・自己評価報告

研究科名 : 社会学研究科

研究科長名 : 姜 明求

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

◎知的チャレンジを続ける人材とグローバル社会で活躍する人材の養成

①アドミッションポリシー

- ・2020年度入学者 博士前期課程 6名(留学生)、博士後期課程 0名
- ・今後とも、定員確保のための努力をしていく。

②カリキュラムポリシー

- ・博士前期課程(比較社会学、地域社会論、産業社会論、スポーツ社会論、共通科目、研究演習)。修了のためには、研究演習8単位、特殊講義群及び共通選択科目から24単位、合計32単位の修得、論文審査の合格が必要。
- ・博士後期課程(比較社会論、地域社会論、産業社会論、研究指導)。修了のためには、研究指導12単位、特殊研究8単位、合計12単位の修得、論文審査の合格が必要。前期、後期課程共に社会のニーズに対応して多様な専門科目を提供するカリキュラムを編成している。
- ・1名の指導教員、2名の副指導教員の指導体制。

③ディプロマポリシー

◇博士(前期)・後期

- ・博士前期課程
専門科目(24単位)及び演習(8単位)の32単位を取得し、修士論文の審査に合格した者に対して修士学位(社会学)を授与した(7名)。1名が留年(論文の未完成)。
- ・博士後期課程は0名。
- ・今後とも、きめ細かな論文指導と日本語教育の充実(留学生)をはかる。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

◎教員研究力の向上と情報発信

1. 単行本

1)Mika Merviö (編著) Global Issues and Innovative Solutions in Healthcare, Culture, and the Environment. (編集および分担執筆: the Preface and Chapter 15: The Social Significance of Visual Arts: State, Nation, and Visual Art in Japan and Finland, pp 301-316). IGI Global : Hershey, Pennsylvania June 2020. 366 pages.

2. 研究論文

- 1) 赤坂真人 (2020) 「中国における看護師の勤務実態—中国内蒙古自治区フフホト市での調査を通して—」『吉備国際大学研究紀要』(人文社会系) .
- 2) 姜明求 「中国市場における韓国商品の信頼度：河南省と武漢」 共著, 吉備国際大学大学院社会学研究科論叢(第 21 号), pp. 143-166 ; 「創発的キャリア教育の蓋然性—キャリア発達理論に関する先行研究より」 共著, 吉備国際大学大学院社会学研究科論叢 (第 21 号), pp. 27-95 ; 中国市場における韓国商品の信頼度：北京・天津と武漢」 共著, 吉備国際大学研究紀要人文・社会科学系 (第 30 号), pp. 45-59.
- 3) 李分一 (2020) 「2019 年の視点から見た 1965 年の日韓国交正常化」『吉備国際大学大学院社会学研究科論叢』(第 21 号), pp. 21-31.
- 4) Hayashi K, Yamaguchi H, Amaoka H, et al., Equol producing status affects exercise training-induced improvement in arterial compliance in postmenopausal women. J Appl Physiol. 2020 in press
- 5) Takahara T, Yamaguchi H et al., Sensory gating and suppression of subjective peripheral sensations during voluntary muscle contraction. BMC Neurosci. 2020 Oct 1;21(1):41. doi: 10.1186/s12868-020-00592-2.
- 6) Hayashi K, Yamaguchi H, Amaoka H, et al., Equol producing status affects exercise training-induced improvement in arterial compliance in postmenopausal women. J Appl Physiol. 2020 in press
- 7) 高橋正已 「東洋近代文化」の到来と「仏教原理」-「心身学道」から「般若心経」を読む」 吉備国際大学大学院社会学研究科論叢 (第 21 号), pp. 179-218

3. 受託研究

科研費：継続(基盤研究 C)+新規申請(基盤研究 C)(山口英峰)

4. 学会発表 7 回

5. 講演 2 回

今後も、本研究科の情報発信、教員自身のレベルアップのために、科研費の申請、外部資金の獲得、研究の一層の推進を徹底的に行う。

3) 地域連携活動 (各種ボランティア活動、共同研究等)

◎教員の教育・研究の能力と成果の社会への還元

- 1) 吹屋陶芸館 陶芸窯焚きプロジェクト 2020 年 10 月 17 日～10 月 18 日(高橋正已)
- 2) 第 18 回おかやま県民文化祭「文化がまちにある！プログラム」<—ジャパンレッド—吹屋花めぐり> 2020 年 10 月 31 日～11 月 8 日(高橋正已)
- 3) 『「西洋近代文明」発展の帰結としての「ウイルス問題」—「地域の経済」への社会経済的接近から—』令和 2 年 8 月 22 日(土)・23 日(日) 於：高梁市(高橋正已)
- 4) 『「西洋近代文明」と「アジアリージョナル」—中山間地域と「地域の経済」—』2020 年 6 月 27(土) 地総研&ホモセル合同研究会 於：前橋市(高橋正已)

- 5) 吉備創生カレッジ. エssenシャルコードで心と体の健康. 2020年7月3日(竹内研)
- 6) 「IANC 神戸レオネッサ」強化育成部・強化担当として、選手獲得業務、練習試合マッチメイク及び審判員、公式戦におけるゲーム分析、分析結果のコーチングスタッフへの伝達等を行った。(高藤順)
- 7) 「IANC 神戸レオンチーナ」(U-18年代)所属の高3の選手を本学女子サッカー部の練習参加。(高藤順)
- 今後とも、社会に貢献する研究科として、公開講座、ボランティア活動などの依頼については、原則、すべてに応じていく。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動 (ITの活用等を含めて)

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

◎大学のホームページ、公開講座・講演、Researchマップ、出前授業などを通じて情報発信

- 1) 倉敷高校での出張講義 (高藤順、2020.10.8)
- 2) 米子北高校生へのガイダンス (天岡寛、2020.12.4)
- 3) 井原高校生へのガイダンス (竹内研、2020.11.13)
- 4) 岡山商科大学附属高校生へのガイダンス (竹内研、2020.9.16)
- 5) 『「持続可能な社会経済システム」の構築に向けてー 二つの「グローバル」の視点からー』2020年10月10日(土)経済社会学会 パネルディスカッション共通論題「成長・連帯・持続可能性」パネラー(高橋正巳)

今後とも、定員確保のために大学のホームページ、公開講座・講演、Researchマップ、出前授業などを通じて情報発信を積極的に行っていく。

III. 退学者対策について (修学支援において、各種取組み・活動等)

◎教育満足度を向上させるためにきめ細かな修学支援

退学者は0名。退学者を防止するために、各教員が院生の修学状況を把握し、教員間で情報を共有しながら、きめ細かな指導を行った。また、院生とのコミュニケーションを通じて情報を早く把握し、対応した。

今後とも、退学者ゼロを目指して全教員が情報を共有し、問題を抱える学生を早期発見し、指導する。

IV. 修学環境の安全管理対策など (新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等)

◎新型コロナ防止とパワーハラスメントの対策

- 1) 大学と外出の際には3密の回避(密接、密閉、密集)
- 2) 授業中には、3密の回避・マスクの着用・手指の消毒
- 3) 授業中の換気

- 4) 毎日の健康観察(検温)をすること。また、体の異常を感じる場合は、大学や保健所にすぐ連絡
- 5) 院生の指導の際にはアカハラ・セクハラにつながる言動に注意

V. 省エネ対策の取組

◎環境意識の向上

- 1) 節電のために、教室内の電源の確認を徹底
- 2) 研究室・院生の研究室、教室内での設定温度の順守(冷房 27℃、暖房 20℃)
- 3) ゴミの減量・ゴミの分別をするように教育(自宅、大学)

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

◎きめ細かな研究指導

在学生 博士前期課程 13名、博士後期課程 2名

指導教員と副指導教員(2名)の指導体制の下で論文の指導、留学生の日本語指導を行い、7名を修了させることが出来た(日本人1名、留学生6名)。ただし、1名の院生は留年(論文の未完了)。2020年度春学期の院生による授業評価は4.73/5であった。また、博士後期課程の院生(社会人)に対しては、希望に合わせて時間調整をしながら対応した。

研究科の自己点検・自己評価報告

研究科名 : 保健科学研究科

研究科長名 : 高橋 淳

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

①アドミッションポリシー

新型コロナウイルス感染拡大で研究活動が制限される中でも、可能な限り研究を継続して研究計画発表会、中間発表会、博士論文事前発表会でプレゼンテーションと活発な討議が行われた。本年度はすべて Microsoft Teams によるオンライン開催であったが、全員が遠隔発表に前向きに取り組み、順調に発表、討論が進んだ。「国内外で活躍できる研究者・教育者・指導的職業人を志している人」を受け入れることに成功していると考ええる。

『目標：学部大学院一貫教育：優秀な学生を3名以上トップアップで科目等履修生として迎える』

令和2年度学部・大学院一貫教育制度による科目等履修生の受け入れについて、理学療法学科3年次生1名が保健科学研究科博士（前期）課程の科目等履修生として受け入れられ、3科目6単位の履修が認められた。

『目標：通学生大学院課程入学者の増加を図る：通学制博士前期6名、博士後期3名の定員の確保を目指す。』

本年度は入学者が前期1名、後期0名であった。次年度の学生数は前期1名、後期4名と、前期の定員割れが続く。

②カリキュラムポリシー

研究計画発表会、中間発表会、博士論文事前発表会の内容は、「高度な保健科学領域（基礎・臨床・地域・看護）に関わる体系的知識を修得」していることを示した。また、研究テーマの設定と自ら設定したテーマに沿った情報収集は、「研究課題を解決するための戦略を学習でき」ており、「実証的な姿勢に基づくデータの解析法や実験の進め方」が身につけていることを示した。オンライン開催でのプレゼンテーションと討議を行うことは、「保健医療分野の専門職業人の教育を行うための研究者、教育者」として将来有効活用される経験となったと考える。

③ディプロマポリシー

学位論文の審査においては、「保健科学に関わる体系的な知識を修得」しているか、「国内外で活躍できる指導的職業人として、教育や実務を遂行することができる能力を修得した」か、「問題を具体的に解決していくために必要な能力とその基盤となる学識を身

につけ」ているか、「保健科学を推進するために必要な研究法を総合的に体得し、研究者、教育者として自立して活動する能力を修得」しているかを厳しく評価した。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

【卒論研究】

『社会の要請に応える：社会人が学べる環境を整備し、入学者全員の学位取得を目指す』

ディプロマポリシーに則り、研究者、教育者として自立して活動する能力を修得したとして前期4名、後期3名に学位を授与することができた。

【著書・論文・口頭発表】

令和元年度は著書5冊、発表論文42編、口頭発表36、本年度は著書3冊、発表論文48編、口頭発表30であり（業績資料を添付）、研究科教員の研究活動は活発である。引き続き活発な研究活動を継続していきたい。

【受託研究等】

<科研費>

基盤研究B継続2件、基盤研究C継続2件、新規1件、若手研究継続1件、新規1件

<その他競争的資金>

継続1件

<その他競争的資金>

新規1件

3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等）

【政策アドバイス】

(1)高橋淳：高梁医師会新興感染症対策委員会 アドバイザー。高梁医師会，高梁市，2020年3月19日，4月2日，4月16日，4月30日

(2)高橋淳：自由民主党本部・有識者ヒアリング（V-CUBEアプリを用いたTV会議で参加），2020年6月23日。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

【公開講座等】

(1)森下元賀：全身からみる口腔機能維持・向上の取り組み～理学療法士の立場から～。広島県歯科衛生士会 介護予防口腔機能向上研修会，広島市，2020年12月13日。

(2)森下元賀：楽に身体を柔らかく～効果的なストレッチの方法～。吉備国際大学出前講義 高梁市立宇治高等学校，高梁市，2020年12月18日。

(3)佐藤三矢：看護師でも行えるベッドサイドのリハビリテーション。岡山県看護協会 卒後研修，岡山市，2020年11月16日。

(4)佐藤三矢：日常生活の中での介護予防実践。井原市教育委員会 長寿大学，井原市，2020年6月19日。

(5)佐藤三矢：高梁市いきいきロコモ予防体操。高梁市ケアマネージャー研修会，高梁市，2020年2月21日。

(6)佐藤三矢：古都式体操でロコモ予防！～サロンで取り組める介護予防～。新見市社会福祉協議会 令和元年度サロン交流会，新見市，2020年2月5日。

【メディア出演】

『目標：テレビへの出演、プレスリリース、Facebook と YouTube の活用、卒業生への働きかけ、学術雑誌への広報など』

(1)高橋淳：ニュース・キビ「新型コロナウイルス感染症について」。キビケーブルテレビ，2020年3月2，3，4，5，6日放送（全4回：第1回「学校臨時休業の意義」，第2回「新型コロナウイルスの性質と不活化について」，第3回「ウイルスの感染経路等について」，第4回「リスク者の感染予防」，第5回「気になる症状があるとき」）。

(2)高橋淳：ニュース・キビ「新型コロナウイルス感染症について」シーズン2。キビケーブルテレビ，2020年4月1，2，3日放送（全3回：第1回「変異した新型コロナ」，第2回「新型コロナの新常識（1）」，第3回「新型コロナの新常識（2）」）。

(3)高橋淳：ニュース・キビ「ふかぼりワイド」「新型コロナウイルス感染症について」シーズン3。キビケーブルテレビ，2020年5月7，8，11日放送（全3回）。

YouTube に(1)の動画1本、(2)の動画3本、(3)の動画2本及び以下の2本と合わせて計8本の動画を公開した。

- 1) 高梁医師会向け「新型コロナウイルス感染症」
- 2) 高梁医師会向け「新型コロナウイルス感染症」第2回

【ホームページ】

業者に依頼し、保健科学研究科独自のホームページを作成した。

Ⅲ. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

『きめ細かな研究指導体制：研究指導の教員格付けを増やして研究指導体制を整える』
昨年度と同様の博士前期課程研究指導教員38名、博士後期課程の研究指導教員19名の研究指導体制をとっており充実しているが、来年度は定年退官者が充足されないため、指導教員が減少する見込みである。

『目標：退学者ゼロ：学生の抱える問題を早期に把握して解決することで退学者ゼロを目指す』

研究科長より全大学院生に電話、メッセージ、あるいはメールで安否を問い、帰省先住所の確認を行った。また、ユニバーサルパスポートの「健康観察」への入力を促すメールも適宜、全大学院生に送った。本年度の退学者は0であった。

IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

研究計画発表会、中間発表会、博士論文事前発表会を、本年度はすべて Microsoft Teams によるオンライン開催とした。

地（知）の拠点事業終了後の継続事業としてワークシェアリング就労支援プロジェクトの活動で、主として COVID-19 を意識した衛生管理（手指の付着箇所のアルコールなどを活用した拭き上げ清掃）などに取り組んだ（作業療法学科, 山本倫子）。

V. 省エネ対策の取組

例年のように大学院室の退室時消灯等に努めている。

VI. 本年度特に取り組んだ事項について

新型コロナウイルスの感染拡大のため、保健福祉研究所でのウェットのバイオ実験や対面を必要とする研究は自粛せざるをえなかった。疫学などの机上で可能な研究テーマを取り入れたり、zoom などを用いて遠隔で共同作業や議論を行うことで、研究科の活動性を下げないように努力した。

研究業績 (2020年1月～12月)

【著書】

理学療法学科

- (1) 森下元賀：バイオフィードバック療法，物理療法学 第5版（標準理学療法学 専門分野）．網本和，菅原憲一（編集），医学書院，東京，2020年．
- (2) 原田和宏：セルフケア，手段の日常生活活動，Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学．白田滋（編集），メジカルビュー社，東京，2020年．

看護学科

- (3) 門倉 康恵(担当:分担執筆， 範囲:7 インフュージョンリアクション、アレルギーへの対応)臓器別やさしい消化器がん化学療法・薬物療法 32のレジメン×副作用ケア×退院指導 メディカ出版 2020年10月

【論文】

理学療法学科

- (1) Masanobu Murao, Tetsuo Imano, Junichi Akiyama, Teruhiko Kawakami, Masaaki Nakajima: Effect of single bout downhill running on the serum irisin concentrations in rats. Growth factors (Chur, Switzerland). 2020; 37(5-6): 257-262. ※
- (2) 今野哲男, 村尾昌信, 秋山純一, 川上照彦, 中嶋正明: マンシェットによるラット骨格筋への血流制限と組織血液酸素飽和度の経時的変化. 理学療法科学. 2020; 35(1): 49-52. ※
- (3) Koji Nonaka, Junichi Akiyama, Yoshiyuki Yoshikawa, Satsuki Une, Kenichi Ito: 1,25-Dihydroxyvitamin D3 Inhibits Lipopolysaccharide-Induced Interleukin-6 Production by C2C12 Myotubes. Medicina (Kaunas, Lithuania). 2020; 56(9): DOI: 10.3390/medicina56090450. ※
- (4) 福田富男, 香田康年, 水谷雅年: 環境保全を考慮したアマモ (*Zostera marina*) 場造成基礎研究— III —花枝・花穂・種子の関係性の検討—. 吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系). 2020; 30: 23-31.
- (5) Yutaka Gomita, Satoru Esumi, Soichiro Ushio, Yoshihisa Kitamura, Toshiaki Sendo, Hirotohi Motoda, Shigeki Inoue, Hiroaki Araki, Yoshio Kano: Intracranial self-stimulation-reward or immobilization-aversion had different effects on neurite extension and the ERK pathway in neurotransmitter-sensitive mutant PC12 cells. Behavioral brain research. 2020; 396: 112920-112920. ※
- (6) 大西邦博, 河村顕治: 変形性膝関節症患者における体幹加速度と身体機能の関連性の術前調査. 臨床バイオメカニクス. 2020; 41: 351-356. ※
- (7) 秋本剛, 河村顕治, 和田孝明, 河野達哉, 石原直道, 横田あかね, 杉之下武彦, 横山茂樹: 変形性膝関節症における膝関節伸展に伴う疼痛の有無と膝伸展機能および歩行速度の比較. 理学療法科学. 2020; 35(5): 705-710. ※
- (8) 井上茂樹, 平上二九三, 河村顕治, 元田弘敏, 秋山純一, 増川武利, 五味田裕, 加納良男: 培養神経細胞を用いた長時間寒冷刺激の影響. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020; 21: 31-34.
- (9) 加納良男, 平上二九三, 元田弘敏, 小池好久, 秋山純一, 井上茂樹, 牛尾聡一郎, 五味田 裕, 河村顕治: 細胞内シグナル伝達分子を標的とした抗がん物質の探索. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020; 21: 17-21.
- (10) 宮地司, 羽田圭宏, 河村顕治: 異なる関節角速度での筋力と姿勢制御の関係性—高速度での筋出力特性に着目して—. 理学療法科学. 2020; 35(1): 17-21. ※
- (11) 原田美由紀, 横山茂樹, 河村顕治: 胸椎後彎姿勢が上肢挙上角度の違いによる肩甲骨位置に与える影響. 保健医療学雑誌. 2020; 11(1): 17-23. ※

- (12) Motoyoshi Morishita, Taeka Ikeda, Natsue Saito, Mihoko Sanou, Mayumi Yasuda, Shigeko Takao: Relationship between oral function and life-space mobility or social networks in community-dwelling older people: A cross-sectional study. *Clinical and experimental dental research*. 2020; DOI: 10.1002/cre2.381. ※
- (13) 中祖直之, 松浦晃宏, 原田和宏: 脳卒中片麻痺患者における段差昇降動作の可否に関する機能的要因の検討. *理学療法科学*. 2020: 35(6): 873 - 877. ※
- (14) 原田和宏, 井上優, 香川幸次郎, 田中繁治, Sit Song, Seiha Suth: カンボジア王国の農村地域に暮らす脳卒中後遺症者の家族の介護負担感と今後の調査研究課題. *吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要*. 2020: 21: 11-16.
- (15) Akazawa N, Harada K, Okawa N, Kishi M, Tamura K, Moriyama H: Changes in Quadriceps Thickness and Echo Intensity in Chronic Stroke Survivors: A 3-Year Longitudinal Study. *Journal of stroke and cerebrovascular diseases*. 2020; 30(3): DOI: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2020.105543. ※
- (16) 藤井美次, 河口滉, 羽村景子, 鈴木健朗, 須山晋輔, 宮田昌代, 斎藤満, 井上茂樹: 介護老人保健施設入所の高齢女性におけるスタンス幅の異なる反復起立運動の影響. *理学療法おかやま*. 2020: 1: 6-10. ※
- (17) 平上二九三, 原田和宏, 井上 優, 井上茂樹, 齋藤圭介, 伊勢眞樹: 理学療法の臨床実習教育における自己評価チェックリストの有用性. *吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系)*. 2020: 30: 33-44.
- (18) 平上二九三: リハビリテーション技能の育成に関するプロセスモデルの開発. *吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要*. 2020: 21: 1-10.
- (19) Yasuhiko Kamikubo, Toshio Hattori, Atsushi Takahashi: Epidemic trends of SARS-CoV-2 associated with immunity, race, and viral mutations. *Cambridge Open Engage*. 2020; DOI:10.33774/coe-2020-1kc5b-v3. ※
- (20) Yasuhiko Kamikubo, Toshio Hattori, Atsushi Takahashi: Paradoxical dynamics of SARS-CoV-2 by herd immunity and antibody-dependent enhancement. *Cambridge Open Engage*. 2020; DOI: 10.33774/coe-2020-fsnb3. ※
- (21) Yasuhiko Kamikubo, Atsushi Takahashi: Epidemiological Tools that Predict Partial Herd Immunity to SARS Coronavirus 2. *medRxiv*. 2020; DOI: 10.1101/2020.03.25.20043679. ※
- (22) 高橋淳: パンデミックと医療崩壊. *吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要*. 2020: 21: 23-29.
- (23) 太田晴之, 齋藤圭介, 原田和宏, 京極真: 慢性疼痛患者の集学的治療標本における疼痛生活障害評価尺度 (Pain Disability Assessment Scale) の因子構造モデルの検討. *日本保健科学学会誌*. 2020: 23(2): 51-59. ※

作業療法学科

- (24) 三宅優紀, 荻野学芳, 荻野景規, 京極 真: リハビリテーションスタッフへの作業機能障害の種類と評価 (Classification and Assessment of Occupational Dysfunction: CAOD) の妥当性と信頼性の検証 *日本予防医学会雑誌* 14 7 - 13
- (25) Ashwini Shete, Sampada Dhayarkar, Ashwini Dhamanage, Smita Kulkarni, Manisha Ghatge, Shashikala Sangle, Uttam Medhe, Vinita Verma, Shobini Rajan, Toshio Hattori, Raman Gangakhedkar: Possible role of plasma Galectin-9 levels as a surrogate marker of viremia in HIV infected patients on antiretroviral therapy in resource-limited settings. *AIDS Research and Therapy* 17(1)
- (26) Gaowa Bai, Takashi Matsuba, Toshiro Niki, Toshio Hattori: Stimulation of THP-1 Macrophages with LPS Increased the Production of Osteopontin-Encapsulating Exosome. *International*

Journal of Molecular Sciences 21(22) 8490 - 8490

- (27) Shirley T. Padilla, Toshiro Niki, Daisuke Furushima, Gaowa Bai, Haorile Chagan-Yasutan, Elizabeth Freda Telan, Rosario Jessica Tactacan-Abrenica, Yosuke Maeda, Rontgene Solante, Toshio Hattori: Plasma Levels of a Cleaved Form of Galectin-9 Are the Most Sensitive Biomarkers of Acquired Immune Deficiency Syndrome and Tuberculosis Coinfection. *Biomolecules* 10(11) 1495
- (28) Yugo Ashino, Haorile Chagan-Yasutan, Masumitsu Hatta, Yoichi Shirato, Yorihiro Kyogoku, Hanae Komuro, Toshio Hattori: Successful Treatment of a COVID-19 Case with Pneumonia and Renal Injury Using Tocilizumab. *Reports* 3(4) 29
- (29) Ashwini Shete, Shubhangi Bichare, Vishwanath Pujari, Rashmi Virkar, Madhuri Thakar, Manisha Ghate, Sandip Patil, Annapurna Vyakarnam, Raman Gangakhedkar, Gaowa Bai, Toshiro Niki, Toshio Hattori: Elevated Levels of Galectin-9 but Not Osteopontin in HIV and Tuberculosis Infections Indicate Their Roles in Detecting MTB Infection in HIV Infected Individuals. *Frontiers in Microbiology* 11
- (30) Haorile Chagan-Yasutan, Firmanto Hanan, Toshiro Niki, Gaowa Bai, Yugo Ashino, Shinichi Egawa, Elizabeth Freda O. Telan, Toshio Hattori: Plasma Osteopontin Levels is Associated with Biochemical Markers of Kidney Injury in Patients with Leptospirosis. *Diagnostics* 10(7) 439
- (31) Toshio Hattori: Case Reports Are the Starting Point to Medical Science. *Reports - Medical Cases, Images, and Videos* 3(2) 8
- (32) Gaowa Bai, Toshiro Niki, Haruhisa Kikuchi, Ayako Sumi, Nobuyuki Kobayashi, Takahiro Haruyama, Jing Zhang, Haorile Chagan-Yasutan, Toshio Hattori: New Development of Disaster-Related and Tropical Infectious Diseases Control. *Reports - Medical Cases, Images, and Videos* 3(1) 5
- (33) Jing Zhang, Osamu Yamada, Shinya Kida, Shinya Murase, Toshio Hattori, Yoshiteru Oshima, Haruhisa Kikuchi: Downregulation of PD-L1 via amide analogues of brefelamide: Alternatives to antibody-based cancer immunotherapy. *Experimental and Therapeutic Medicine*
- (34) Haorile Chagan-Yasutan, Sarnai Arlud, Lei Zhang, Toshio Hattori, Baoyindeliger Heriyed, Nagongbilige He: Mongolian Mind-Body Interactive Psychotherapy enhances the quality of life of patients with esophageal cancer: A pilot study. *Complementary Therapies in Clinical Practice* 38 101082

看護学科

- (35) 渡邊 栄子, 掛谷 益子: 地域包括ケアシステム構築実現のために中山間地域の退院支援において病棟看護師に求められる要素. *インターナショナル Nursing Care Research* 19(2) 39 - 48
- (36) 蜂谷直樹, 竹崎和子: つば吐き行為のある重症心身障害者への支援の検討-応用行動分析手法を用いて- *日本重症心身障害学会誌* 45(3) 279 - 282 2020年
- (37) 竹崎和子, 門倉康恵: A看護系大学1年生の看護倫理の授業における学び. *インターナショナル Nursing Care Research* 19(3) 137 - 143
- (38) 竹崎和子: 看護学生の地域連携実習における退院支援に関する学び-退院調整看護師の役割に焦点を当てて- *第50回日本看護学会論文集 慢性期看護* 74 - 77
- (39) 門倉康恵, 竹崎和子, 飯田尚美: 「がん化学療法看護認定看護師の実践活動」を受講した看護学生の学び. *インターナショナル Nursing Care Research* 19(2) 97 - 104
- (40) 竹崎和子: A看護系大学の統合実習(地域連携)における学生の学び-エコマップ作成を導入して- *第50回日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション* 79 - 82

- (41) 田中 富子：中山間地域における健康づくりボランティアのソーシャルキャピタル 川崎医療福祉学会誌 30(1) 1 - 7
- (42) 田中 富子：看護系大学への編入学に至る動機と経験に関する文献レビュー インターナショナル Nursing Care Research 19(3) 119 - 128
- (43) 一ノ瀬公美, 田中富子：高齢者の介護予防自主グループ活動への継続参加に関する文献検討. インターナショナル Nursing Care Research 19(4) 157 - 163
- (44) 田中富子：中山間地域の病院で働く看護師の職務満足度と看護の「やりがい」、「魅力」. インターナショナル Nursing Care Research 研究会 19(1) 33 - 43
- (45) 中嶋 貴子, 山下亜矢子：精神看護領域における看護学生のコミュニケーションスキル向上を目的とした教育方法に関する文献レビュー. インターナショナル Nursing Care Research 19(3) 2020 年
- (46) 長谷川幹子, 安福真弓, 重年清香, 阿部真幸, 板東正巳, 道廣睦子：看護系大学 4 年生の死生観に影響する要因に関する研究. インターナショナル Nursing Care Research 19(1) 137 - 145
- (47) Mika Ichimura, Shinsuke Sasaki, Tetsuya Ogino : Tapping enhances vasodilation for venipuncture even in individuals with veins that are relatively difficult to palpate. Clinical Anatomy 33(3) 440 - 445
- (48) 門倉康恵, 名越恵美：外来化学療法を受けているがん患者に関わる看護師の意思決定支援プロセス. 吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系) (第 30 号) 11 - 21

【口頭発表】

理学療法学科

- (1) 河村顕治：電気刺激併用型荷重立位周期的揺動運動および tDCS 負荷時の大脳皮質刺激効果の研究. 第 4 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2020 年 11 月.
- (2) 大西邦博, 秋本剛, 河村顕治, 栗田雄一：3 軸加速度計を用いた人工膝関節全置換術患者における術後 1 週の運動機能の変化. 第 47 回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会. 2020 年 11 月.
- (3) 秋本剛, 河村顕治, 和田孝明, 石原直道, 横田あかね, 杉之下武彦, 大西邦博, 横山茂樹：変形性膝関節症患者と健常高齢者の歩行周期時間変動の差異. 第 47 回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会. 2020 年 11 月.
- (4) 河村顕治：電気刺激併用型荷重立位周期的揺動運動および tDCS 負荷時の大脳皮質刺激効果. 第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020 年 8 月.
- (5) 畦五月, 秋山純一, 野中紘士, 中田理恵子：加熱した白花豆からのレクチンの精製とその性質. 日本家政学会第 72 回大会. 2020 年 5 月.
- (6) Motoyoshi Morishita, Junya Sota, Mariko Kobayashi: Effects of Carbonated Beverages on Sustained Swallowing Behavior Changes Using Swallowing Sound Analysis. The 10th European Society of Swallowing Disorder Virtual Online Congress, 2020 年 9 月.
- (7) 井上茂樹, 加納良男：寒冷刺激を感知する細胞内シグナル伝達経路の探究. 第 25 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会. 2020 年 12 月.

作業療法学科

- (8) 服部俊夫, 白高娃, 仁木敏朗, 前田洋助, Shirley Padill：フィリピンの感染症病院におけるエイズ結核の実態調査第 38 回 西日本国際医療学会 2021 年 3 月 7 日
- (9) 服部俊夫：Novel Methods to Overcome Disaster and Tropical Infectious Diseases 2020 年 4 月 29 日
- (10) 三宅 優紀, 岩田 美幸：特別養護老人ホームにおける高齢女性に対する作業機能障害の種類に焦点を当てた評価および介入 園芸活動を用いた実践. 作業療法 39(3) 341 - 347
- (11) 三宅優紀, 荻野学芳, 荻野景規, 京極 真：リハビリテーションスタッフへの作業機能障害の種類

と評価 (Classification and Assessment of Occupational Dysfunction : CAOD) の妥当性と信頼性の検証. 日本予防医学会雑誌 14 7 - 13

看護学科

- (12) 岡本和恵, 掛谷益子: 看護小規模多機能型居宅介護における管理運営と看護提供に関する課題—質的データ分析 SCAT を用いて— 第 33 回日本看護研究学会中国・四国地方会学術集会 2020 年 3 月 8 日
- (13) 竹崎和子: 被災地の病院に勤務する看護管理者のマネジメントに関する検討. 第 51 回 日本看護学会—看護管理—学術集会 (分科会 急性期看護・慢性期看護) WEB 開催
- (14) 門倉康恵, 竹崎和子, 飯田尚美: 臨地実習を終えた看護系大学生のチーム医療の課題. 第 51 回 日本看護学会—看護管理—学術集会 (分科会 急性期看護・慢性期看護) WEB 開催
- (15) 飯田尚美, 竹崎和子, 門倉康恵: 臨地実習を終えた看護系大学生の「チーム医療」の学び. 第 51 回 日本看護学会—看護管理—学術集会 (分科会 急性期看護・慢性期看護) WEB 開催
- (16) 竹崎和子: 地域包括ケア病棟におけるリハビリテーション看護についての思い. 日本リハビリテーション看護学会 第 32 回学術大会 WEB 開催
- (17) 竹崎和子, 門倉康恵: A 看護系大学 1 年生の看護倫理の授業における学び. 日本看護倫理学会 第 13 回年次大会
- (18) 竹崎和子 門倉康恵 飯田尚美: 看護学生のチーム医療におけるコミュニケーションに関する学び. 日本看護研究学会第 33 回近畿・北陸地方会学術集会 2020 年 3 月 21 日
- (19) 田中富子: 中山間地域における健康づくりボランティアのソーシャルキャピタル. 日本看護研究学会第 46 回学術集会 2020 年 9 月 28 日
- (20) 村上有希・田中富子: 中山間地域の病院で働く看護職の職務満足度の実態. 日本看護研究学会第 33 回学術集会 2020 年 3 月 8 日
- (21) 一ノ瀬公美・田中富子: 高齢者の自主的な介護予防グループ活動への継続参加に関する文献検討. 日本看護研究学会第 33 回学術集会 2020 年 3 月 8 日
- (22) 田中富子・村上有希: 中山間地域の公立と民間の病院で働く看護師の職務満足度. 日本看護研究学会第 33 回学術集会 2020 年 3 月 8 日
- (23) 横溝珠美, 高尾茂子: 公衆衛生看護学選択学生の平成 30 年 7 月豪雨災害におけるボランティア活動体験からの学び. 日本看護研究学会中国・四国地方会第 33 回学術集会 (徳島県) 2020 年 3 月 8 日
- (24) 横溝珠美, 高尾茂子: B 市の子育て支援に関する検討—市内過疎地区における利用者視点からのニーズ把握を中心に— 第 8 回日本公衆衛生看護学会 (愛媛県) 2020 年 1 月 11
- (25) 中嶋 貴子, 山下 亜矢子: 精神看護学におけるナラティブ教材使用授業による学生の学修成果. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 2020 年 12 月
- (26) 福岡 美和: Awareness of infertility treatment by nursing students (看護学生による不妊治療の認識) EAFONS 2020 第 24 回 東アジア看護学研究者フォーラム (タイ) 2020 年 1 月
- (27) 柘野 浩子, 飯田 尚美, 門倉 康恵: 看護大学生の成人看護学実習Ⅱ (慢性期看護) を終えた看護大学生の「実習のまとめ」における学び. 第 40 回 日本看護科学学会学術集会 2020 年 12 月 12 日
- (28) 飯田 尚美, 柘野 浩子, 門倉 康恵: 成人看護学実習Ⅱ (慢性期看護) における臨地実習後の学内演習での学び. 第 40 回 日本看護科学学会学術集会 2020 年 12 月 12 日
- (29) 門倉 康恵, 柘野 浩子, 飯田 尚美: 成人看護学実習 (急性期) を終えた看護大学生の「実習のまとめ」における学び. 第 40 回 日本看護科学学会学術集会 2020 年 12 月 12 日
- (30) 増本由紀子, 松山亮太, 恒松美輪子, 梯 正之: 高校生の出席停止期間に基づく季節性インフルエンザの流行調査研究. 第 30 回日本疫学会学術総会 (京都) 2020 年 2 月 21 日

【科研 採択・継続課題】

理学療法学科

- (1) 代表者 平上二九三：卒前と卒後を連続したリハビリテーション技能の育成に関する評価ツールの開発と検証. 基盤研究C一般, 研究期間: 2019年 - 2022年.
- (2) 代表者 井上茂樹:培養神経細胞を用いた寒冷刺激効果の分子細胞生物学的解析. 基盤研究C一般, 研究期間: 2019年 - 2021年.
- (3) 代表者 森芳史:関節軟骨の階層構造の形成及び関節軟骨の維持における Rho 調節因子の機能の解析. 若手研究, 研究期間: 2019年 - 2022年

作業療法学科

- (4) 友利 幸之介, 澤田 辰徳, 大野 勘太, 清家 庸佑, 松下 宗一郎, 京極 真, 竹林 崇:リハビリテーションにおける活動と参加レベルの行動変容を促す目標設定アプリの開発. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2019年 - 2022年
- (5) 松田 憲幸, 京極 真, 小倉 光博, 池田 満:誤り概念の体系に基づく看護思考法診断学習支援システムの構築. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2018年 - 2021年
- (6) 三宅 優紀:施設入所高齢者が自分らしく生活するための支援技術としての園芸活動マニュアルの開発. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2020年 - 2022年

看護学科

- (7) 市村 美香, 佐々木 新介, 荻野 哲也:透析後の止血トレーニング装置の開発-安全で確実な止血技術の早期習得を目指した試み. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2020年 - 2022年

【受託研究ほか課題】

- (1) 代表者 原田和宏:東南アジア開発途上国の農村地域における脳卒中患者のADL自立要件と支援戦略 日本理学療法士学会: 2019年度理学療法にかかわる研究助成指定研究, 研究期間: 2019年9月 - 2020年3月.
- (2) 代表者 森下元賀:地域在住高齢者に対する口腔嚥下機能向上のための訓練器具の効果の検証 やずや食と健康研究所: 2020年度 やずや食と健康研究助成, 研究期間: 2020年12月 - 2021年11月.

研究科の自己点検・自己評価報告

研究科名 : 通信制・保健科学研究科

研究科長名 : 高橋 淳

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

① アドミッションポリシー

新型コロナウイルス感染拡大で研究活動が制限される中でも、可能な限り研究を継続して夏季、秋季、冬季スクーリングでの発表会でプレゼンテーションと活発な討議が行われた。本年度はすべて Microsoft Teams によるオンライン開催であったが、全員が遠隔発表に前向きに取り組み、順調に発表、討論が進んだ。「臨床・実践における疑問を研究で解」き「対象となる人々の運動・生活・作業・心身機能を改善」「することのできる高度な専門的職業人を志している人」を受け入れることに成功していると考えられる。

『目標：通信制大学院課程入学者の増加を図る：通信制修士課程 理学専攻 15 名、作業専攻 10 名の定員の確保を目指す』

本年度は通信制修士課程 理学専攻 8 名、作業専攻 20 名が在籍した。理学専攻は定員に満たないが、作業専攻と合わせて 28 名と通信制修士課程全体では定員 25 名を超えている。

②カリキュラムポリシー

夏季、秋季、冬季スクーリングでの発表会の内容は、「高度な医学的・リハビリテーション科学的知識や理学・作業療法学に関する体系的知識を修得」していることを示した。また、研究テーマの設定と自ら設定したテーマに沿った情報収集は、「臨床現場・実践場面で抱える問題や疑問を研究に結びつける論理的思考能力や表現技術を修得させ」ていることを示した。オンライン開催でのプレゼンテーションと討議を行うことで、「IT 技術を利用した遠隔教育で仕事と研究を両立」させる方針をさらに推し進めた。

③ディプロマポリシー

学位論文の審査においては、「問題解決能力の基礎となる医学的・リハビリテーション科学的知識」、「問題を具体的に解決していくための」知識を「体系的に修得した」か確認し、「高度な研究能力を備えた人に修士」の学位を授与するべく、厳しく評価した。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

【卒論研究】

『社会の要請に応える：社会人が学べる環境を整備し、入学者全員の学位取得を目指す』ディプロマポリシーに則り、研究者、教育者として自立して活動する能力を修得し

たとして理学専攻 5 名、作業専攻 9 名に学位を授与することができた。

【著書・論文・口頭発表】

本年度は著書 2 冊、発表論文 34 編、口頭発表 11 であり（業績資料を添付）、研究科教員の研究活動は活発である。引き続き活発な研究活動を継続していきたい。

【受託研究等】

<科研費>

基盤研究 B 継続 2 件、基盤研究 C 継続 2 件、新規 1 件、若手研究継続 1 件

<その他競争的資金>

継続 1 件

<その他競争的資金>

新規 1 件

3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等）

【政策アドバイス】

(1) 高橋淳：高梁医師会新興感染症対策委員会 アドバイザー。高梁医師会，高梁市，2020 年 3 月 19 日，4 月 2 日，4 月 16 日，4 月 30 日

(2) 高橋淳：自由民主党本部・有識者ヒアリング（V-CUBE アプリを用いた TV 会議で参加），2020 年 6 月 23 日。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（IT の活用等を含めて）

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

【公開講座等】

(1) 森下元賀：全身からみる口腔機能維持・向上の取り組み ～理学療法士の立場から～。広島県歯科衛生士会 介護予防口腔機能向上研修会，広島市，2020 年 12 月 13 日。

(2) 森下元賀：楽に身体を柔らかく～効果的なストレッチの方法～。吉備国際大学出前講義 高梁市立宇治高等学校，高梁市，2020 年 12 月 18 日。

(3) 佐藤三矢：看護師でも行えるベッドサイドのリハビリテーション。岡山県看護協会 卒後研修，岡山市，2020 年 11 月 16 日。

(4) 佐藤三矢：日常生活の中での介護予防実践。井原市教育委員会 長寿大学，井原市，2020 年 6 月 19 日。

(5) 佐藤三矢：高梁市いきいきロコモ予防体操。高梁市ケアマネージャー研修会，高梁市，2020 年 2 月 21 日。

(6) 佐藤三矢：古都式体操でロコモ予防！～サロンで取り組める介護予防～。新見市社会福祉協議会 令和元年度サロン交流会，新見市，2020 年 2 月 5 日。

【メディア出演】

『目標：テレビへの出演、プレスリリース、Facebook と YouTube の活用、卒業生への働

きかけ、学術雑誌への広報など』

(1)高橋淳：ニュース・キビ「新型コロナウイルス感染症について」. キビケーブルテレビ, 2020年3月2, 3, 4, 5, 6日放送(全4回:第1回「学校臨時休業の意義」, 第2回「新型コロナウイルスの性質と不活化について」, 第3回「ウイルスの感染経路等について」, 第4回「リスク者の感染予防」, 第5回「気になる症状があるとき」).

(2)高橋淳：ニュース・キビ「新型コロナウイルス感染症について」シーズン2. キビケーブルテレビ, 2020年4月1, 2, 3日放送(全3回:第1回「変異した新型コロナ」, 第2回「新型コロナの新常識(1)」, 第3回「新型コロナの新常識(2)」).

(3)高橋淳：ニュース・キビ「ふかぼりワイド」「新型コロナウイルス感染症について」シーズン3. キビケーブルテレビ, 2020年5月7, 8, 11日放送(全3回).

YouTubeに(1)の動画1本、(2)の動画3本、(3)の動画2本及び以下の2本と合わせて計8本の動画を公開した。

1) 高梁医師会向け「新型コロナウイルス感染症」

2) 高梁医師会向け「新型コロナウイルス感染症」第2回

【ホームページ】

業者に依頼し、保健科学研究科独自のホームページを作成した。

Ⅲ. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

『きめ細かな研究指導体制：研究指導の教員格付けを増やして研究指導体制を整える』主指導1名、副指導2名のきめ細やかに指導ができる体制をとり、学生の要望に応じている。

『目標：退学者ゼロ：学生の抱える問題を早期に把握して解決することで退学者ゼロを目指す』本年度の退学者は0であった。

Ⅳ. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

夏季、秋季、冬季スクーリングを、本年度はすべてMicrosoft Teamsによるオンライン開催とした。

地（知）の拠点事業終了後の継続事業としてワークシェアリング就労支援プロジェクトの活動で、主としてCOVID-19を意識した衛生管理（手指の付着箇所のアルコールなどを活用した拭き上げ清掃）などに取り組んだ（作業療法学科, 山本倫子）。

Ⅴ. 省エネ対策の取組

例年のように使用教室の退室時消灯等に努めている。

Ⅵ. 本年度特に取り組んだ事項について

新型コロナウイルスの感染拡大のため、保健福祉研究所でのウェットのバイオ実験や対面を必要とする研究は自粛せざるをえなかった。疫学などの机上で可能な研究テーマを取り入れたり、zoomなどを用いて遠隔で共同作業や議論を行うことで、研究科の活動性を下げないよう努力した。

研究業績 (2020年1月～12月)

【著書】

理学療法学科

- (1) 森下元賀：バイオフィードバック療法，物理療法学 第5版（標準理学療法学 専門分野）．網本和，菅原憲一（編集），医学書院，東京，2020年．
- (2) 原田和宏：セルフケア，手段的日常生活活動，Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学．白田滋（編集），メジカルビュー社，東京，2020年．

【論文】

理学療法学科

- (1) Masanobu Murao, Tetsuo Imano, Junichi Akiyama, Teruhiko Kawakami, Masaaki Nakajima: Effect of single bout downhill running on the serum irisin concentrations in rats. Growth factors (Chur, Switzerland). 2020; 37(5-6): 257-262. ※
- (2) 今野哲男, 村尾昌信, 秋山純一, 川上照彦, 中嶋正明: マンシエットによるラット骨格筋への血流制限と組織血液酸素飽和度の経時的変化. 理学療法科学. 2020; 35(1): 49-52. ※
- (3) Koji Nonaka, Junichi Akiyama, Yoshiyuki Yoshikawa, Satsuki Une, Kenichi Ito: 1,25-Dihydroxyvitamin D3 Inhibits Lipopolysaccharide-Induced Interleukin-6 Production by C2C12 Myotubes. Medicina (Kaunas, Lithuania). 2020; 56(9): DOI: 10.3390/medicina56090450. ※
- (4) 福田富男, 香田康年, 水谷雅年: 環境保全を考慮したアマモ (Zostera marina) 場造成基礎研究— III 一花枝・花穂・種子の関係性の検討—. 吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系). 2020: 30: 23-31.
- (5) Yutaka Gomita, Satoru Esumi, Soichiro Ushio, Yoshihisa Kitamura, Toshiaki Sendo, Hirotohi Motoda, Shigeki Inoue, Hiroaki Araki, Yoshio Kano: Intracranial self-stimulation-reward or immobilization-aversion had different effects on neurite extension and the ERK pathway in neurotransmitter-sensitive mutant PC12 cells. Behavioral brain research. 2020; 396: 112920-112920. ※
- (6) 大西邦博, 河村顕治: 変形性膝関節症患者における体幹加速度と身体機能の関連性の術前調査. 臨床バイオメカニクス. 2020: 41: 351-356. ※
- (7) 秋本剛, 河村顕治, 和田孝明, 河野達哉, 石原直道, 横田あかね, 杉之下武彦, 横山茂樹: 変形性膝関節症における膝関節伸展に伴う疼痛の有無と膝伸展機能および歩行速度の比較. 理学療法科学. 2020: 35(5): 705-710. ※
- (8) 井上茂樹, 平上二九三, 河村顕治, 元田弘敏, 秋山純一, 増川武利, 五味田裕, 加納良男: 培養神経細胞を用いた長時間寒冷刺激の影響. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020: 21: 31-34.
- (9) 加納良男, 平上二九三, 元田弘敏, 小池好久, 秋山純一, 井上茂樹, 牛尾聡一郎, 五味田 裕, 河村顕治: 細胞内シグナル伝達分子を標的とした抗がん物質の探索. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020: 21: 17-21.
- (10) 宮地司, 羽田圭宏, 河村顕治: 異なる関節角速度での筋力と姿勢制御の関係性—高速度での筋出力特性に着目して—. 理学療法科学. 2020: 35(1): 17-21. ※
- (11) 原田美由紀, 横山茂樹, 河村顕治: 胸椎後彎姿勢が上肢挙上角度の違いによる肩甲骨位置に与える影響. 保健医療学雑誌. 2020: 11(1): 17-23. ※
- (12) Motoyoshi Morishita, Taeka Ikeda, Natsue Saito, Mihoko Sanou, Mayumi Yasuda, Shigeko Takao: Relationship between oral function and life-space mobility or social networks in community-dwelling older people: A cross-sectional study. Clinical and experimental dental research. 2020; DOI: 10.1002/cre2.381. ※

- (13) 中祖直之, 松浦晃宏, 原田和宏: 脳卒中片麻痺患者における段差昇降動作の可否に関する機能的要因の検討. 理学療法科学. 2020: 35(6): 873 - 877. ※
- (14) 原田和宏, 井上優, 香川幸次郎, 田中繁治, Sit Song, Seiha Suth: カンボジア王国の農村地域に暮らす脳卒中後遺症者の家族の介護負担感と今後の調査研究課題. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020: 21: 11-16.
- (15) Akazawa N, Harada K, Okawa N, Kishi M, Tamura K, Moriyama H: Changes in Quadriceps Thickness and Echo Intensity in Chronic Stroke Survivors: A 3-Year Longitudinal Study. Journal of stroke and cerebrovascular diseases. 2020; 30(3): DOI: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2020.105543. ※
- (16) 藤井美次, 河口滉, 羽村景子, 鈴木健朗, 須山晋輔, 宮田昌代, 齋藤満, 井上茂樹: 介護老人保健施設入所の高齢女性におけるスタンス幅の異なる反復起立運動の影響. 理学療法おかやま. 2020: 1: 6-10. ※
- (17) 平上二九三, 原田和宏, 井上 優, 井上茂樹, 齋藤圭介, 伊勢眞樹: 理学療法の臨床実習教育における自己評価チェックリストの有用性. 吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系). 2020: 30: 33-44.
- (18) 平上二九三: リハビリテーション技能の育成に関するプロセスモデルの開発. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020: 21: 1-10.
- (19) Yasuhiko Kamikubo, Toshio Hattori, Atsushi Takahashi: Epidemic trends of SARS-CoV-2 associated with immunity, race, and viral mutations. Cambridge Open Engage. 2020; DOI:10.33774/coe-2020-lkc5b-v3. ※
- (20) Yasuhiko Kamikubo, Toshio Hattori, Atsushi Takahashi: Paradoxical dynamics of SARS-CoV-2 by herd immunity and antibody-dependent enhancement. Cambridge Open Engage. 2020; DOI: 10.33774/coe-2020-fsnb3. ※
- (21) Yasuhiko Kamikubo, Atsushi Takahashi: Epidemiological Tools that Predict Partial Herd Immunity to SARS Coronavirus 2. medRxiv. 2020; DOI: 10.1101/2020.03.25.20043679. ※
- (22) 高橋淳: パンデミックと医療崩壊. 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要. 2020: 21: 23-29.
- (23) 太田晴之, 齋藤圭介, 原田和宏, 京極真: 慢性疼痛患者の集学的治療標本における疼痛生活障害評価尺度 (Pain Disability Assessment Scale) の因子構造モデルの検討. 日本保健科学学会誌. 2020: 23(2): 51-59. ※

作業療法学科

- (24) 三宅優紀, 荻野学芳, 荻野景規, 京極真: リハビリテーションスタッフへの作業機能障害の種類と評価 (Classification and Assessment of Occupational Dysfunction: CAOD) の妥当性と信頼性の検証 日本予防医学会雑誌 14 7 - 13
- (25) Ashwini Shete, Sampada Dhayarkar, Ashwini Dhamanage, Smita Kulkarni, Manisha Ghate, Shashikala Sangle, Uttam Medhe, Vinita Verma, Shobini Rajan, Toshio Hattori, Raman Gangakhedkr: Possible role of plasma Galectin-9 levels as a surrogate marker of viremia in HIV infected patients on antiretroviral therapy in resource-limited settings. AIDS Research and Therapy 17(1)
- (26) Gaowa Bai, Takashi Matsuba, Toshiro Niki, Toshio Hattori: Stimulation of THP-1 Macrophages with LPS Increased the Production of Osteopontin-Encapsulating Exosome. International Journal of Molecular Sciences 21(22) 8490 - 8490
- (27) Shirley T. Padilla, Toshiro Niki, Daisuke Furushima, Gaowa Bai, Haorile Chagan-Yasutan, Elizabeth Freda Telan, Rosario Jessica Tactacan-Abrenica, Yosuke Maeda, Rontgene Solante, Toshio Hattori: Plasma Levels of a Cleaved Form of Galectin-9 Are the Most Sensitive

- Biomarkers of Acquired Immune Deficiency Syndrome and Tuberculosis Coinfection. *Biomolecules* 10(11) 1495
- (28) Yugo Ashino, Haorile Chagan-Yasutan, Masumitsu Hatta, Yoichi Shirato, Yorihiro Kyogoku, Hanae Komuro, Toshio Hattori: Successful Treatment of a COVID-19 Case with Pneumonia and Renal Injury Using Tocilizumab. *Reports* 3(4) 29
- (29) Ashwini Shete, Shubhangi Bichare, Vishwanath Pujari, Rashmi Virkar, Madhuri Thakar, Manisha Ghate, Sandip Patil, Annapurna Vyakarnam, Raman Gangakhedkar, Gaowa Bai, Toshiro Niki, Toshio Hattori: Elevated Levels of Galectin-9 but Not Osteopontin in HIV and Tuberculosis Infections Indicate Their Roles in Detecting MTB Infection in HIV Infected Individuals. *Frontiers in Microbiology* 11
- (30) Haorile Chagan-Yasutan, Firmanto Hanan, Toshiro Niki, Gaowa Bai, Yugo Ashino, Shinichi Egawa, Elizabeth Freda O. Telan, Toshio Hattori: Plasma Osteopontin Levels is Associated with Biochemical Markers of Kidney Injury in Patients with Leptospirosis. *Diagnostics* 10(7) 439
- (31) Toshio Hattori: Case Reports Are the Starting Point to Medical Science. *Reports – Medical Cases, Images, and Videos* 3(2) 8
- (32) Gaowa Bai, Toshiro Niki, Haruhisa Kikuchi, Ayako Sumi, Nobuyuki Kobayashi, Takahiro Haruyama, Jing Zhang, Haorile Chagan-Yasutan, Toshio Hattori: New Development of Disaster-Related and Tropical Infectious Diseases Control. *Reports – Medical Cases, Images, and Videos* 3(1) 5
- (33) Jing Zhang, Osamu Yamada, Shinya Kida, Shinya Murase, Toshio Hattori, Yoshiteru Oshima, Haruhisa Kikuchi: Downregulation of PD-L1 via amide analogues of brefelamide: Alternatives to antibody-based cancer immunotherapy. *Experimental and Therapeutic Medicine*
- (34) Haorile Chagan-Yasutan, Sarnai Arlud, Lei Zhang, Toshio Hattori, Baoyindeliger Heriyed, Nagongbilige He: Mongolian Mind-Body Interactive Psychotherapy enhances the quality of life of patients with esophageal cancer: A pilot study. *Complementary Therapies in Clinical Practice* 38 101082

【口頭発表】

理学療法学科

- (1) 河村顕治: 電気刺激併用型荷重立位周期的揺動運動および tDCS 負荷時の大脳皮質刺激効果の研究. 第 4 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2020 年 11 月.
- (2) 大西邦博, 秋本剛, 河村顕治, 栗田雄一: 3 軸加速度計を用いた人工膝関節全置換術患者における術後 1 週の運動機能の変化. 第 47 回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会. 2020 年 11 月.
- (3) 秋本剛, 河村顕治, 和田孝明, 石原直道, 横田あかね, 杉之下武彦, 大西邦博, 横山茂樹: 変形性膝関節症患者と健常高齢者の歩行周期時間変動の差異. 第 47 回日本臨床バイオメカニクス学会学術集会. 2020 年 11 月.
- (4) 河村顕治: 電気刺激併用型荷重立位周期的揺動運動および tDCS 負荷時の大脳皮質刺激効果. 第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2020 年 8 月.
- (5) 畦五月, 秋山純一, 野中紘士, 中田理恵子: 加熱した白花豆からのレクチンの精製とその性質. 日本家政学会第 72 回大会. 2020 年 5 月.
- (6) Motoyoshi Morishita, Junya Sota, Mariko Kobayashi: Effects of Carbonated Beverages on Sustained Swallowing Behavior Changes Using Swallowing Sound Analysis. The 10th European Society of Swallowing Disorder Virtual Online Congress, 2020 年 9 月.
- (7) 井上茂樹, 加納良男: 寒冷刺激を感知する細胞内シグナル伝達経路の探究. 第 25 回岡山リサーチ

パーク研究・展示発表会. 2020年12月.

作業療法学科

- (8) 服部俊夫、白高娃、仁木敏朗、前田洋助、Shirley Padill：フィリピンの感染症病院におけるエイズ結核の実態調査第38回 西日本国際医療学会 2021年3月7日
- (9) 服部俊夫：Novel Methods to Overcome Disaster and Tropical Infectious Diseases 2020年4月29日
- (10) 三宅 優紀，岩田 美幸：特別養護老人ホームにおける高齢女性に対する作業機能障害の種類に焦点を当てた評価および介入 園芸活動を用いた実践. 作業療法 39(3) 341 - 347
- (11) 三宅優紀，荻野学芳，荻野景規，京極 真：リハビリテーションスタッフへの作業機能障害の種類と評価 (Classification and Assessment of Occupational Dysfunction: CAOD) の妥当性と信頼性の検証. 日本予防医学会雑誌 14 7 - 13

【科研 採択・継続課題】

理学療法学科

- (1) 代表者 平上二九三：卒前と卒後を連続したリハビリテーション技能の育成に関する評価ツールの開発と検証. 基盤研究C一般, 研究期間：2019年 - 2022年.
- (2) 代表者 井上茂樹：培養神経細胞を用いた寒冷刺激効果の分子細胞生物学的解析. 基盤研究C一般, 研究期間：2019年 - 2021年.
- (3) 代表者 森芳史：関節軟骨の階層構造の形成及び関節軟骨の維持における Rho 調節因子の機能の解析. 若手研究, 研究期間：2019年 - 2022年

作業療法学科

- (4) 友利 幸之介, 澤田 辰徳, 大野 勘太, 清家 庸佑, 松下 宗一郎, 京極 真, 竹林 崇：リハビリテーションにおける活動と参加レベルの行動変容を促す目標設定アプリの開発. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2019年 - 2022年
- (5) 松田 憲幸, 京極 真, 小倉 光博, 池田 満：誤り概念の体系に基づく看護思考法診断学習支援システムの構築. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2018年 - 2021年
- (6) 三宅 優紀：施設入所高齢者が自分らしく生活するための支援技術としての園芸活動マニュアルの開発. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2020年 - 2022年

【受託研究ほか課題】

- (1) 代表者 原田和宏：東南アジア開発途上国の農村地域における脳卒中患者のADL自立要件と支援戦略 日本理学療法士学会：2019年度理学療法にかかわる研究助成指定研究, 研究期間：2019年9月 - 2020年3月.
- (2) 代表者 森下元賀：地域在住高齢者に対する口腔嚥下機能向上のための訓練器具の効果の検証 やずや食と健康研究所：2020年度 やずや食と健康研究助成, 研究期間：2020年12月 - 2021年11月.

研究科の自己点検・自己評価報告

研究科名 : 心理学研究科

研究科長名 : 三宅 俊治

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

①アドミッションポリシー

心理学専攻・博士（前期）課程には、2020年度には8名が入学した。キックオフミーティングで掲げた定員充足には至らなかった（定員は15名）。入学した8名は博士（前期）課程にある2つのコースのうち、「公認心理師コース」を選択した。将来、「公認心理師」という国家資格を取得した上で、教育・福祉・保健医療・司法矯正・産業領域における臨床心理活動を通して、適応に困難を生じている人々を支えたいという意欲を高めることとなった。

②カリキュラムポリシー

本年度は、3種のカリキュラムが実践された。すなわち、2010年度カリキュラム（2017年入学の臨床心理学専攻修士課程、修了単位36単位）、2018年度カリキュラム（臨床心理学専攻修士課程、修了単位51単位）、2019年度カリキュラム（心理学専攻博士（前期）課程「公認心理師コース」及び「心理学コース」、修了単位は両コースとも32単位）がコロナ禍の中、履行された。コロナ感染リスクは、春学期前半におけるオンライン授業、予め協定を結んでいた学外実習施設からの実習生の受け入れ停止、修士論文作成のためのデータ収集の困難等々を招来したが、どうにか在籍者は修了予定の段階まで漕ぎ着けた。なお、「学生による授業評価」では、教員に関する4つの質問項目の評定平均値が4.50であり、昨年度の4.48と大差なく高い値を示した。

③ディプロマポリシー

本年度修了予定者9名のうち、2017年度カリキュラム履修の臨床心理学専攻修士課程在籍者1名が春学期修了を果たした。また、2018年度カリキュラム履修の臨床心理学専攻修士課程の長期履修者は、公認心理師と臨床心理士の受験資格の得られる51単位を取得して3月修了に目途を立てている。そして、2019年度カリキュラム履修の心理学専攻・博士（前期）課程・公認心理師コースに在籍する6名もコロナ禍の中、学外実習先の変更を余儀なくされた者もいたが、3月修了を目指して修論に取り組んでいる。さらに、2019年度カリキュラム履修の心理学専攻・博士（前期）課程・心理学コースに在籍する留学生1名は、就職も決定し、「吉備方式」とも言える履修生中心の教育的配慮に基づく対応の効果を得て、修士論文を書き上げ、今春、修了予定である。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

(1) 修士論文

本年度提出されたり提出が予定されたりする修士論文は、9編（そのうち1編は春学期末に提出）であった。

(2) 本年度の、大学院担当者11名の研究業績の総数は、以下の通りであった。

- ①書籍：4編（単著1、編著書1、分担執筆2）
- ②研究論文：12編（査読付き5編　内訳：第1著者もしくは単著3編、共著者2編）
- ③学会発表：13件
- ④学会シンポジウム：2件
- ⑤公開講座・講演：19件（41回）
- ⑥競争的資金：7件　科研継続4件（代表2件、共同2件）、科研新規1件（共同）
その他、学外2件（代表）

3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等）

- ① 高梁市教育委員会の協力で、読み困難の学童支援（スマイルスタート事業）の継続的实施。5年目を迎え一定の成果をあげるとともに、本学の公認心理師コースの大学院生が心理実習として参加。
- ② 岡山県備中県民局における精神発達相談。
- ③ 高梁市乳幼児健診における心理相談。
- ④ 高梁市および地域の療育機関との協働によるペアレント・トレーニング講座の実施。②～④のいずれも、公認心理師コースの大学院生が心理実習として参加。
- ⑤ 法務省矯正局と連携し、本年度は愛知少年院、岡山少年院、中津少年学院の3院それぞれと共同研究協定を結び研究実施（科研費に採択された研究課題）。
- ⑥ 高梁市教育委員会「学校ふれあい促進事業」のふれあいインストラクターとして、市内の高校支援（年間約10回）。県立高梁高校における学校教育相談の実施。相談予約が常時入っており実績を蓄積。

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

- ① 大学のホームページの心理学研究科部分の紹介を更新した。コロナ禍にあって、来年度からはホームページを、一層充実する必要性が感じられた。
- ② 倉敷市での不登校対策や管理職メンタルヘルス研修など、地域連携の一環として行った講演でも、岡山県公認心理師・臨床心理士協会などの依頼による専門職を対象とした研修講演でも、本学や心理相談室の紹介を行った。
- ③ 高校から依頼された大学見学、模擬授業で、研究科の紹介に努めた。訪問してきた

高校生には大学院教育や公認心理師の問いに対して真摯に回答し対応した。

- ④ 招待を受けた講演会では、研究科に関連する情報を伝達し、自らの研究実践や心理相談室の取り組みを紹介した。

Ⅲ. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

心理学研究科における平成 28 年度(2016)～令和 2 年度(2020)までの 5 年間の退学者数の推移は、1/25、4/21、0/11、0/13、1/17（分子が退学者数で分母は在籍者数）であった。4 年前には、pathological な兆候を示す入学生が多く、加療が先決だと判断し、精神科治療を勧めた。今年度は、博士前期課程に入学した 1 年次生が退学したが、父親の離職と母親の癌罹患、兄弟の就学費用などが重なり、各種奨学金などの充当では家族そのものの生活が成り立たない危惧が予測されるためであった。指導教員は、親身になって窮状を打開するべく最大限の支援を行なったが、叶わなかった。

Ⅳ. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

① 新型コロナへの感染リスクを低くするために普段の手指のアルコール清拭、オンライン授業の導入（春学期前半）、対面授業の場合にはマスクの着用を徹底し、距離や間隔を保った座席位置の指定等、いわゆる三密の回避に努めた。

② いわゆるアカハラで学生個々の尊厳や人権を損なうことのないように、「吉備方式」に基づく学生への懇切丁寧な言動を心がけることを、教授会などの機会に担当教員に指示した。

Ⅴ. 省エネ対策の取組

消灯、冷暖房のスイッチ・オフなど、できるだけ気づいた範囲で、各教員が励行し、学生にも注意喚起した。

Ⅵ. 本年度特に取り組んだ事項について

第 1 回中期目標に掲げた外国との共同研究成果を、「日本と中国の大学生の社会意識の比較－ブランドのコピー商品に対する態度及び ageism－」という報告書として令和 2 年 1 月 10 日に発行した。

研究科の自己点検・自己評価報告

研究科名 : 通信制・心理学研究科

研究科長名 : 三宅 俊治

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

①アドミッションポリシー

心理学専攻・博士（後期）課程には、2020年度には1名が入学した。キックオフミーティングで掲げた定員充足には至らなかった（定員は3名）。

②カリキュラムポリシー

本年度は、コロナ禍の中でオンラインのスクーリングが行われた。3年次より上の学年3名は、博士論文の草案に関する討論が、また、2年次生1名は中間発表に関する議論がそれぞれ活発に行われた。

③ディプロマポリシー

本年度は3名が、年度末に博士論文を提出する予定である。

2) 研究活動（卒業研究、受託研究等）

本年4月に発表した「令和2年度の博論提出予定者個々（3名）の研究」に関する目標は以下の通りであった。

① D931***については、最終年でもあるので発破をかけて博論提出に漕ぎ着ける。

② D931***は予定している調査研究を速やかに実施し、その結果も踏まえて博論の提出を促す。

③ D931***はいずれかの査読誌に掲載が決定され次第、博論の提出準備に入る。

博士（後期）課程に在籍中の研究実績として、これら3名のうち、①は研究論文が査読誌に掲載済みで他の論文2編が完成、②は研究論文が査読誌と紀要に掲載済み、③は研究論文が査読誌に掲載が決定し、他の論文も紀要に投稿中という状態で、いずれも現在、博論提出準備中（1/20提出締切）である。指導成果が目に見える形で顕われつつあると言える。

3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等）

特には行われてはいない。

| |
|---|
| <p>II. 定員充足対策としての情報発信について</p> <p>学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて） 特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動</p> |
| <p>定員充足対策のための情報発信として、</p> <p>①大学ホームページにおける通信制・心理学研究科博士（後期）課程の紹介 ②通信制・博士（後期）後期課程のパンフレットの発行 ③通信制事務局の行っている説明会 ④研究所合同シンポジウム後の大学院説明会 ④ オープン・キャンパス時や普段の土曜・日曜日における面談 ⑤ 受験資格や教育課程に対する E-mail を通しての問い合わせへのメールによる回答書の送付などがある。</p> |
| <p>III. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）</p> |
| <p>2020（令和2）年度前期は8月1日（土）・2日（日）に駅前キャンパスでスクーリングが開催された。また、後期は2021年2月6日（土）・7日（日）に予定されている。スクーリングでは、普段のE-mailを通しての文字のみのコミュニケーションによる制約を少しでも和らげるために、積極的に対面の verbal communication に努め、スクーリング時初日の夕刻の懇親会を利用して、担当教員と履修生との相互理解を深めることによって、アカハラや退学者の生起・出現の回避に役立てている。</p> |
| <p>IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）</p> |
| <p>① コロナ禍のために、オンラインによるスクーリングを行なった。 ② いわゆるアカハラで学生個々の尊厳や人権を損なうことのないように、「吉備方式」に基づく学生への懇切丁寧な通信文書のやり取りに徹した。</p> |
| <p>V. 省エネ対策の取組</p> |
| <p>駅前キャンパスのスクーリングで使用する教室の冷暖房・消灯などの省エネには、通信制事務局の担当者とも協力して努力する手筈であったが、本年度はオンライン授業のため特筆する取組みはなかった。</p> |
| <p>VI. 本年度特に取り組んだ事項について</p> |
| <p>第1回中期目標に掲げた外国との共同研究成果を、「日本と中国の大学生の社会意識の比較—ブランドのコピー商品に対する態度及び ageism—」という報告書として2021年1月10日に発行した。</p> |

研究科の自己点検・自己評価報告

研究科名 : 地域創成農学研究科

研究科長名 : 谷坂 隆俊

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

教員一同オンライン講義に対して全力で取り組んだ。オンライン講義の準備には、対面講義と比べて数倍～十数倍の時間と労力が必要であったが、すべての教員がオンライン講義をそつなくこなすことができた。非常勤講師を含む全教員に敬意を表したい。ただし、本学の建学の理念である「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」を達成するために必須の「学生との身近な接触」が COVID-19 の広がりにより不可能であった。COVID-19 収束後は、学生との身近な接触に努め、建学の理念に則った教育活動を推進しなければならないと考えている。オンライン講義の実施に当たっては、パワーポイントや動画、ホワイトボードソフトを用いて重要部分を説明するなどの工夫によって講義に飽きがこないようにしたり、ディスプレイを利用しない講義時間あるいは休憩時間を設け、眼精疲労を招来しないようにしたり、あるいは、学生からの意見や質問は必ず次回の授業に反映させることによって「この先生は私の意見を聞いている」という満足感を引き出し、授業が双方向性であることを強く認識させたりするなどの創意工夫がこらされた。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

COVID-19 の流行により研究活動の停滞を余儀なくされた。とくに、遺伝解析をともなう植物研究（1 サイクル 5-6 年）に対する影響が大きく、現在までの公表論文数は例年の 30%程度にとどまっている。修論研究は 3 密を回避するという条件で 6 月からスタートさせた。

【学術論文】

- 1) Atsushi Okawa*, Masaya Hayashi*, Junko Inagaki, Toshihide Okajima, Takashi Tamura, Kenji Inagaki (*equal contribution): Novel method for L-methionine determination using L-methionine decarboxylase and application of the enzyme for L-homocysteine determination. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry* 84(5) 927 - 935. 2) Taketa S., Hattori M., Takami T., Himi E., Sakamoto W. Barley albino lemma 1 resulted from mutations in a Golden2-like gene reduces seed weight. *Plant Cell Physiology*, (in press). 3) 竹生敏幸・許 沖・谷坂隆俊: 低投入持続型農業の実現に向けたバイオスティミュラントの利用による土壌作りと水質浄化. *農耕と園芸* 2020 年秋号: 49-53. (2020 年 8 月).

4)大川 敦司, 林 将也, 稲垣 純子, 岡島 俊英, 田村 隆, 稲垣 賢二: L-メチオニン脱炭酸酵素を用いた新規L-メチオニン定量法の開発とL-ホモシステイン定量への応用. *Vitamins(Japan)*94(11) 549 - 552 (2020/11 3) 5)濱島敦博: 貯蔵ブドウ輸出にみる青果物輸出マーケティングの多様性. *開発学研究* 31(2)、2020年12月.6) Atsushi Okawa, Tomoo Shiba, Masaya Hayashi, Yuki Onoue, Masaki Murota, Dan Sato, Junko Inagaki, Takashi Tamura, Shigeharu Harada, Kenji Inagak: Structural basis for substrate specificity of L-methionine decarboxylase. *Protein Science* (in press)

【著書】

- 1) 相野公孝: 植物病理学 (第2版) 第4章 病害の診断法 1. 診断のプロセス、第5章 生物的防除 (眞山滋志・土佐幸雄編)、文永堂出版 総頁347. (2020年3月). 2) 平井順: 米軍基地と沖縄地域社会: 111-127、「宜野湾市の旧字継承団体」ナカニシヤ出版 (2020年11月6日)

【学会発表】

- 1) 船越 孝之, 桧原 健一郎, 小川 拓水, 手塚 孝弘, 太田 大策, 横井 修司: イネ種子の γ -オリザノール含量を規定する候補因子の探索. 日本育種学会第137回講演会 (2020年3月28日) 2) 氷見英子: コムギ種子のカテキン量と種子休眠との関係について. 第137回日本育種学会講演会・2020年3月29日. 3) 藤本 源、渡部 太緒、荒川 恵理、小出 陽平、門田 有希、寺石 政義、伊藤 純一、桧原 健一郎、長戸 康郎、奥本 裕、吉川 貴徳: イネの生育相転換に関与するqJA1、qJA2が地域適応性に及ぼす効果. 日本育種学会第137回講演会 2020年3月29日. 4) 桧原 健一郎, 武田 真, 伊藤 純一: オオムギ MANY-NODED DWARF 遺伝子群による葉間期制御. 日本育種学会第137回講演会 2020年3月29日. 5) 原幸代, 相野公孝, 村上二郎: 揮発性抗菌物質である1-Phenyl-3-Pentanoneは、ムギ類赤かび病菌 (*Fusarium graminearum*) の成長のみならずカビ毒の生産も抑制する. 令和2年度日本植物病理学会大会 (2020年3月). 6) 稲田 隆人, 吉永 翔一郎, 寺本 翔太 奥本 裕, 谷坂 隆俊, 築山 柘司: イネ熱帯ジャポニカ品種における自律性転移因子 Ping のエピジェネティックな制御. 第138回日本育種学会後援会 (2020年10月10日). 7) 蝶野 真喜子, 藤田 雅也, 神山 紀子, 松中 仁 氷見 英子, 市田 裕之, 阿部 知子, 川上 直人: 粒の赤味が弱い新規コムギ変異体の農業特性. 第138回日本育種学会講演会 (2020年10月11日). 8) 佐藤敦信, 濱島敦博: 日本産丸太の輸出拡大と協議会設立を通じた森林組合の取り組み—鹿児島県・宮崎県木材輸出戦略協議会の事例. 日本国際地域開発学会秋季大会 (2020年11月14日).

【競争的資金】

- 1) 「イネ巨大胚変異体を利用した胚-胚乳間相互作用における胚側要因の解明」科学

研究費基盤研究(C) (代表)、2) [軍用地コンバージョンの国際比較—沖縄の基地移転と跡地再開発をめぐる地域社会研究] 科学研究費基盤研究(B)、3) [転移因子の活性を制御するエピゲノムリプログラミング機構の解明] 科学研究費基盤研究(C).

4) 「8つの研究会」: 南あわじ市受託研究、5) 「コムギ種子内在性 GABA が種子休眠に与える影響について」 公益財団法人 飯島藤十郎記念食品科学振興財団 学術研究助成、6) 「有機酸資材「NE」の作物栽培における有効性に関する研究」 Renaissance 株式会社 7) 「新規素材の植物病害に対する防除効果の検証」 フマキラー株式会社など

3) 地域連携活動 (各種ボランティア活動、共同研究等)

○ボランティア委員

1) 南あわじ市教育基本計画策定委員会委員長、2) 南あわじ市いじめ問題対策検討委員会委員長 (2017~)、3) 南あわじ市就農支援連絡協議会長、4) 南あわじ市人農地プラン検討委員、5) 南あわじ市浮体式多目的公園活用検討委員、など

○初・中等教育に対するサービス

1) 兵庫県立淡路三原高校の生物実験『分子生物学—PCR と電気泳動』の理論および技術の指導 (11月)、など

○地域企業・農業者に対するサービス

1) 淡路島におけるマンゴー商業栽培の可能性を探る栽培研究、2) 「淡路島なるとオレンジ」のアレルギー表示に関する相談((株) 長手長栄堂。洲本市, 2020年8月)、3) ソルガム種子成分についての相談((株) 中野産業、高松市, 2020年5月)、4) 南あわじ市野菜病害防除協議会での病虫調査指導、5) 淡路地域での病害診断とその対策指導、6) タマネギ病害の病原体調査 (JAからの調査依頼)、など

○学外共同研究・学内共同研究

1) 「有胚乳種子の胚サイズを制御する胚、胚乳側要因の探索」2020年度国立遺伝学研究所共同研究「NIG-JOINT」共同研究(B) 2020年4月 - 2021年3月 *新型コロナウイルス感染症対策で国立遺伝学研究所へ出張ができなかったため、2020年度実施は中止し、2021年度に再受給される予定。2) 「コムギ新規休眠関連遺伝子の解析」令和2年度 岡山大学資源植物科学研究所 共同研究課題・岡山大学資源植物科学研究所 3) 「アジアにおける日本の農産物・食品の受容過程と輸入拡大要因に関する研究」、など

II. 定員充足対策としての情報発信について

学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動 (ITの活用等を含めて)

特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動

地域創成農学研究科がなすべき最大の取り組みは、院生定員をいかにして充足するかを考え実行することである。しかし、現実には、本学農学部に入學してくる学生のほぼ全員が大学院進学には関心がなく、内部からの進学はほとんど期待できない状況にある。そこで、専任教員全員が全学生に対して大学院進学の意味について説明することにし、

これを実行した。

Ⅲ. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）

農学部における過去の退学者の退学理由をみると、指導教員に対する不満（“確執”まではいかない）がもっとも多く、次いで家庭環境である。したがって、地域創成農学研究科においても退学者対策でもっとも重要なことは、「院生に寄り添った日常」を教員が実践することではないかと考えている。なかでも大切なことは、上から目線、強要、形式に対する必要以上のこだわりを避けることであろう。院生の研究における自由度を広げることも重要であり、教員一人ひとりが自覚して院生の指導に当たなければならない。本年度はM2の院生が修了まであと6カ月の段階で退学してしまった。上記配慮の徹底が必要である。

Ⅳ. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）

地域創成農学研究科が位置する兵庫県は、長期にわたって非常事態宣言区域（4月7日から5月21日まで）になるなどCOVID-19に対する罹患状況は深刻であった。このため、講義に関して大学本部地域とは異なる対応が必要であった。地域創成農学研究科では、高齢の教員・非常勤講師、感染者が極めて多い京阪神から公共交通機関を利用して通勤される非常勤講師には、オンラインでの講義を要請した。各種ハラスメント対策としては、相談窓口を設けている。

Ⅴ. 省エネ対策の取組

研究科としての取組みはなかったが、構成員一人ひとりが省エネに対する意識が強く、これにしっかり協力できたと考えている。

Ⅵ. 本年度特に取り組んだ事項について

地域創成農学研究科がなすべき最大の取組みは、院生定員をいかにして充足するかを考え実行することである。本年度は、内部進学者がほとんど期待でできなかった状況のなか、本学園と中国長春市雲策グループとの協定締結により2名の博士前期課程の院生を迎えることができた。このことが継続できるよう本研究科および本学農学部と長春市現代農学院との間の共同研究体制を整えた（9月4日にスタート）。農学部学生に対する大学院進学説明会を予定していたが、COVID-19の流行によりかなわなかった。

研究科の自己点検・自己評価報告

研究科名 : 通信制・連合国際協力研究科

研究科長名 : 末吉 秀二

| |
|--|
| I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて） |
| 1) 教育活動 |
| カリキュラム・ポリシー: 「学際的なカリキュラムの編成」および「懇切丁寧な指導」 今年度のカリキュラムには16の共通選択科目（保健、感染症、開発経済、人口、文化人類、環境等）を設置し、教育・研究指導はTeamsにより行った。 |
| アドミッション・ポリシー: 「専門性を有し国際協力分野で活躍できる人材」 1月13日現在、18名（2名が直接面談、4名がオンラインによる面談）から入学前相談を受けており、ポリシーにかなった人材確保を確保する。また、オンラインによる入試面接を実施した。 |
| 2) 研究活動(卒業研究、受託研究等) |
| ディプロマ・ポリシー: 「修得した知識を実践の場で応用できる能力」 ・修士論文の学術雑誌への投稿奨励（「体育経営管理論集」掲載予定） |
| 3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等） |
| 特になし |
| II. 定員充足対策としての情報発信について 学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて） 特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動 |
| 広報活動 ・スタディサプリ社会人大学・大学院（リクルート・ネット企画） ・リスティング広告（Yahoo!・Google） ・国際開発ジャーナル 通信教育特集 ・国際協力キャリアガイド2020-21 |
| III. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等） |
| 退学者はなし フィールド調査を行う学生への対応：長期履修制度の活用（3名） |
| IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等） |
| 夏季スクーリング（9月）のハイブリットによる実施 |

| |
|---|
| 冬季スクーリング（2月）のオンラインによる実施 |
| V. 省エネ対策の取組 |
| 特になし |
| VI. 本年度特に取り組んだ事項について |
| <p><u>キックオフミーティングで示した目標に対する評価</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学者数の確保（定員7名） 未定 2. 研究指導の拡充 論文指導教員の確保 3. 修士論文の質の向上 検討中 4. 広報活動の継続 達成 5. その他：第10回同窓会の開催 コロナ禍のため中止 |

研究科の自己点検・自己評価報告

研究科名 : 通信制・知的財産学研究科

研究科長名 : 生駒 正文

| |
|--|
| I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて） |
| 1) 教育活動 募集停止により、現在、大学院生を終了させるために、全教職員が修士論文・教科指導等に相当努力をしている。なぜならば、弁理士試験の受験免除を受けるために、修士論文・教科の採点が特許庁に提出されるからである。 遠隔授業については、通常の授業で慣れているため教育に関しては万全である。 |
| 2) 研究活動（卒業研究、受託研究等） 卒業研究は、今年度3名修了（可能） 残りの院生は4名（来年卒業）。 受託研究は、各教員が各自行っている。 |
| 3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等） 地域連携活動については、各地域の方々と各自行っている。 |
| II. 定員充足対策としての情報発信について 学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて） 特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動 募集停止により、特に情報発信なし。 |
| III. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等） 全教員が親切、丁寧に指導のため退学者なし。 |
| IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等） 特に通信では以前から遠隔授業のため、密になる状況が少ない。ハラスメントについても全教員（弁護士、弁理士、学者等）充実のため、特に対策等なし。 |
| V. 省エネ対策の取組 なし。 |
| VI. 本年度特に取り組んだ事項について 各自教員が実務、学会で活躍されており、募集停止により、特に研究科で取り組んだ項目はないが、院生を修了させることである。 ただ残念であったことは、現在の知財学研究科の充実した教員・教育・遠隔授業を利用して全世界（特に東南アジア等）に授業発信したかった（教員の4ないし5名英語）。 |

研究科の自己点検・自己評価報告

学科名 : 通信制 社会福祉学研究科 修士課程

学科長名 : 高橋 睦子

I. 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）を踏まえ、キックオフミーティングで示した目標に対する評価全般ならびに特筆すべき成果等について（コロナ禍における遠隔授業等を含めて）

1) 教育活動

①アドミッションポリシー（学生募集停止のため省略）

②カリキュラムポリシー

選択科目（印刷授業）について院生の学修ニーズに的確に対応して開講科目を設定し、カリキュラム・ポリシーを適切に遵守した。

③ディプロマポリシー

本研究科の修士論文のテーマはクラシックな社会福祉学に限定されず多様である。ディプロマ・ポリシーで提示している「多様化する生活問題やケアの課題」の考察が修士論文としてまとめられ「問題解決や状況改善に向けての提言や実践」に結びついている。したがって、ディプロマ・ポリシーは適切に遵守されている。

2) 研究活動(卒業研究、受託研究等)

(1) 研究論文

- ・「ネウボラという取り組み - フィンランドにおける対話による支援」『子ども虐待を考えるために知っておくべきこと』（こころの科学増刊）日本評論社（2020）
- ・「A Trial Study in Visualizing Social Resources with Geographic Information Systems (GIS) in Japan」『吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要』第21号（2020）
- ・「地理情報を活用した地域における「通いの場」とその潜在的ニーズに関する研究」『吉備国際大学研究紀要人文・社会科学系』第31号（2021）
- ・「オープンデータを用いた学習素材としての地域分析の実践例」『グローバルデザイン論攷』Vol.5 No.1（2021）

(2) 国際ウェビナー「親子への早期の予防的支援：日本の実践（Preventive Support and Interventions for Children and Families -Japanese Practices）」2020年9月21日

(3) 外部研究資金

- ・ 科研費 基盤B（継続、代表）「子育て支援における予防の重点化：フィンランドとイギリスの知見からの政策提言」

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働行政推進調査事業費補助金（新規、分担）「都道府県や県型保健所による子育て世代包括支援センターの機能強化のための研究」 |
| <p>3) 地域連携活動（各種ボランティア活動、共同研究等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 全国保育士養成セミナー（第10分科会報告者・司会） ・令和2年度 倉敷市 要保護児童対策地域協議会研修会講師 ・特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会 連係入力研究、表出の読みやすさの研究 ・社会福祉法人聴力障害者情報文化センター要約筆記者指導者養成研修修了者実態調査委員会委員 ・岡山県災害救援専門ボランティア（要約筆記） ・岡山県登録要約筆記者 ・総社市登録要約筆記者、高梁市登録要約筆記者 ・岡山県備中県民局協働事業審査委員会委員 ・高梁市男女共同参画審議会委員、高梁市自立支援協議会委員 ・岡山県児童相談所スーパーバイズ強化事業専門サポート委員 |
| <p>II. 定員充足対策としての情報発信について</p> <p>学部学科研究科の魅力ある研究活動の情報発信活動（ITの活用等を含めて）</p> <p>特に、本年度実施の講演会、シンポジウムや公開活動及びその他広報活動、報道資料提供等の活動</p> |
| <p>該当無し</p> |
| <p>III. 退学者対策について（修学支援において、各種取組み・活動等）</p> |
| <p>未了者2名のうち1名は就業との両立が困難なため退学に至った。在学可能年限の上限まで、研究科教員は学修支援に努めたが結果的には退学を回避できなかった。</p> |
| <p>IV. 修学環境の安全管理対策など（新型コロナウイルス感染症対策・各種ハラスメント対策・防災対策等）</p> |
| <p>いかなる時もハラスメントが生じないように、院生を尊重する学修支援を行なった。スクーリングにおいてCOVID-19対策に十分に配慮した。</p> |
| <p>V. 省エネ対策の取組</p> |
| <p>該当無し</p> |
| <p>VI. 本年度特に取り組んだ事項について</p> |
| <p>未了者2名の修了を目指した（1名は予定通り修了見込み）</p> |

教育活動についての自己点検・自己評価報告

教育担当副学長 大原 秀行

1. 新型コロナウイルス感染症への対応とオンライン授業の導入

世界的に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020年度は、入学宣誓式およびオリエンテーションを中止、授業開始を5月7日に延期した。さらに緊急事態宣言の発令により、対面授業を中止し、急遽、Microsoft Teamsを使ったオンライン授業で授業を開始した。

オンライン授業導入にあたっては、非常に短い期間の中、使用ソフトの検討、研修会の実施、マニュアルやQ&Aの作成、全学生との接続テストなど、教職員が一致団結して準備を行い、大きな問題もなく、円滑にオンライン授業をスタートすることができた。

緊急事態宣言が解除され、6月22日からは一部の授業を除き対面授業に切り替えた。本学では、「吉備国際大学における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」を策定し、大学としての感染予防対策を徹底してきた。特に対面授業再開にあたっては、手指の消毒、マスクの着用、検温等の基本的な感染予防対策はもちろんのこと、授業中の換気や教室の人数制限、指定席の実施など、徹底した対策を行った。春学期は授業日程が大きく変更となったことから、1コマを100分授業に変更して授業時間の確保も図った。

秋学期からは全面的に対面授業で実施した。未入国の留学生については、引き続きオンライン授業（ハイブリッド型）を行っていたが、入国制限が緩和され、12月から1月初めにかけて予定している学生のすべてが入国することができた。

しかし、感染症の第3波が拡大し、1月の冬季休業後はオンライン授業でスタートすることとし、今後も感染の拡大、感染者の発生などに備え、いつでもオンライン授業に切り替えられる体制を整えていく予定である。

なお、オンライン授業については春学期授業アンケートにより検証を行い、改善してほしい点としては、一部科目の通信機器の不具合や資料印刷の問題などがあったが、良かった点として、授業録画や資料の提示により予習・復習がしやすい、発言がしやすいなど、概ね肯定的にとらえる意見が多かった。

2. 退学者対策

今年度は特に新入生の退学者対策として、「キウイバード祭」や新入生歓迎イベントなどの開催を予定していたが、感染症拡大により中止となった。さらにオンラインでの授業スタートとなったこと、新入留学生については12月まで入国ができない状態が続いたことなど、新入生とコミュニケーションをとることに苦慮した。その中で、オンラインによる面談やメールなどを活用して、できる限り学生たちとコミュニケーションをとることに努め、対面授業の開始の際は、オリエンテーションも実施し、各学科できめ細かな対応を心がけた。

また在學生については、GPAによる成績不振者に対して、三者面談を含む対応の実施、3回連続欠席者への声掛けなどを行い、休みがちになる前の早期の退学者対策を実施した。

2020年度12月末現在での退学者等の前年比較は次のとおりで、昨年と同時期よりやや減となっているが、今後も感染状況による変化に合わせ、さらなる対策を行っていく必要がある。

2020年度退学・除籍者数（前年比）

単位：人

| | 2020年度 (12月現在) | 2019年度 | |
|-----|-------------------|--------|------|
| | | (同時期) | (最終) |
| 退学者 | 21 | 25 | 58 |
| 除籍者 | 3 | 2 | 8 |
| 計 | 24 | 27 | 66 |

3. パソコン必携化への取り組み

この度の感染症拡大により、全国の大学等の教育機関でオンライン授業が導入され、教育におけるICT活用の必要性が急速に高まった。本学でも現在の情報化社会、さらにはその先のSociety5.0と呼ばれる超スマート社会において求められる情報活用能力の育成を目指し、学生に自分専用の持ち運び可能なパソコンを必ず携帯し、大学生活の中で自分のノートパソコンを持参して学ぶBYOD (Bring Your Own Device) を導入することとした。実施計画としては、2021年度入学生についてはパソコン必携を推奨とし、2022年度入学生から正式に必携とし、カリキュラムにおいて、また授業方法、課題などで積極的にパソコンを活用していくこととする。

4. ブランドビジョンの策定に伴う大学の3つのポリシーと学修成果の可視化の実現

新理事長体制のもと、吉備国際大学のブランドビジョンが新たに策定された。これに伴い大学の3つのポリシーを定めるとともに、併せて学修成果の可視化の準備も行い、2022年度入学生からのスタートに向け、カリキュラムや授業内容の見直しなど、実現に向けて始動した。現在は今年度末までに各学科の3つのポリシーの見直しを行っており、来年度8月を目途に教養科目の再編、学修ポートフォリオの構築など、下記の実施計画により順次進めていく予定である。

●吉備国際大学ブランドビジョン

実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。

●吉備国際大学3つのポリシー

ディプロマポリシー（学位授与方針）

吉備国際大学では、建学の理念及び学則に定める教育の目的に基づき、次の「自ら学ぶ力」、「生きぬく力」、「可能性を信じる力」の“3つの力”を身につけ、各学科が定める教育課程により学修し卒業要件を満たした者に学位を授与します。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

ディプロマポリシーに掲げる“3つの力”を育成するために、基盤教育として位置づける全学共通教養科目と専門教育科目、その他必要とする科目を体系的に配置し、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、評価を行います。教育課程については、各科目の到達目標と学修の順次性や科目間の関連性などを示すカリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを明示し、一人ひとりの学生が目標とする資格取得や学びの分野をわかりやすく示します。

アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

求める人材像

1. 大学での学びに必要な基礎的な能力を持ち、本学の教育課程についてよく理解した上で、本学で学びたいと強く望んでいる人
2. わからないこと、未知なことに興味を持ち、その本質を追求しようと努力する人
3. 様々な知識と社会を生きぬく知恵を身につけて、社会で活躍したいと思っている人
4. 大学での学修や多様な人々との交流を通して自分の可能性を発見し、4年後に羽ばたきたいと意欲をもっている人

●ブランドビジョン実現と学修成果可視化の実施計画



研究活動について 自己点検・自己評価報告

研究担当副学長 河村顕治

中核センター研究推進部門では研究者が広く他の分野にも知識を広げるために業績や研究成果の公開を通して各自の研究内容を他の研究者に分かりやすく伝える活動を推進してきた。特に国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）知識基盤情報部が提供している researchmap サービスの活用はその基本となる。

文部科学省は、各大学に対し各教員が有する学位及び業績等に係わる「修学上の情報等」を公開するよう義務付けている。本学では、大学HP「教育情報の公開」と researchmap をリンクさせて公開している。researchmap では登録・更新の期限を定めていないが、本学では9月と3月の時点における業績等を更新することを義務付けている。個人研究費の配分に係る科研費および論文等の有無については、この JST の researchmap に登録された内容をもってチェックすることになっている。

令和元年度の科研費の審査からは審査の際に審査委員が researchmap 及び科学研究費助成事業データベース（KAKEN）の掲載情報を必要に応じて参照することができるようになった。これを受けて、本学においても researchmap に必要な情報を積極的に登録・更新するように求めた。

研究活動による発信活動として重要な位置を占めるのが日本学術振興会の科学研究費助成事業 HP における科研費データの公表である。その中に「科研費の配分結果（文部科学省公表資料）」が毎年公表され、「研究者が所属する研究機関別 採択件数・配分一覧（令和2年度）」には研究機関別の採択件数や配分額が採択件数順に公表されている。令和2年度の本学の採択件数は19件であり全1356機関中460位で、基盤研究Bが2件、基盤研究Cが12件採択されていた。

本学では科研費採択者には個人研究費を加算するほか、科研費が不採択になり研究費を希望する教員に対しては科研費審査結果の開示に基づき学内共同研究費を配分して翌年の科研費の獲得を目指している。令和2年度は3件の学内共同研究費の配分を行った。

令和2年度の科研費以外の補助、助成、受託、寄附は合計18件であった。

令和2年度研究部門自己点検・自己評価委員会総会が令和3年3月4日（木）に予定されており、学内共同研究費の報告および附属研究所からの発表が行われることになっている。また、学内共同研究費、科研費および科研費以外の補助、助成、受託、寄附については報告書の形でとりまとめが行われる予定である。

| 順位 | 機関名 | 科研費の配分結果 研究者が所属する研究機関別 採択件数・配分一覧（令和2年度） | | | | | | | | | | | 新規応募 (件) | 新規採択 (件) | 新規採択率 (%) |
|------------|---------------|---|-------------|-----------------|---------------|--------------|---------------|----------|----------|-----------|-----------|----------|-------------|-------------|--------------|
| | | 採択件数 (件) | 女性比率 (%) | 40歳未満 比率 (%) | 直接経費 (千円) | 間接経費 (千円) | 合計 (千円) | 基盤A | 基盤B | 基盤C | | | | | |
| 1 | 東京大学 | 4,202 | 15.9 | 38.5 | 17,345,795 | 5,203,739 | 22,549,534 | 320 | 820 | 982 | 3,864 | 1,511 | 39.1 | | |
| 2 | 京都大学 | 3,022 | 13.5 | 31.1 | 10,716,850 | 3,215,055 | 13,931,905 | 180 | 656 | 826 | 2,872 | 1,083 | 37.7 | | |
| 3 | 大阪大学 | 2,665 | 16.4 | 34.2 | 8,048,524 | 2,414,557 | 10,463,081 | 137 | 459 | 879 | 2,907 | 969 | 33.3 | | |
| 4 | 東北大学 | 2,525 | 13.9 | 35 | 7,497,750 | 2,249,325 | 9,747,075 | 147 | 472 | 789 | 2,716 | 859 | 31.6 | | |
| 5 | 九州大学 | 1,943 | 16 | 32.9 | 5,429,701 | 1,628,910 | 7,058,611 | 108 | 357 | 699 | 2,361 | 693 | 29.4 | | |
| 6 | 名古屋大学 | 1,819 | 17 | 30.2 | 6,176,580 | 1,852,974 | 8,029,554 | 93 | 359 | 595 | 2,104 | 645 | 30.7 | | |
| 7 | 北海道大学 | 1,719 | 13.2 | 28.8 | 4,692,066 | 1,407,620 | 6,099,686 | 77 | 361 | 628 | 1,854 | 568 | 30.6 | | |
| 8 | 筑波大学 | 1,357 | 18.9 | 28.4 | 3,204,100 | 961,230 | 4,165,330 | 49 | 264 | 524 | 1,518 | 456 | 30 | | |
| 9 | 広島大学 | 1,220 | 20.1 | 29.7 | 2,184,670 | 655,401 | 2,840,071 | 30 | 183 | 557 | 1,446 | 437 | 30.2 | | |
| 10 | 慶應義塾大学 | 1,187 | 22.6 | 34.9 | 2,815,700 | 844,710 | 3,660,410 | 39 | 186 | 469 | 1,090 | 427 | 39.2 | | |
| 11 | 神戸大学 | 1,163 | 17.5 | 27.6 | 2,481,700 | 744,510 | 3,226,210 | 36 | 203 | 503 | 1,243 | 377 | 30.3 | | |
| 12 | 早稲田大学 | 1,131 | 20.4 | 32.3 | 2,294,500 | 688,350 | 2,982,850 | 62 | 177 | 436 | 1,060 | 363 | 34.2 | | |
| 13 | 岡山大学 | 1,001 | 18.9 | 30.7 | 1,834,850 | 550,455 | 2,385,305 | 24 | 117 | 514 | 1,155 | 343 | 29.7 | | |
| 19 | 東京医科歯科大学 | 730 | 25.2 | 44 | 1,396,200 | 418,860 | 1,815,060 | 16 | 73 | 260 | 802 | 268 | 33.4 | | |
| 33 | 愛媛大学 | 470 | 20.9 | 24.3 | 862,700 | 258,810 | 1,121,510 | 17 | 59 | 255 | 583 | 176 | 30.2 | | |
| 138 | 岡山理科大学 | 115 | 8.7 | 28.7 | 134,700 | 40,410 | 175,110 | 0 | 10 | 73 | 183 | 36 | 19.7 | | |
| 169 | 川崎医科大学 | 95 | 6.3 | 21.1 | 141,300 | 42,390 | 183,690 | 1 | 9 | 62 | 144 | 32 | 22.2 | | |
| 178 | 武庫川女子短大 | 88 | 54.5 | 19.3 | 86,200 | 25,860 | 112,060 | 0 | 4 | 63 | 107 | 30 | 28 | | |
| 184 | 川崎医療福祉大学 | 82 | 37.8 | 39 | 82,700 | 24,810 | 107,510 | 0 | 5 | 39 | 101 | 25 | 24.8 | | |
| 210 | 高知工科大学 | 66 | 4.5 | 27.3 | 148,400 | 44,520 | 192,920 | 4 | 11 | 38 | 103 | 23 | 22.3 | | |
| 213 | 岡山県立大学 | 65 | 36.9 | 20 | 66,800 | 20,040 | 86,840 | 0 | 4 | 46 | 56 | 15 | 26.8 | | |
| 214 | 高知県立大学 | 65 | 75.4 | 13.8 | 67,500 | 20,250 | 87,750 | 0 | 8 | 40 | 62 | 25 | 40.3 | | |
| 262 | 鈴鹿医療科学大学 | 47 | 29.8 | 21.3 | 53,200 | 15,960 | 69,160 | 0 | 1 | 33 | 91 | 12 | 13.2 | | |
| 278 | 京都橘大学 | 44 | 31.8 | 29.5 | 47,900 | 14,370 | 62,270 | 0 | 4 | 23 | 50 | 16 | 32 | | |
| 297 | 兵庫医療大学 | 40 | 50 | 25 | 38,300 | 11,490 | 49,790 | 0 | 1 | 24 | 59 | 12 | 20.3 | | |
| 298 | 畿央大学 | 40 | 50 | 22.5 | 43,400 | 13,020 | 56,420 | 0 | 2 | 26 | 39 | 14 | 35.9 | | |
| 433 | 森ノ宮医療大学 | 21 | 38.1 | 52.4 | 19,900 | 5,970 | 25,870 | 0 | 0 | 10 | 67 | 13 | 19.4 | | |
| 444 | 桃山学院大学 | 20 | 35 | 25 | 21,400 | 6,420 | 27,820 | 0 | 2 | 12 | 42 | 11 | 26.2 | | |
| 445 | 四国大学 | 20 | 70 | 25 | 15,500 | 4,650 | 20,150 | 0 | 1 | 13 | 47 | 2 | 4.3 | | |
| 460 | 吉備国際大学 | 19 | 52.6 | 26.3 | 18,000 | 5,400 | 23,400 | 0 | 2 | 12 | 31 | 7 | 22.6 | | |
| 488 | 豊橋創造大学 | 17 | 35.3 | 23.5 | 23,300 | 6,990 | 30,290 | 0 | 2 | 6 | 23 | 6 | 26.1 | | |
| 504 | 星城大学 | 16 | 18.8 | 25 | 18,000 | 5,400 | 23,400 | 0 | 3 | 6 | 25 | 3 | 12 | | |
| 522 | 健康科学大学 | 15 | 26.7 | 53.3 | 14,400 | 4,320 | 18,720 | 0 | 0 | 5 | 17 | 7 | 41.2 | | |
| 526 | 九州保健福祉大学 | 15 | 33.3 | 13.3 | 12,100 | 3,630 | 15,730 | 0 | 0 | 13 | 45 | 2 | 4.4 | | |
| 547 | ノートルダム清心女子大 | 14 | 50 | 14.3 | 15,000 | 4,500 | 19,500 | 0 | 1 | 10 | 11 | 5 | 45.5 | | |
| 563 | 広島文化学園大学 | 13 | 23.1 | 53.8 | 11,900 | 3,570 | 15,470 | 0 | 0 | 4 | 29 | 7 | 24.1 | | |
| 591 | 藍野大学 | 12 | 50 | 25 | 12,600 | 3,780 | 16,380 | 0 | 0 | 6 | 70 | 6 | 8.6 | | |
| 593 | 姫路獨協大学 | 12 | 33.3 | 33.3 | 8,800 | 2,640 | 11,440 | 0 | 0 | 7 | 53 | 2 | 3.8 | | |
| 594 | 環太平洋大学 | 12 | 25 | 41.7 | 7,500 | 2,250 | 9,750 | 0 | 0 | 6 | 33 | 5 | 15.2 | | |
| 650 | 山陽学園大学 | 10 | 80 | 10 | 9,000 | 2,700 | 11,700 | 0 | 0 | 8 | 9 | 4 | 44.4 | | |
| 651 | 広島女学院大学 | 10 | 60 | 40 | 15,400 | 4,620 | 20,020 | 0 | 1 | 4 | 20 | 3 | 15 | | |
| 652 | 武庫川女子短大 | 10 | 60 | 20 | 7,900 | 2,370 | 10,270 | 0 | 1 | 7 | 9 | 0 | 0 | | |
| 706 | 九州看護福祉大学 | 8 | 37.5 | 62.5 | 12,800 | 3,840 | 16,640 | 0 | 1 | 2 | 24 | 4 | 16.7 | | |
| 778 | 桃山学院教育大学 | 6 | 33.3 | 50 | 5,000 | 1,500 | 6,500 | 0 | 0 | 2 | 9 | 2 | 22.2 | | |
| 779 | 神戸山手大学 | 6 | 16.7 | 16.7 | 5,900 | 1,770 | 7,670 | 0 | 0 | 4 | 9 | 3 | 33.3 | | |
| 780 | 広島文教大学 | 6 | 50 | 50 | 5,100 | 1,530 | 6,630 | 0 | 0 | 3 | 6 | 3 | 50 | | |
| 815 | 神戸医療福祉大学 | 5 | 20 | 60 | 3,600 | 1,080 | 4,680 | 0 | 0 | 2 | 5 | 2 | 40 | | |
| 816 | 姫路大学 | 5 | 80 | 0 | 4,700 | 1,410 | 6,110 | 0 | 0 | 5 | 18 | 2 | 11.1 | | |
| 817 | 岡山商科大学 | 5 | 0 | 60 | 3,700 | 1,110 | 4,810 | 0 | 0 | 2 | 16 | 4 | 25 | | |
| 818 | 中国学園大学 | 5 | 20 | 20 | 5,400 | 1,620 | 7,020 | 0 | 1 | 3 | 5 | 0 | 0 | | |
| 819 | 徳山大学 | 5 | 20 | 60 | 4,500 | 1,350 | 5,850 | 0 | 0 | 2 | 9 | 1 | 11.1 | | |
| 870 | 大阪行岡医療大学 | 4 | 50 | 50 | 4,200 | 1,260 | 5,460 | 0 | 0 | 1 | 6 | 2 | 33.3 | | |
| 874 | 福山平成大学 | 4 | 50 | 0 | 1,900 | 570 | 2,470 | 0 | 0 | 3 | 28 | 1 | 3.6 | | |
| 953 | 宝塚医療大学 | 3 | 0 | 66.7 | 3,500 | 1,050 | 4,550 | 0 | 0 | 0 | 10 | 1 | 10 | | |
| 956 | 四国学院大学 | 3 | 33.3 | 33.3 | 2,000 | 600 | 2,600 | 0 | 0 | 3 | 8 | 1 | 12.5 | | |
| 1056 | 鳥取看護大学 | 2 | 50 | 0 | 1,400 | 420 | 1,820 | 0 | 0 | 2 | 7 | 0 | 0 | | |
| 1057 | くらしき作陽大学 | 2 | 0 | 100 | 1,700 | 510 | 2,210 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | | |
| 1058 | 美作大学 | 2 | 50 | 50 | 1,400 | 420 | 1,820 | 0 | 0 | 1 | 5 | 0 | 0 | | |
| 1060 | 広島国際学院大学 | 2 | 0 | 0 | 4,700 | 1,410 | 6,110 | 0 | 1 | 1 | 6 | 0 | 0 | | |
| 1063 | 高松大学 | 2 | 50 | 100 | 2,000 | 600 | 2,600 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 33.3 | | |
| 1184 | 倉敷芸術科学大学 | 1 | 0 | 0 | 1,100 | 330 | 1,430 | 0 | 0 | 1 | 32 | 0 | 0 | | |
| 1185 | 岡山学院大学 | 1 | 100 | 100 | 900 | 270 | 1,170 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 100 | | |
| 1248 | 作陽短期大学 | 1 | 0 | 0 | 700 | 210 | 910 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | - | | |
| 1249 | 山陽学園短期大学 | 1 | 100 | 0 | 2,300 | 690 | 2,990 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 50 | | |
| 1250 | 川崎医療短期大学 | 1 | 100 | 0 | 400 | 120 | 520 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | | |
| 1252 | 広島文化学園短期大学 | 1 | 0 | 100 | 600 | 180 | 780 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | | |
| 1356 | 株式会社膠原病研究所 | 1 | 0 | 100 | 1,000 | 300 | 1,300 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | | |

学生活動の支援について 自己点検・自己評価報告

学生部長 前嶋英輝

本年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）対策の経緯と学生支援に分けて報告する。

1 新型コロナウイルス対応に関する経緯と今後の対策

- 1 月末、武漢での感染発生情報確認
- 2 月～3 月、試験後の部活動への注意
- 3 月末、授業開始5月7日に合わせて部活動の停止、新入生への対応、各学科からの連絡依頼
- 4 月2日、新型コロナウイルスへの注意についてガールーンで連絡
- 4 月9日、保護者への連絡（HP:対策と支援）
- 4 月、各種学生支援の対応と連絡、学生の自主的アンケートを実施、健康観察の連絡
- 5 月、オンライン授業期間の注意、健康観察の継続注意
- 6 月、学生支援緊急支援金の対応、授業料減免に関する連絡、対面授業への準備、移動の注意
- 6 月22日、対面授業開始、健康観察、マスク消毒液など対応、部活動の開始への安全確認
- 7 月23日、学生1名 PCR 検査の結果陽性と判明、保健所と協力して対応
- 8 月～9 月、休暇中の活動と移動に関する注意
- 10 月～11 月、健康観察、対面授業への注意、検温機の設置、留学生の入国支援
- 12 月以降、感染拡大への注意と移動自粛依頼、新入留学生の入国完了

学生課でマスクを準備し、対面授業でのマスクの着用率は概ね良好で授業に支障は見られなかったが、食事の時などに対面での会話などが見られた。今後も健康観察と3密回避の呼びかけが必要である。また PCR 検査陽性判定者に対する差別意識への注意を行った。

2 学生支援

【学生課】

学生支援については、窓口業務、奨学金対応など通常業務は円滑であった。部活動についてはコロナ対応で落ち込んだ活動内容を活性化する必要がある。今後学生とのミーティングで対応していきたい。交通事故については、道路での指導やガードマン、警察との連携により優れた対応ができた。

1) 窓口業務

留学生が増加しているため各種証明書の発行などの手続きを窓口で丁寧に支援を行った。またコロナ対応を含む日常生活の小さな相談にも手厚い対応を行っている。奨学金等の支援について、学生支援機構や学園の奨学金（含：コロナ対策）をはじめ各種奨学金の情報を提供した。

2) 学友会活動の支援

①学生執行委員会

年間を通じて、コロナ対策の相談を行った。現在、次年度に向けてのミーティングを行っている。コロナ対策の一環として執行委員会広報部を作り、VR「朝霧けい」による広報を企画している。

②体育部会

コロナ対応指導、対外試合参加費・旅費等の支援を行った。

③文化部会

新規活動支援、部活動費援助、部員数を増やすための広報支援を行った。

④伊賀祭実行委員会

年間計画から企画まで行なったが学園祭は9月時点で中止とし、次年度に引き継ぎした。

3) 学友会関係行事支援

スポーツ大会（5月）伊賀祭（11月）は中止した。部活動紹介（7月）はビデオを併用して開催し、入部希望を学生課で仲介した。クリスマスイルミネーション設置を行い学友会委員の年間総括を行なった。

4) 交通安全指導

毎週火・金曜日に道路での指導を行い、高梁署にも週に1回以上の巡回を依頼している。

5) 学生相談

ほっとルームでの相談や保健室での体調不良に対する対応が緊密な連携で実施できている。窓口・HPメール受付による面接相談にも迅速かつ丁寧に対応して早期解決ができた。

ほっとルーム 利用者 37名（延べ174名）

面談・心理検査等実施 利用者 24名（延べ78名）

保健室利用者 延べ53名（令和3年1月8日現在）

新入生対象のUPI検査については、6月対面授業開始時に実施した。検査結果で対象となった学生のリストを各チューターへ提示し、教員と連携し必要に応じて健康管理センターでの面談の実施や経過観察等を行っている。

UPI検査結果 面談対象学生 41名（合計高値、希死念慮、てんかん可能性、相談希望）
気にかけておくべき学生 93名

【留学生課】

1) 受入状況

過去5年間の留学生数（正規学部生）の推移（5/1現在）

2016年…165名（中国=121名、韓国=34名、インドネシア=5名、ベトナム=4名、ロシア=1名）

2017年…150名（中国=79名、韓国=36名、インドネシア=15名、ベトナム=17名、スリランカ=2名、ロシア=1名）

2018年…181名（中国=84名、韓国=35名、インドネシア=33名、ベトナム=24名、スリランカ=5名）

2019年…257名（中国=86名、韓国=47名、インドネシア=61名、ベトナム=47名、スリランカ=15名、カンボジア=1名）

2020年…309名（中国=86名、韓国=41名、インドネシア=76名、ベトナム=83名、スリランカ=23名）

※2021年1月5日現在

【正規学部生】286名（中国=77名、韓国=37名、インドネシア=74名、ベトナム=77名、スリランカ=21名）

【正規大学院生】15名（中国6名、インドネシア7名、スリランカ2名）

【別科生】99名（中国=15名、インドネシア=19名、ベトナム=26名、スリランカ=31名、カンボジア=8名）

2) 相談体制

留学生が大学生活を送る上で、日本語が未熟なことによって発生する様々なトラブルや問題等について、日本語に習熟した留学生が母国語で相談を受け付け、援助・対処をすることにより、快適な留学生活を送れるように、アジア村内に「留学生相談コーナー」を設けている。2020年度はコロナ禍によって春学期は開設できなかったが、秋学期12月から主にインドネシア、ベトナムの留学生を対象に実施した。

中国・韓国・スリランカ・その他の留学生には、留学生課のスタッフで対応している。

日本語教育について 自己点検・自己評価報告

日本語教育部会部会長 大下 朋子

●令和2年度 留学生に対する日本語教育の現状と課題

1. 今年度の日本語教育の現状

〈日本語関連科目と卒業要件〉

■ 日本語関連科目Ⅰ(1年次開講)：必修6科目。日本語能力試験(以下 JLPT) N2合格を目指す。

■ 日本語関連科目Ⅱ(2年次開講)：選択必修6科目。JLPTN1合格を目指す。

〔卒業要件〕 必修6科目12単位+選択必修2科目4単位以上→16単位以上を修得すること。

■ 到達目標・・・卒業までに日本語能力試験 N2に全員合格！

〈日本語関連科目Ⅰ・Ⅱの指導体制〉

現在、常勤・非常勤合わせて9名が日本語関連科目Ⅰ・Ⅱを担当。

■ 日本語関連科目Ⅰ

・必修科目(1年生、再履修生(2~4年生)、科目等履修生)

履修者数： 春学期 約160名 / 秋学期 約160名

・年間2回(春期と秋期)のプレイスメントテストを実施。クラス編成は習熟度別。

1年生・・・1~5クラス / 2年生以上の再履修クラス・・・1クラス ⇒ 計6クラス編成

〈授業内容〉 N2合格を目指す。

■ 日本語関連科目Ⅱ

・選択必修(2年生以上の N2合格者、2・3年編入生)

〈授業内容〉 N1対策合格を目指す。

・春学期は、新型コロナのためオンライン授業でスタート。対面授業が再開した6月22日(月)の時点で、まだ、入国できない留学生(中国、韓国)が20名を越えていたため、海外で受講する学生の不利益がないよう、日本語関連科目Ⅰ・Ⅱおよび吉備国際大から世界への全科目において、オンライン授業を継続。

・秋学期は、コロナによる渡航制限のため新生と在校生計42名が入国できなかったため、関連科目Ⅰは対面クラス(4クラス)と海外オンラインクラス(2クラス)に分け開講。

2. 令和2年度 JLPTN1・N2の取得状況(2018~2020までの推移)【規程対象者のみ】

■関連科目Ⅰの単位認定をN2の合否に紐付け、N2に合格しなければ、関連科目Ⅱを履修できないという規程を適用して5年目を迎え、N2合格に向け努力する雰囲気になってきている。

2016年度のN2取得率は4年生30.7%、3年生27.0%であったのに比べ、近年の取得率は高くなっている。

【N2（またはN1）取得率】

●2018年度

4年生 70.6% (17名中12名合格)

3年生 90.9% (33名中30名合格)

●2019年度

4年生 97.4% (38名中35名合格)

3年生 90.9% (33名中30名合格)

●2020年度

4年生 80.0% (25名中20名合格)

3年生 80.0% (50名中40名合格)

- ・今年度は、第1回 JLPT（7月実施予定）が中止となった。第2回 JLPT は実施され、N2の規程対象者でN2を取得していない4年後期の4名のうち1名が合格。残り3名が、2月下旬に学内試験を受験予定。

3. その他の対応

- ① 第1回 JLPTN2 代替試験の実施 (R2.8.21) ……コロナ禍で第1回 JLPT（7月実施予定）中止。関連科目 I の単位認定に影響することから、本試験に替わる代替試験を学内で実施。関連科目 I 履修生約130名が受験（海外にいる学生も Teams でオンライン受験）し、20名が合格。関連科目 I の科目担当者が60点以上で成績評価した科目を単位認定。
- ② 救済テストの実施 ……N2未取得者に対して、春学期4年後期1名（R2.9末）にN2レベルの試験を実施。秋学期は4年後期4名が2月末に受験予定。
- ③ 第2回 JLPT に向けた日本語勉強会の実施 (R2.11) ……学生課と連携し、試験前1ヶ月間、N2未取得者を対象に学生主導の勉強会を実施。N2に合格した2、3年生を中心に、文字語彙、読解などN2対策の問題に取り組んだ。受講生からは、試験前の対策として、雰囲気も良く、有意義な勉強会だったと好評であった。

図書館について 自己点検・自己評価報告

図書館長 栗田 喜勝

今日大学図書館を巡る環境は変化しており、教育活動に関しては学生のアクティブラーニング支援の場として、インターネット環境への対応や e-Learning・情報リテラシー教育等への関与、ラーニングコモンズの取り組み等が求められている。また、研究活動に関しては研究者に対する学術雑誌、専門図書、その他必要な情報へのアクセスの確保、機関リポジトリ等による研究者間の学術情報の蓄積や共有のための e-Science システムの構築等が求められている。

このような状況にあつて、本学の附属図書館は「大学の教育、研究に必要な図書及びその他の資料を収集管理し、教職員並びに学生の利用に供する」ことを目的として、その運営に関する重要事項を審議するため「図書館運営・研究紀要編集委員会」を設置し、教育・研究活動に資する種々の支援体制を整備している。

1. 図書・学術雑誌等の整備状況

2019年度の蔵書冊数は246,824冊(内洋書37,520冊)、年間受け入れ図書2,168冊であり、学術雑誌については所蔵雑誌種類840種(内外国雑誌395種)年間受け入れ雑誌160種(内外国雑誌14種)である。蔵書冊数としては岡山県内の私立大学14校中、5位に位置づけられ、学生一人当たりの蔵書冊数は125冊となっている。購入図書の選定にあたっては教員推薦、学生からの購入希望(リクエスト)を受け付けており、選書内容の審議や重複購入の防止チェックを行っているが、教育研究に資する図書の充実・教育カリキュラムに対応した図書文献の収集に努めている。また、図書の除籍や雑誌の購入継続・廃棄等については図書館運営・研究紀要編集委員会において審議されている。

【自己評価】

各学部・学科・研究科の専門領域の特性に応じて適切な量と質を確保していることは評価できる。また、図書の除籍や雑誌の購入継続・廃棄等における図書館運営・研究紀要編集委員会のチェック機能も有効に機能しており評価できる。

2. 電子資料の整備状況

2020年度の電子書籍総タイトル数は606であり、eBook所蔵タイトル数は66タイトルである。eBookの利用件数については、2018年度58件、2019年度61件であったが、2020年度はコロナ禍の影響もあり、506件と利用件数が増加している。データベース・電子ジャーナルの総タイトル数は21,354であり、データベースの利用件数については、医学中央雑誌3,184件、ProQuest2,080件、朝日新聞縮刷版2,101件、メディカルオンライン1,748件であった。電子書籍・eBookの選定については、分類別利用統計を参考に整備している。また、冊子体の学術雑誌については、WEBサイトで閲覧可能なものは電子ジャーナル移行を検討している。電子資料の新規選定、継続購読については、図書館運営・研究紀要編集委員会に諮り検討を行っている。

【自己評価】

インターネット環境への対応や e-Learning・情報リテラシー教育等へ積極的に取り組んでいることは評価できるが、限られた予算の中で占める割合が年々増加しており、今後は利用状況を確認しながらニーズに沿った適正整備が求められる。

3. 研究紀要の取り扱い状況

研究紀要の取り扱いについては、例年 30 件前後の投稿申し込みがあるが、今年度はコロナ禍の影響による投稿辞退が複数あり、掲載論文数は 19 件(申込数 26 件)であった。また、今年度は、図書館運営・研究紀要編集委員会の審議(定例年 2 回開催)により、「研究紀要投稿要領」ならびに関連書式の改訂(2021 年 4 月施行)を行い、目的の明確化とともに本学教員に限られていた投稿資格を「学生」にも条件付き(質的担保の確保)で門戸を開き、研究水準の向上と教育の質的充実に資する研究の奨励を行うこととした。

【自己評価】

研究紀要の投稿資格の対象を教員のみならず学生に拡大したことは、大学教育の質的充実に寄与する取り組みであり評価できる。今後一層の研究・教育活動成果の公表が求められる。

4. 機器・設備運用面の整備状況

図書館のスペース(面積)としては、高梁キャンパス(2,209 m²・342 席)、岡山キャンパス(257 m²・48 席)、南あわじ志知キャンパス(180 m²・30 席)であり、高梁キャンパスにはラーニングコモンズを併設し、グループ学修の共有スペースや DVD 等の映像、スクリーン、PC 等を使った学修を行うことができる。また、開館時間は平日 9:00~20:00(学生休業期間中は 9:00~17:00)、土曜日 9:00~17:00(学生休業中は閉館)であるが、定期試験前や国家試験の時期には適宜開館時間の延長を行っている。また、通信教育部のスクーリング時やオープンキャンパス時には特別開館を行っている。

情報機器としては、OPAC(高梁 6、岡山 2、南あわじ志知 2)、ノート PC(高梁 37、岡山 4、南あわじ志知 1)、タブレット(高梁 10)、DVD(高梁 3、岡山 2、南あわじ志知 2)、モニター(高梁 3)、ビッグパッド(高梁 1)があり、学生の使用頻度も多く、順次増設予定である。その他、ブランケット、卓上サイドパネル(個人用間仕切り)の使用については学生の要望に対応している。

【自己評価】

開館時間については学生学修ニーズに配慮した取り組みであり評価できる。また、情報機器については、学生の利用が多く、今後の整備が望まれる。

5. 図書館利用の状況

2019 年度の総入館者数は 74,559 名(高梁 2 号館 18,333 名・ラーニングコモンズ 32,226 名、高梁 10 号館 21,053 名、岡山 1,937 名、南あわじ志知 1,010 名)であり、図書の総貸出冊数は 3,925 点であった。図書館は 5 か所に分散設置されており、蔵書検索はインターネットによりアクセス検索が可能で、各キャンパス間の相互利用ができる。また、学生の利用促進を図るために、①新入生に対する「図書館ガイド」の配布、②授業の一環として基本的な図書館利用方法、文献の探し方、情緒検索法、データベース等に関する案内の複数回実施、③図書館セルフツアー、先生の選んだイチ押し本の紹介、読書パレード・年間貸出し MVP 賞の贈呈等、学生参加型の各種の図書館企画を実施している。また、図書館 HP への新刊図書案内、学生向け情報システム(ユニバーサルパスポート)への新刊文芸

書案内や図書館カウンター付近への集中配架等の利用案内の見直しにより、文芸書の貸出冊数が増加している(2019年150件、2020年189件)。また、学術機関リポジトリの扱いについては「学樹機関リポジトリ委員会(定例年2回開催)により審議されるが、利用については、アクセス数(2017年度11,831件、2018年度17,745件、2019年度19,001件)、ダウンロード数(2017年度49,905件、2018年度115,992件、2019年度140,618件)と年々増加している。

【自己評価】

図書館の利用促進のための種々の取り組みは評価できる。今後図書館学生サポーターの活動の一層の活性化により、学生主体の新たなアイデアを募り、より身近な学習支援の場を提供する必要がある。

6. 学外図書館等との連携状況

岡山県大学図書館協議会加盟により、県内の他大学図書館との相互利用が可能となっている。2019年度の図書貸出冊数は126冊、借受冊数は131冊であり、文献複写については受付708件、依頼155件であった。さらに、私立大学図書館協会、中四国地区大学図書館協議会にも加盟しており、他大学図書館との情報共有に努めている。また、地元高梁市立図書館とも2018年3月より相互貸借を行っており、本学図書館から累計227冊の図書の貸出を行っているが、今年度はコロナ禍の影響で運用を停止している。

【自己評価】

他大学図書館との連携や地域の公立図書館との連携は評価できる。今後一層の交流連携が望まれる。

【今後の課題】

本学の附属図書館として、教育・研究に資するための種々の取り組みを行っていることは評価できる。一方で、図書館システムリプレイス(セキュリティ対策の強化、電子資料の管理向上、業務の効率化・サービスの高度化、学術情報の公開促進、各キャンパス間での情報整備、閲覧席の整備等)や魅力ある利用環境づくりへの一層の努力が必要である。

情報教育について 自己点検・自己評価報告

情報教育センター分室長 佐藤 匡

■情報教育に関して、教育手法・コンテンツ・助成金の検討

(全学共通の教養科目総合A群 情報教育科目 情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ関連)

情報処理Ⅰ：Windows と Office を題材に卒業までに必要な最低限のコンピュータスキルを学ぶ科目
(各学科からの教員が担当することで、必要なスキルを示すことができる)

情報処理Ⅱ…情報処理Ⅰよりも高度な内容で、情報通信技術を使い情報社会で生きるために役立つ知識や技能を身につけるもの。
(情報処理系教員が担当する)

について、教科書の選定など種々の検討を行い、全学教養教育機構情報部門へ提案。

2019年度までは情報処理Ⅰは春学期開講、情報処理Ⅱは秋学期開講だったが、2020年度はコロナ禍のため情報処理Ⅰは秋学期開講とした。

■教育の情報化に関して、調査、企画、提案

文部科学省の高大接続（高校生の情報リテラシー授業が必修になる）について検討。

また、学習指導要領の改訂に伴って、小学生が流れ図やプログラミングを授業で経験する。

その年代の生徒が大学生になるので、大学の情報教育との連携をどうとすべきか検討中。

2021年度入学生からはPC必携をお願いします。2022年度からはPC必携化する。

(機種、OSの選定、必携化のための教育コンテンツなどを検討中)

情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱにも関連するが、今後の情報教育にAI（人工知能）に関係する内容を盛り込むことも検討課題とした。

■PC必携化

PC必携化に伴って情報処理室の設備更新をどうするか、また、PC必携化のために一般教室での設備などについて議論をおこなった。

また、導入が決まっている岡山県内中学3年生へ向けての案内

(<https://www.pref.okayama.jp/page/676344.html>) 等について調査した。

■吉備国際大学ICT活用ガイドブック 学生編・教員編の発行

次年度版の吉備国際大学ICT活用ガイドブック 学生編・教員編を大幅に改訂する作業中。

このガイドブックは、情報教育センター、スチューデントサポートセンター、順正学園情報システム課が合同で制作しているもので、63ページほどの冊子。

教員編はガルーンにアップロードされている。学生版についても、情報技術の進展に対応して、pdf版としてユニバーサルパスポートに掲示する予定である。(更新の頻度については検討中)

■情報システム課との連携

2019年6月から定期的に会合を開催している。ここでは、大学のネットワークの運用状況やセキュリティその他情報共有をしておいた方がいい案件を議論している。

2020年度は、オンライン授業準備のために Teams の取扱マニュアル(Teams 内吉備国際大学チームにて公開中)、Q&A、アドバイス、トラブルシューティングなどにも協力した。

■その他

少人数の情報教育センターのため、活動には限界がある。2020年度は、コロナ禍にあって、各メンバー自身の授業を対応させるのが精一杯だった感は否めない。

PC必携化についても情報教育センターだけでなく、教務、情報システム課で対応を検討する必要あり（検討中）。

就職活動について 自己点検・自己評価報告

キャリアサポートセンター長 加藤 博仁

2020 年度（令和 2 年度）就職の結果

1) 2018 年度～2021 年度の採用スケジュール

就職・採用活動のスケジュールについては、2018 年 10 月に日本経済団体連合会（経団連）がルール廃止を発表して 2 年が経過しているが、現行スケジュールを維持した形で進んでいる。本学では、「キャリア開発」の授業を設け、1 年生よりキャリア形成の重要性を喚起し、3 年生では実際的な就職活動の方法を教授している。2019 年度就職率は 98% であり、近年高い就職率を維持してきたが、2020 年度は新型コロナの影響のため就職活動に大きな変化があった。キャリア開発の講義についてもオンライン講義となり、計画通りに進めることができなかった。また、3 月の広報活動期も大手就職サイトの対面の合同説明会などが中止となり、厳しい現状となった。そのため、学内での単独企業説明会の実施などを通して学生の就職先確保につなげ、また、キャリアサポートセンターに寄せられた求人情報の提供や学内での企業採用試験を実施し、さらに、個人面談予約をネットから申し込みができるようにするなど個別就職相談や面接練習なども積極的に行い、サポートに取り組んできた。企業・医療福祉の採用担当者と本学教職員との採用情報交換会である「順正学園就職懇談会」が 2020 年度は中止となったため、採用者向けパンフレットを送付するなど本学の情報発信に努めてきた。コロナ禍の中で通常通りとはいかなかったが、県内の大学の就職担当者の研究会に参加し重要事項の協議や情報交換を行い、学内ではキャリアサポート委員会を開催し各学科に情報を提供し、就職支援に役立てようとしてきた。

| | 3 年生 | | | | 4 年生 | | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|---------|
| | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | |
| 2021 年度卒業 | 準備期間 | | 広報活動 | | 採用活動 | | | | | | | | | | | | 3 年生 |
| 2020 年度卒業 | 準備期間 | | 広報活動 | | 採用活動 | | | | | | | | | | | | 4 年生 |
| 2019 年度卒業 | 準備期間 | | 広報活動 | | 採用活動 | | | | | | | | | | | | 卒業 1 年目 |
| 2018 年度卒業 | 準備期間 | | 広報活動 | | 採用活動 | | | | | | | | | | | | 卒業 2 年目 |

2) 2020 年度（令和 2 年度）の取り組み

令和 2 年 9 月 4 日 順正学園就職懇談会（岡山プラザホテル）（コロナのため中止）
 令和 2 年 11 月 17 日 吉備国際大学学内インターンシップ説明会・業界研究会（高梁 C）
 岡山県中小企業団体中央会協力：参加事業所 10 社 参加学生 65 名
 令和 2 年 12 月 5 日 キャリアアップセミナー（高梁 C） 定員 24 名、参加学生 17 名
 令和 2 年 12 月 14 日 公務員ガイダンス① 「外部講師行政の話」 株式会社 JEI 協同開催
 令和 2 年 12 月 15 日 就活準備チェックリスト確認講座 ①13:30～ ②15:00～ 2 回開催
 令和 2 年 12 月 18 日 留学生対象就職ガイダンス
 令和 2 年 12 月 21 日 公務員ガイダンス②合格対策ガイダンス 株式会社 JEI 協同開催

| | |
|-------------|---|
| 令和3年1月18日 | 公務員ガイダンス③ 株式会社 JEI 協同開催 マナー講座 |
| 令和3年2月8日 | 就職準備編 (ケラフロント大阪) 参加希望者は志知 C 送迎用バスを手配 (調整中) |
| 令和3年3月1日 | MEGAWEB 就職 EXPOJAPAN WEB 開催 |
| 令和3年3月2日 | 合同企業説明会広島 (広島県立広島産業会館) 定員予約 25 名 (送迎バスを手配、高梁駅→岡山駅→会場) |
| 令和3年3月4日 | 合同企業説明会大阪 (インテックス大阪) 定員予約 25 名 (送迎バスを手配、高梁駅→岡山駅→会場) 志知 C 送迎用バスを手配 (調整中) |
| 令和3年3月5日 | 岡山県合同企業説明会 (コンベックス岡山) 定員 14 名 (送迎バスを手配、高梁駅→岡山駅→会場) |
| 令和3年3月4日、5日 | 岡山県合同企業説明会 (WEB 開催) |
| 令和2年3月12日 | アジア地域出身留学生対象企業説明会 (コンベンションセンター) ※参加希望学生は全て高梁 C より送迎用バスを手配 |

※その他、随時、学内で単独企業説明会・選考会を開催している。

看護学科 連携協力病院等就職説明会 (高梁 C) 検討中

吉備国際大学 PT・OT 学内就職面談会 (高梁 C) 検討中

吉備国際大学地域創成農学部学内就職面談会 (南あわじ志知 C) 検討中

キャリアサポートの今後の課題

今後、キャリアサポートセンター職員並びにキャリアサポート委員会を中心として、社会情勢を分析し、学生の就職ニーズの把握に努め、また他大学の取り組みを参考としながら、就職率 100%を目指し、さらに個々の学生が自己実現に向けての就職先を確保できるよう、次の課題を提示する。

①学生の就職意識を高めるために、就職関連行事等の周知を徹底し、学生が積極的に動けるよう支援する。特に、合同就職説明会の日程等の周知を徹底し、多数の学生を動員する。

②就職支援に関わる授業「キャリア開発Ⅱ」の内容をより実践的にし、全学科の3年生が履修できるようにする。

③低学年からも参加できる就職ガイダンスの日程を作成し、学生の就職意識を高める。

④低学年からの学修習慣の対策として、kiui ドリルの利用を活性化する。

⑤国家試験の不合格者に対する就職支援を検討する必要があり、学科との話し合いを強化する。

⑥グループディスカッションによる就職試験が増加しており、キャリアアップセミナー強化を検討する。

⑦留学生の日本での就職希望者に対して、有用な情報提供及びきめ細かいガイダンスを行う。

⑧実就職率の向上のために、ゼミ教員の協力を得て帰国した留学生の就職状況を把握する。

⑨インターンシップ情報等を学生へ周知していく。

入試広報活動について 自己点検・自己評価報告

法人本部入試広報室長 的場嘉男

コロナ禍における主な入試広報活動について

○情報発信

対面での広報活動が積極的に行えないこともあり、様々な情報発信を積極的に行った。特に費用面での不安を払拭できるように減免制度等については積極的に行った。

・学科紹介動画作成

学科からの協力を得て学科紹介動画を作成し YouTube 及び HP に公開

・学科チラシ作成

資料請求者へ学科チラシ等を同封した DM を発送

・yahoo! トップページバナー広告（農学部）

・志望校ターゲティング WEB 広告

各学科の競合校をリストアップし、その競合校を志望しているターゲットを絞り込み、WEB 追跡広告を行った。

・減免制度チラシ作成

新型コロナウイルス感染症の影響で、経済的に不安を抱える受験生、保護者に対し本学の減免制度や特待生制度をお知らせするチラシを作成し、DMやWEB広告で情報発信

・入学検定料免除

全入試区分を対象とした入学検定料免除をWEB広告中心に情報発信

○オープンキャンパス、学校見学会

例年、5月、6月、7月、8月、9月、11月、12月、2月とオープンキャンパス、学校見学会を開催していたが、今年度については、5月は緊急事態宣言中であり開催を中止した。6月については初めての試みとしてWEB個別相談会として開催し参加は15名であった。その参加者の約9割が現在出願に結び付いている。

7月以降は参加者、教職員の安全を第一に考え、コロナ対策をしっかりと講じた上で規模を縮小して開催した。主な対策としては以下のとおりである。

開催時間を11:00～15:30から13:00～15:30として短縮、事前予約制として参加人数を事前に把握、三密を避けるために無料送迎バス、学食体験の中止、検温、消毒、マスク着用、

フェイスシールド着用、飛沫ボード設置、オンラインオープンキャンパスの同時開催（学科説明のみ）

参加者報告

7月12日（日）

| | | |
|---------|---------------|----------------------|
| 受験生・高校生 | 117名（昨年 259名） | 114名にはオンライン参加の19名を含む |
| 保護者等 | 90名（昨年 211名） | |
| 計 | 207名（昨年 470名） | |

8月22日（土）

| | | |
|---------|---------------|----------------|
| 受験生・高校生 | 162名（昨年 293名） | オンライン参加の28名を含む |
| 保護者等 | 111名（昨年 242名） | |
| 計 | 273名（昨年 535名） | |

9月20日（日）

| | | |
|---------|---------------|---------------|
| 受験生・高校生 | 93名（昨年 159名） | オンライン参加の4名を含む |
| 保護者等 | 81名（昨年 137名） | |
| 計 | 174名（昨年 296名） | |

また、オープンキャンパスの様子を動画撮影し、HP トップ動画で流しコロナ対策を講じて安心・安全に開催していることを積極的にPRしている。

